

杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム

ぐんぐん伸びる すぎなみの子

～かかわる つながる ふかまる育ちと学び～



平成26年2月

 杉並区教育委員会

はじめに

杉並区教育委員会教育長 井出隆安

人は誰もがより良く生きたいという願いをもっています。そうした願いは、幼児期にあつては未分化で具体的なものではありませんが、幼児は幼児なりに自分の意志や意欲をもって日々を生きています。

乳幼児期は心情・意欲・態度や基本的な生活習慣など生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。また幼児期に入ると、生活の場や自分を取り巻く他者との関係、興味や関心の対象などが急激に広がり、依存から自立に向かうようになります。子どもたちはこのような発達過程に沿って、その時期にふさわしい豊かな遊びを通して、楽しさから生まれる意欲や好奇心、熱中する集中心、人との関わりの中で生まれた気付きなどを学んでいます。こうした生きる力の基礎となる乳幼児期の学びの成果を、小学校における各教科等の授業を通じた学習へ発展させていかななくてはなりません。就学前教育から小学校教育へ切れ目のないようにつなげ、就学前の学びを小学校で確実に受け止め更に伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育成するためには、教育ビジョン2012の示す発達や学びの連続性をもった指導が必要です。

本書は、こうした課題に応じて、就学前教育と小学校教育の円滑な接続を図るための適切な教育課程・保育課程を編成し実施するとともに、就学前教育施設と小学校の連携の具体的な活動を実施する上での参考資料として編集したものです。区内の就学前教育施設と小学校において本書が積極的に活用されるとともに、本書を超える豊かな実践が行われることにより、杉並区の就学前教育と小学校教育が一層充実し、子どもたちの健やかな成長が実現することを期待しています。

生きた保幼小連携のプログラムになりますように

(仮称) 杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会委員長

聖心女子大学文学部教授 河邊貴子

現在、わが国の5歳児のほとんどが幼稚園や保育園等の就学前施設に通っています。もし日本の子どもが初めての集団生活を小学校から始めるとしたら、小学校は現在のような教育課程を編成することはできないでしょう。幼児は園生活を通して他者と暮らすことの素晴らしさや生活に必要な基本的なルールを身に付け、友達との遊びを通して、目的をもって物事を進める充実感を味わいます。日々の充実した園生活が幼児を能動的な学び手に育て、その後の教育の基盤を形成します。

このような幼児期の育ちをその後の教育にどうつなげるべきなのか。この問題は、近年の初等教育における大きな教育課題となっており、就学前の学びを小学校の学びへつなげていこうという試みが全国で展開されています。杉並区でもここに「幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム」をまとめることができました。本区の取り組みの特徴は、以下の点にあります。

- ・本プログラムは2012年に策定された杉並区教育ビジョンに位置付けており、長期的な見通しの中で、子どもの育ちを保障する教育の在り方を追求していること
- ・保幼小それぞれの教育施設から集まったメンバーが忌憚のない意見を出し合い、子どもの育ちを連続的に読み取るための視点を共有したこと
- ・実現可能なプログラムとして機能させるために、実践例を多く掲載したこと

ここにまとめたアプローチカリキュラム(幼児後期から小学校へ)とスタートカリキュラム(小学校入門期)が、作成しただけに終わらず、常に刷新され、生きたプログラムとして機能するよう、今後の実践に期待します。

目 次

第1章 幼保小連携の推進を通じた就学前教育と小学校教育の充実.....	5
1 杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラムの策定にあたって.....	7
(1) 策定の背景.....	7
(2) 策定の目的.....	7
(3) 活用に向けて.....	7
2 就学前教育から小学校教育へ子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小連携.....	8
(1) 幼保小連携の必要性.....	8
(2) 子どもの発達の特徴や育ちの道筋の理解.....	9
(3) 幼保小接続期カリキュラム「接続期に子どもに経験させたい内容例」.....	9
(4) 幼保小連携プログラム「幼保小連携の方策」.....	10
(5) 家庭や地域との連携.....	10
(6) 幼保小連携を行う際の施設の組み合わせの考え方.....	10
第2章 幼保小接続期カリキュラム「接続期に子どもに経験させたい内容例」.....	13
1 0歳児から小学校1年生までの発達の特徴と育ちの道筋.....	14
2 接続期に子どもに経験させたい内容例一覧.....	18
3 接続期に子どもに経験させたい内容に関する事例.....	28
(1) 接続前期に幼児が経験している活動場面の事例.....	28
(2) 接続後期に児童が経験している授業の事例.....	47
第3章 幼保小連携プログラム「幼保小連携の方策」.....	62
＊ 環境の工夫1 ～接続前期～.....	63
1 幼保小連携の方策の年間計画例.....	64
2 幼保小連携の方策に関する事例.....	66
(1) 幼児と児童の交流活動の事例.....	66
(2) 保育者と小学校教員の連携の事例.....	72
＊ 環境の工夫2 ～接続後期～.....	75
(3) 保護者への理解啓発の事例.....	76
(4) (仮称)杉並区版プリスクールの事例.....	83

第4章 接続期における特別な配慮を要する子どもへの支援.....	87
1 接続期における特別な配慮を要する子どもへの支援のポイント.....	88
2 就学前の支援 ～就学前教育施設～.....	88
(1) 障害のある幼児への教育.....	88
(2) 就学前教育施設で障害のある幼児を支援する基本的な姿勢.....	89
3 就学までの準備 ～就学前教育施設～.....	89
(1) 障害のある幼児一人一人の支援のポイントの明確化.....	89
(2) 保護者を支える① 就学支援シート「すばるⅡ」の活用.....	90
(3) 保護者を支える② 就学に向けてのアドバイス.....	90
4 就学までの準備 ～小学校・教育委員会～.....	91
(1) 就学时健康診断.....	91
(2) 就学相談.....	91
5 就学後の支援 ～小学校～.....	92
(1) 小学校入門期の適応支援.....	92
(2) 「個別の教育支援計画」と「個別指導計画」の作成.....	92
(3) 校内委員会の実施と情報の共有化.....	92
6 インクルージョン社会に向けての支援 ～個別の支援と集団づくり～.....	92
* 参考資料.....	99
• (仮称) 杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会委員名簿.....	100
• (仮称) 杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会作業部会員名簿.....	101
• (仮称) 杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会設置要綱.....	102
• 本書で参考にした主な関連資料.....	104



本書で使用する用語の定義について

「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム」において使用する用語の定義については、次のとおりとします。

- 就学前教育・・・生後から小学校就学までの家庭及び就学前教育施設における教育・保育
- 幼児期の教育・・・教育基本法第11条に規定する教育
- 幼児教育・・・幼稚園教育要領及び保育所保育指針に即した3歳児から5歳児までの教育・保育
- 子供園・・・保護者の就労形態に関わらず3歳児から5歳児までの幼児を受け入れ教育・保育を一体的に行う杉並区独自の幼保一体化施設
- 認定こども園・・・保護者が働いている、いないに関わらず就学前の子どもを受け入れて、教育・保育を一体的に行う機能と全ての家庭を対象に子育て相談や親子のつどいの場の提供などの子育て支援を行う機能の両方を備える幼稚園、保育所等を、都道府県知事が「認定こども園」として認定した施設
- 就学前教育施設・・・公立・私立を問わず、幼稚園、子供園、保育園、認定こども園、こども発達センター等、乳幼児期における教育・保育を行う施設の総称
※ 事例の中では、端に「園」と表現する場合がある。
- 教育・保育・・・幼稚園、子供園、保育園等の就学前教育施設での教育と養護の総称
- 小学校教育・・・小学校における教育
- 幼保小・・・幼稚園、子供園、保育園、小学校を略して表したもの
なお、子供園は幼保一体化施設であり、「幼稚園、保育園」の表現に含む
- 幼保小連携・・・子どもの発達段階に応じた成長と学びを確保するため、幼稚園、子供園、保育園等の就学前教育施設と小学校が相互に連携を図る取組のこと
- 接続期・・・5歳児（年長）の10月から小学校1年生の7月までの期間
- 接続前期・・・5歳児（年長）の10月から3月までの期間
- 接続後期・・・小学校1年生の4月から7月までの期間
- 入門期・・・小学校1年生入学後のおおむね4月から5月初旬までの期間
- 乳幼児期・・・生後から小学校就学の始期に達するまでの期間
- 幼児期・・・3歳児から小学校就学の始期に達するまでの3年間
- 児童期・・・小学校1年生から6年生までの6年間
- 就学・・・義務教育の学校に入ること、または在学していること
- 保育者・・・幼稚園教諭と保育士など保育にあたる者の総称
- 乳児・・・0歳児から2歳児の子ども
- 幼児・・・3歳児から小学校就学の始期に達するまでの子ども
- 児童・・・小学校に在学する子ども（小学生）
- 子ども・・・乳児、幼児、児童の全てを含めた総称
- 協同的な経験・・・幼児同士が共通の目的に向けて遊びを進め、遊びの中での様々な課題の解決に向けて協力し、工夫し合っていく経験のこと
- 環境を通して行う教育・・・幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている教育内容に基づいた計画的な環境をつくり出し、その環境に関わって幼児が主体性を十分に発揮して展開する生活を通して、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにする教育のこと
- 環境の構成・・・物的、人的、自然的、社会的など、様々な環境条件を相互に関連させながら、幼児が主体的に活動を行い、発達に必要な経験を積んでいくことができるような状況をつくり出すこと
- （仮称）杉並区版プリスクール・・・幼児の協同的な経験や小学校の人・もの・こと等の環境に触れる体験を通して小学校への期待や憧れを膨らませることを目的とした杉並区独自の取組のこと

第1章

幼保小連携の推進を通じた 就学前教育と小学校教育の充実

杉並区を目指す人間像

自らを律ししつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など

豊かな人間性

確かな学力

生きる力

知識・技能に加え、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよい問題を解決する資質・能力など

たくましく生きるための健康や体力など

健康・体力

小学校教育

子どもの育ちと学びをつなげる幼保小連携

接続期に子どもに経験させたい内容例

3視点と9項目

人とのかかわり

協同 信頼 規範

生活

自律した生活の基礎
食育 運動

学び

思考 言葉 創造

接続期

幼保小連携 4方策

幼児と児童の交流活動

保育者と小学校教員の連携

保護者への理解啓発

(仮称)杉並区版プリスクール
「きらめき体験プログラム」

杉並区を目指す「就学前の子どもの姿」

幼児期に培う生きる力の基礎となる心情・意欲・態度

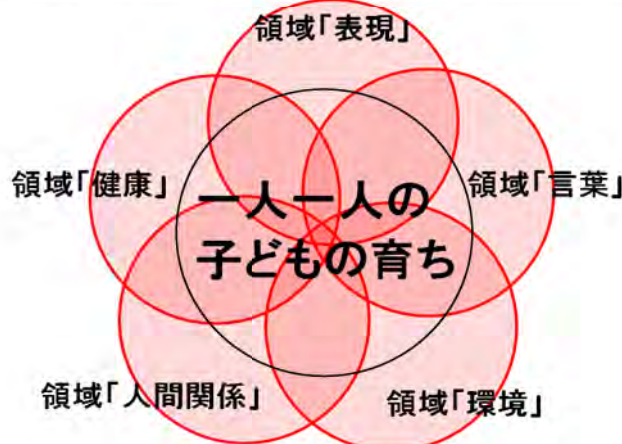
園生活全体を通して幼児が様々な体験を積み重ねる中で
相互に関連をもちながら次第に達成に向かう

<5領域>

幼児の発達の側面からまとめて編成した幼児が身に付けていくことが望まれる事項

幼児の遊びや生活を通して総合的な指導を行う際の視点

幼児が関わる環境を構成する際の視点



子どもの発達や学びの連続性

就学前教育

1 杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラムの策定にあたって

(1) 策定の背景

平成18年12月に教育基本法が改正され、その中で、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである（後略）」と示されました。このことにより幼児期の教育は、学校教育における生活や学習の基盤を整える重要な役割をもっていることが明確になりました。また、平成20年3月に告示された幼稚園教育要領及び保育所保育指針では、幼児期の教育の指針としての両者の整合性が一層確保されるとともに、小学校との連携に関する内容が盛り込まれました。さらに、小学校学習指導要領では、保育園との連携が加えられ、幼保小のそれぞれの教育課程や保育課程に連携が明確に位置付けられ、実施されるようになりました。

こうした中、杉並区教育委員会は、平成24年3月に策定した「杉並区教育ビジョン2012」（11ページ参照）で掲げる基本目標の達成に向けて、「学び」と「循環」、「連続性」と「きめ細かさ」、「かかわり」と「つながり」の3視点を重視した取組を進め、教育の更なる質の向上を図っています。このビジョンを実現するための行動計画である「杉並区教育ビジョン2012推進計画」において、就学前教育から小学校教育への円滑な接続を図るための「就学前教育の充実」を重点事業として位置付けています。

(2) 策定の目的

就学前教育と小学校教育には、子どもの発達段階の違いによる教育・保育課程のしくみや指導の方法などに様々な違いがあります。しかし、子どもの発達や学びは、幼児期と児童期ではっきりと分かれるものではなく、学んだことが次の学びを生み出し、さらに次の学びへと発展していくものです。

杉並区教育委員会では、教育ビジョンに基づき、一人一人の発達や学びを切れ目のないようにつなげ、学びの成果を確実に受け止め、次の段階で一層発展できるように、就学前教育と小学校教育の円滑な接続を目指した教育・保育を重点として進めております。

また平成24年9月に杉並区就学前教育振興指針（12ページ参照）を策定し、目指す「就学前の子どもの姿」を掲げ、小学校教育との連続性を踏まえた就学前教育の充実に向けて切れ目のない学びを支援することが示されました。

本冊子はこれらのことを受け、5歳児の10月から小学校1年生の7月までを接続期と捉え、子どもの発達や学びの連続性を踏まえ、接続期に経験させたい内容や幼保小連携の方策等について明らかにし、公私立を問わず杉並区内の全ての就学前教育施設と小学校において、幼児・児童の実態に応じた指導計画、交流・連携の年間計画等の作成の参考資料として活用され、豊かな幼保小連携を通じた就学前教育と小学校教育の円滑な接続の実現に資することを目的としています。

(3) 活用に向けて

就学前教育施設では、接続期の5歳児10月になってから初めて接続を考えるのではなく、生後からそれまでに幼児がどのような経験を積み重ねていくことが必要なのかについて、5歳児の担任はもちろん、0歳からの発達の過程や育ちの道筋を踏まえて、5歳児の担任以外の保育者も共に、園全体で考えておく必要があります。小学校においても、入学当初から滑らかに小学校生活や学習に移行できるよう、高学年児童による支えなど、学校全体で接続期を意識し、組織として連携の取組を進めることが重要です。

○就学前教育施設での接続期の指導計画作成のための参考資料として

- ・幼児期の生活や遊びによる経験が小学校でどのような生活や学びにつながっているのかを見通して、子どもの発達や学びを豊かにする教育・保育の質の向上を図るために活用してください。

○小学校での入門期の指導計画作成のための参考資料として

- ・幼児期のどのような経験が土台になっているのかを確かめ、入学した子どもたちが滑らかに小学校の生活や学習に移行できるようにする指導の工夫改善のために活用してください。

○公私立を問わず、区内の全ての就学前教育施設と小学校との連携の取組を進める参考資料として

- ・互恵性のある幼児と児童の交流活動、相互理解を深める保育者と小学校教員の連絡会や合同研修会、保育参観・授業参観等、幼保小連携の方策の具体化に向けて活用してください。

2 就学前教育から小学校教育へ子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小連携

子どもの育ちと学びをつなぐには保育者と小学校教員の相互理解できる関係づくりが基本

遊びを通して学ぶ就学前教育から教科等の学習を中心に学ぶ小学校教育へ円滑に接続するために、これまで以上に就学前教育施設と小学校の関わりを深めていくことが大切です。また、就学前教育と小学校教育の段差をうまく乗り越え、小学校の生活や学習に滑らかに移行できるように、幼児と児童の交流活動や保育者と小学校教員の情報交換等の連携が大切です。

円滑な接続

遊びを通して学ぶ

幼児の自発的な活動としての遊びを中心にした生活を通して体験を重ねられるような環境を構成し、幼児一人一人に応じた総合的な教育を行う。

教科等の学習を中心に学ぶ

時間割に基づき、定められた目標に向かい、各教科等の内容を教科書などの教材を用いて指導する教科学習を中心とした教育を行う。

(1) 幼保小連携の必要性

子どもたちは、新しく始まる小学校生活への期待感と環境の変化への緊張感を抱きながら入学していきます。就学前教育と小学校教育では、子どもの発達段階の違いによる教育内容や指導方法などに様々な違いがありますが、子どもの発達や学びは、幼児期から児童期まで連続しています。

幼保小連携の推進を通して、小学校に入学した子どもたちが円滑に小学校の生活や学びに移行できるようにすることが大切です。また、就学前教育施設で学んだことが小学校にしっかりと受け継がれ、次の学びを生み出し、さらに発展していくようにすることも大切です。

小学校入門期は、子どもの発達特性や学びには個人差があり、一人一人の就学前の経験を踏まえたきめ細かい指導が求められます。そのためには、就学前教育施設と小学校との連携が十分図られ、教育・保育内容や指導方法等の相互理解はもちろん、指導要録・保育要録等の資料を活用するなどして子どもの発達や学びの状況に関する情報を共有することが大切です。

○子どもの育ちの課題を幼保小で共通理解

近年、子どもを取り巻く社会の変化により、多様な体験の不足等の現状があり、基本的な生活習慣の欠如、食生活の乱れ、自制心や規範意識の希薄化、運動能力の低下、コミュニケーション能力の不足、小学校生活にうまく適応できないなどの課題が指摘されています。

子どもの育ちは幼児期と児童期で連続していることから、保育者と小学校教員が在園する子どもの実態を共通理解し、その子どもに必要な体験が得られるように、幼児期から児童期まで長期的に捉えてそれぞれの指導計画を工夫することが必要です。また、具体的な教育・保育活動においては、子どもの成長を連続して促していくように指導方法を工夫する必要があります。

○保育者と小学校教員で双方の教育・保育内容を相互理解

子どもの発達や学びの連続性を確保するためには、保育者と小学校教員の相互に就学前教育から小学校教育までの内容を理解することが大切です。

保育者は、小学校教育の内容の深さや広がりをも十分に理解した上で教育・保育課程を編成し、今の学びがどのように育っていくのかを見通して日常の教育・保育を行っていくことが必要です。また小学校教員は、就学前教育の内容の深さや広がりをも十分に理解した上で教育課程を編成し、今の生活習慣がどのように培われ、今の学習がどのように育ってきたのかを見通して日常の教育を行っていくことが必要です。

そのためには情報交換会、保育参観や授業参観などを通し、お互いがよく知り合う関係となり相互理解を一層深めていきながら、就学前教育と小学校教育の双方を発達段階を踏まえて充実させることが大切です。

(2) 子どもの発達の特徴や育ちの道筋の理解

乳幼児期は、心身の発育・発達が著しい時期です。個人差が大きいこの時期の子どもたちの一人一人の健やかな育ちを促すためには、心身共に安定した状態であることのできる環境と愛情豊かな大人との関わりが求められます。そのため、子どもの発達の特徴と育ちの道筋を十分に理解し、一人一人の発達過程に応じて見通しをもって指導を行う必要があります。本冊子では、0歳児から小学校1年生までの発達の特徴や育ちの道筋を一覧にまとめました。接続期に子どもが滑らかに小学校の生活や学習に移行できるように援助や支援を考える際の参考となることを願います。

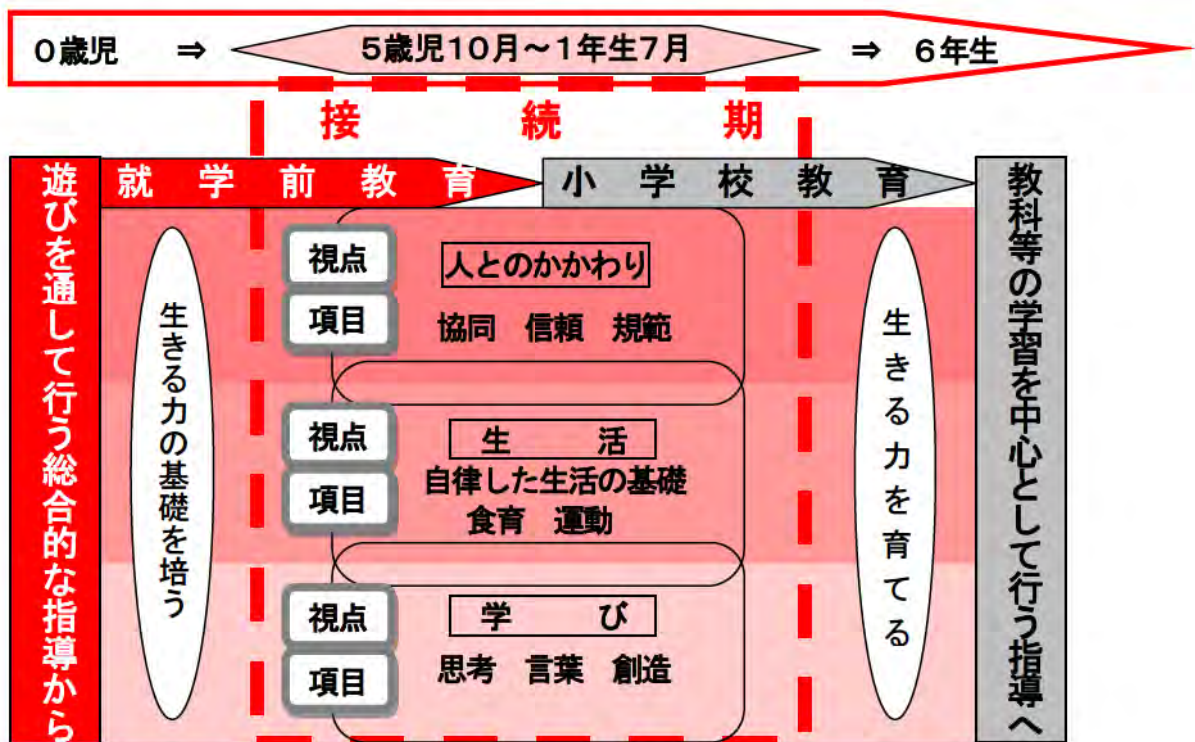
(3) 幼保小接続期カリキュラム「接続期に子どもに経験させたい内容例」

この内容例は、幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領に基づくとともに、杉並区の就学前教育施設や小学校が幼児・児童の実態を踏まえて実際に作成している指導計画や指導資料、実践を基に、接続期に子どもに経験させたい内容の例をまとめたもので、接続期のカリキュラムを表しています。

就学前教育では、教育・保育のねらいや内容が、子どもの発達の側面から「健康」「人間関係」「言葉」「環境」「表現」の5領域にまとめて編成されており、遊びを通して総合的な指導が行われています。その遊びを通じた総合的な指導から教科等の学習を中心とした指導を行う小学校教育へ接続するために、接続期に経験させたい内容を「人とのかかわり」「生活」「学び」の3視点でまとめました。さらに、各視点の内容を3項目ずつに分類・整理し、必要な経験を捉えやすくしました。ただし、特に就学前教育では、それぞれの視点や項目の内容が単独で活動として扱われるのではなく、日常の生活や遊びの中で、それぞれの視点や項目の内容が絡み合いながら子どもが経験していくものと考えます。

一方で、就学前教育では、小学校教育の先取りではなく、幼児期にふさわしい生活を通して就学までに育てる子どもの姿を見通した教育・保育が大切です。

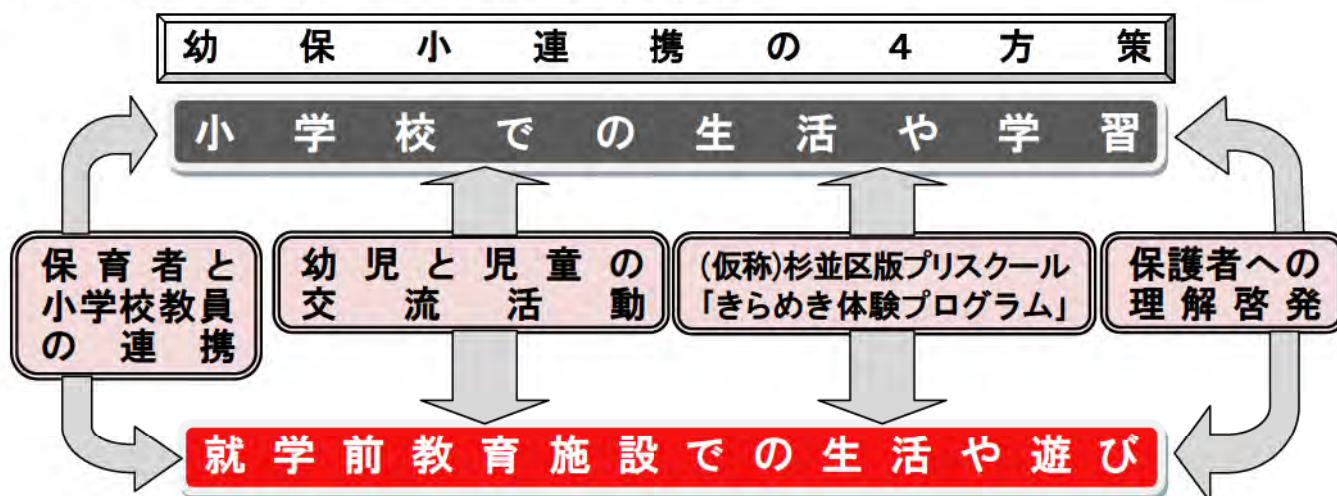
また、小学校の入門期の指導については、幼児期の生活や学びの連続性に配慮した指導を充実させていくことが大切です。小学校の入門期は、遊び中心の生活から、教科等の学習が中心の生活へと大きく変わることから、子どもにとって大きな段差となっています。この段差を乗り越え、滑らかに小学校生活や学習に移行できるようにするためには、幼児期に子どもたちが経験してきたことを踏まえ、直接体験を重視し、行動的な活動が行えるようにし、その活動の中で子どもが学んでいることを読み取り、適切な指導を行うよう工夫することが大切です。



(4) 幼保小連携プログラム「幼保小連携の方策」

幼保小連携の4方策	意義
幼児と児童の交流活動	幼児は成長への憧れと未来の見通しがもてる。 児童は成長の振り返りと自信や思いやりの気持ちももてる。
保育者と小学校教員の連携	教育内容、指導方法の相互理解ができ、指導の工夫改善ができる。 双方の施設が果たすべき役割を再認識できる。
保護者への理解啓発	保護者の不安や疑問の解消を図ることができる。 小学校生活への見通しがもてる。
(仮称) 杉並区版プリスクール 「きらめき体験プログラム」	小学校への期待や憧れを膨らませることができる。 協同的な学びが充実し、集団の一員としての意識を高めることができる。また、主体的な探究心が育まれる。

これらの方策において、交流活動や情報交換、参観、参加等の具体的な取組を行うことを通して、子どもの小学校生活や学習への滑らかな移行を図ることを目指します。



(5) 家庭や地域との連携

就学前教育から小学校教育への接続期には、子どもの生活環境や学び方等に大きな変化があります。保護者にとってもうまくなじめるか不安を抱くことが考えられます。そうした不安の解消とともに、子どもの小学校生活や学習への滑らかな移行を図る上で、保護者への理解啓発と保護者による子どもへの支援が重要となります。

保護者の幼保小の接続に関する理解を深めるには、幼保小の各施設が連携し、就学前教育から小学校教育への学びの連続性や環境の変化について分かりやすく説明して、小学校生活への見通しがもてるようにすることが大切です。また、幼児と児童の交流活動の様子を参観したり、学校公開日や学校行事を参観したりする機会を設定するなどしていくことも接続期の保護者や子どもの不安や心配を軽減する重要な連携・支援となります。これらの取組の例は、幼保小連携の4方策にある「保護者への理解啓発」の事例に挙げています。

(6) 幼保小連携を行う際の施設の組み合わせの考え方

各就学前教育施設が、実際に連携や交流を進める小学校との組み合わせについては、園が所在する小学校の通学区域を目安として考えます。また、「地域子育てネットワーク」にて関係のある小学校との連携も効果的です。そのため必ずしも個々の幼児の就学先となる小学校と連携をするとは限らない場合があります。

幼保小連携の取組においては、幼児が“小学校”という新しい世界に期待感を高め、段差を乗り越え、小学校生活や学習に円滑に移行できるようにすることを目標としています。それには、個々の幼児の就学先に限らず、小学校の人・もの・ことと触れ合う取組でも効果は得られるものと考えます。どことの組み合わせということよりも、保育者と小学校教員が相互理解を深め、よりよい関係を結ぶことによる豊かな幼保小連携の実践が最も基本となります。

なおこの目安は、従来から連携を行ってきた園と学校の組み合わせには影響しないものと考えます。また、園の活動以外で、保護者が幼児と共に直接学校公開等に参加する場合はこの限りではありません。

杉並区教育ビジョン2012（平成24年3月策定）の全体像

杉並区教育委員会は、平成24年3月、杉並の目指す教育を実現するための指針となる「杉並区教育ビジョン2012」を策定し、基本目標として「今後10年を見据えた杉並の目指す教育」と「目指す人間像」を掲げるとともに、目標達成に向けた取組の視点と方向を示しました。

基本目標

今後10年を見据えた杉並の目指す教育

共に学び共に支え共に創る杉並の教育

目指す人間像

- 夢に向かい、志をもって、自らの道を拓く人
- 「かかわり」を大切にし、地域・社会・自然と共に生きる人

【育みたい力】

- 1 自分の持ち味を見つけ、自ら学び、考え、判断し、行動する力
- 2 変化の時代をとらえ、たくましく生きる心と体の力
- 3 豊かな感性をもち、感動を分かちあう力
- 4 他者の存在を認め、多様な関係を結ぶ力
- 5 持続可能な社会を目指し、次代を共に支えていく力

目標達成に向けた取組みの視点

基盤づくりから質の向上へ

- 1 「学び」と「循環」の重視
- 2 「連続性」と「きめ細かさ」の重視
- 3 「かかわり」と「つながり」の重視

取組みの方向

- 1 子どもの豊かな人間性を育てる、より質の高い学校づくりを進めます
- 2 家庭・地域・学校のつながりを重視した、共に支える教育を進めます
- 3 地域と共に歩む「新たな公共空間」としての教育基盤を整えます
- 4 生涯にわたる豊かな学びや文化・スポーツ活動等を通じ、誰もが輝く地域づくりを進めます

杉並区就学前教育振興指針（平成24年9月策定）から

杉並区の目指す「就学前の子どもの姿」のイメージ図

この「就学前の子どもの姿」は、杉並区の就学前教育をめぐる状況を認識した上で、「杉並区教育ビジョン2012」が目指す人間像を実現するための5つの育みたい力を踏まえ、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された就学前教育に必要とされる5領域の考え方等を考慮し、概ね小学校就学前の段階における目指す姿として大きく5つにまとめています。



第2章

幼保小接続期カリキュラム 「接続期に子どもに経験させたい内容例」

1 0歳児から小学校1年生までの発達の特徴と育ちの道筋

乳幼児期は、心身の発育・発達が著しく、人格の基礎が形成される時期で、育ちの道筋や順序性には共通のものがあります。特に、乳幼児期は個人差が大きく、一人一人の発達の特徴とその道筋を十分に理解した上で、個々の特性や発達の過程に応じたきめ細かな指導を行うことが重要です。

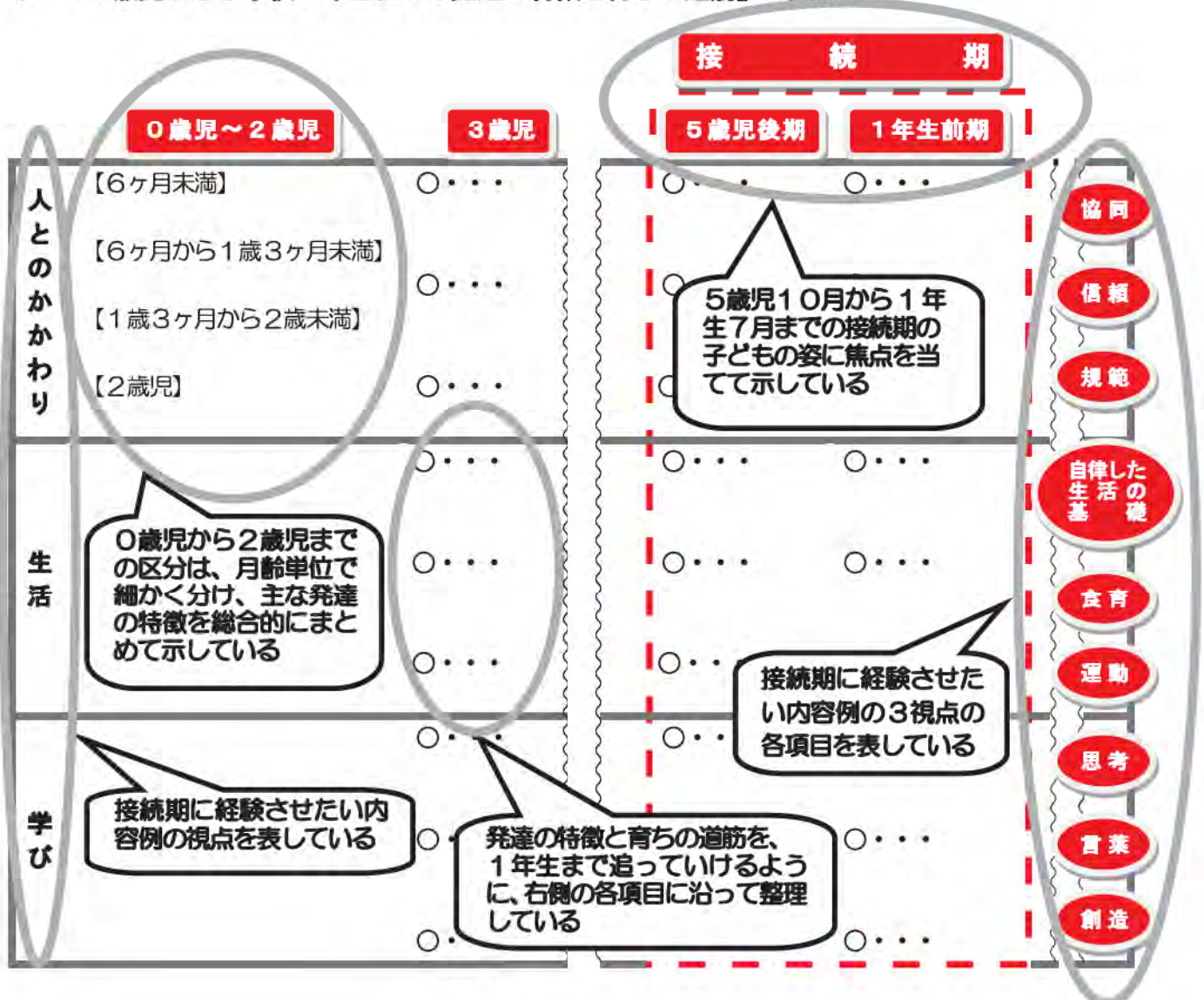
就学前教育から小学校教育へ滑らかに接続することを考えるときには、0歳児から小学校1年生までのどのように発達してきているか、一般的な発達の道筋とその連続性を理解しておくことが必要です。そのために、接続期に子どもに経験させたい内容例における「人とのかかわり」「生活」「学び」の3視点に沿って、次のページのような表に整理しました。

「0歳児～2歳児」については、様々な発達の側面が相互に関連している部分が多いため、学年単位ではなく、月齢単位で細かく分けて捉えた主な発達の特徴を示しています。

「3歳児」以降については、各学年の後半の子どもの姿を載せています。また、小学校1年生の発達の特徴は、小学校という新しい環境の下、新しい人間関係をつくっていく中での状況であることを踏まえた子どもの姿を表しています。

また、小学校1年生側には、表の右側に経験させたい内容の3視点における各項目を記載し、育ってきた道筋を捉えやすくしました。ただし、特に乳幼児期の子どもは総合的に発達していくものであり、発達の過程では各視点や項目が絡み合っています。そのため、実際には、表に記載したようにはっきりと分けられるものではないと考えます。

◆ 「0歳児から小学校1年生までの発達の特徴と育ちの道筋」の見方



2 接続期に子どもに経験させたい内容例一覧

子どもの発達の過程を踏まえ、接続前期にふさわしい遊びや生活が展開されるように、また、接続後期に小学校の学習や生活へ円滑に移行していけるように、子どもに経験させたい主要内容を9ページで示した各視点や項目に分けて一覧表を構成しました。これは子どもが遊びや活動の中で経験しながら学んでいく内容を示しており、接続期のカリキュラムにあたります。

この一覧では、5歳児の10月から小学校1年生の7月までの接続期全体を連続させて表しています。就学前教育と小学校教育の関係を学びの連続性で捉え、幼児期と児童期の教育活動を、人やものとの関わりという直接的・具体的な対象との関わりで、つながりを見通して考えることができるようにしました。

各就学前教育施設や小学校では、これを活用し、保育者と小学校教員がそれぞれの教育・保育の内容を理解するとともに、子どもの育ちや学びに関する課題の共通理解を図り、各学校・園や地域の実態等に応じ、指導計画を作成していくことが望まれます。

◆「接続期に子どもに経験させたい内容例一覧」の見方

発達の 主な特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児・児童の発達の主な特徴 ・○の位置は、その発達が見られ始めるおおむねの時期を表している 					
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の発達を踏まえた、教育・保育のねらい ・○の位置は、おおむねの時期を表している 					
内容の視点	10月	2月	3月	4月	5月	7月
・・・			○ …… (事例◇)			
	<ul style="list-style-type: none"> ※経験させたい内容の主なものに、この吹き出しを付けている ★印：幼児・児童が主体的に活動を展開するための環境の構成 ♥印：幼児・児童が主体的に活動を展開するための援助 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・接続期に子どもに経験させたい内容 ・○の位置は、発達を踏まえた内容を経験させるおおむねの時期 ・内容の終わりに(事例◇)とある事項については、事例を挙げている ・事例は、おおむね内容の各視点、各項目につき1事例ずつ挙げている 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力の基礎を培うために、幼児・児童の発達に応じて経験させたい内容を3視点、各3項目に分類整理した ○ 人とのかかわり(協同・信頼・規範) ○ 生活(自律した生活の基礎、食育、運動) ○ 学び(思考、言葉、創造) 					

3 接続期に子どもに経験させたい内容に関する事例

(1) 接続前期に幼児が経験している活動場面の事例

ここでは、接続前期に経験してほしい内容を、実際の活動の中からモデルとなる場面を事例として9点挙げています。事例は、接続期に経験させたい内容例の3視点の各項目に挙げられている内容の中から1点ずつ選択しています。活動の展開部分では、幼児が関心を寄せたり、人やもの関わったり、表現したりしながら見せる様々な姿から、保育者が読み取ったそのとき経験している内容、すなわちその経験を通して幼児が学んでいる内容を活動の展開に沿って挙げています。

これらの事例を参考にして、幼児が遊びの中で見せる様々な姿の中から、そのとき幼児の経験していることや学んでいることを、保育者が的確に読み取り、幼児の実態に即し、適切な環境を構成し、援助を行う中で保育を展開していくことが望まれます。

◆接続前期に幼児が経験している活動場面の事例の見方

接続前期 事例○	視 点 (項 目)	歳 児	月
<経験させたい内容>		「接続期に子どもに経験させたい内容例」から、事例として選択した内容	
<育みたい幼児の姿> A B C	A 経験させたい内容に関わる、その時期の幼児の実態 B 幼児の評価及び課題 C 教育・保育上の意図的・計画的な内容、保育者の願い、プラン		
<活動名>		「 ○○○○ 」	
<活動のねらい>		・事例の教育、保育のねらい	
<活動の経緯>		・事例の当日に至るまでの活動経過 ・当日までに、幼児が経験している内容や育ちの様子	
<環境の構成>		・事例の当日における環境の構成 ・事例の当日を含め、継続して環境の構成されている事項	
<幼児の活動> ア < >	・幼児の活動の展開が読み取れるように幼児の言葉で構成 ・展開が分かりやすいように、ア、イ・・・というまとまりで記載	<経験している内容> ア	・幼児の活動ア、イ・・・ごとに、その活動の中で幼児が経験している内容 ・経験している中での学びを記載
<援助のポイント> ア イ ◎	・活動のねらいを達成するためのア、イ・・・に関わる援助のポイント ・◎は、全体に関わる援助のポイント		
<小学校へのつながり>		・事例の内容項目に関わる幼保小接続期に育成しておくことが重要な事項とその意味 ・小学校生活や学習につながる事項とその意味	

＜経験させたい内容＞

グループで長期的な目的に向けて取り組む中で、一緒に進めていく楽しさややり遂げた満足感を味わう。

＜育みたい幼児の姿＞

- A ごっこ活動や様々な行事への取組を通して小さいグループで目的に向け活動し、友達の中で自分の思いや考えを出し合いながら一緒にやり遂げられた楽しさや満足感を味わえるようになってきている。
- B クラス全体の共通の目的に向け長期的にグループで取り組む経験は少ない。また、クラスの友達とのつながりを感じ取りながらグループで進めていく意識が低い幼児もいて、みんなが十分に達成感を味わいきれないこともある。
- C クラスのみんなで劇作りをする経験を通して、一人一人が課題を自分のこととして受け止めながら、互いのよさに気付いたり認め合ったりし、一緒に進めていく楽しさややり遂げた満足感を味わえるようにする。

＜活動名＞ 劇遊び「素敵な劇になっていくね！」

＜活動のねらい＞

- ・クラスの劇作りに向け、グループで考え合ったり表現の工夫をしたりしながら協力して準備を進める。
- ・友達によさに気づきクラスみんなで受け入れ認め合いながら、共に一つの劇を作り上げていく楽しさを感じ取る。

＜活動の経緯＞

- ・水族館への遠足の経験やクラスで読み聞かせを楽しんだ「にじいろのさかな」のお話を基に、登場人物やストーリーを相談する。
- ・11月中旬頃から12月上旬の「子ども会」に向け、クラスで劇の大まかなストーリーを作り、いろいろな役をクラスみんなで楽しみながら演じている。
- ・一人一人がやりたい役を決め、劇の役ごとにグループを作り、表現や音楽、言葉などを考え合いながら、連日、自主的に準備を進めている。
- ・クラス全体で演じて遊ぶことにより、友達のいろいろな考えをグループに取り入れながら進めている。
- ・前日までに自分たちの劇に必要な大蛸（2m×2m）をクラスみんなで作る。

＜環境の構成＞

- ・劇のストーリーを絵に描いて掲示し、クラスみんなで劇のストーリーやイメージが共通になるようにする。
- ・前日作った大蛸を置いておき、すぐに自分たちで使って演じられるようにしておく。演じるのに必要と思われる材料を用意し、幼児の必要に応じてすぐに出せるようにしておく。



<幼児の活動>	<経験している内容>
<p>ア <大蛸が動く面白いよ。でも・・・> ・登園してすぐに、大蛸役のA児とB児は、大蛸の足を持ち上げて動かし、「大蛸が動く面白いよ。でも…。」「どうすると蛸の足が動いているように見えるかな？」と考えている。</p> <p>イ <そうだ、紐に付けて引っ張ったらどうかな？> ・「紐に付けて引っ張ったら蛸が動いているように見えるかな？」「そうしよう。」二人は、制作コーナーにあったビニールの紐を切って、蛸の足に結び動かしてみる。「蛸が本当に動いているみたいだ！」 ・保育者も「いい考えね。」と二人の考えを認める。「でも、紐が見えないともっといいのに…」という二人の言葉を受け、天蚕糸を提案する。天蚕糸に変え、「大蛸が自分で動いているみたいだね！紐も見えない！」と二人は、顔を見合わせて笑う。</p> <p>ウ <一緒に動かそう！> ・「Bちゃん、一緒に動かそう！」「うん。私は、こっちを動かすね。」「4本一緒に動かしたいな。」「困ったな。」「棒に付けるのはどうかしら。」「そうかあ。やってみよう。」天蚕糸を4本ずつ棒に付けることで、動かしやすくなる。「いいね。」「一緒に動かしてみよう。」「8本足全部と一緒に動いているね。」「Bちゃんみたいにゆっくり動かしてみよう。」「本物の蛸の足が動いているみたいになったね！」 ・A児が「何しに来たあ！」とやや低い声でゆっくりと雰囲気を出して演じ、言葉を言う。B児「Aちゃんの声も、本物の大蛸らしいね。」</p> <p>エ <みんなに見てもらおう> ・クラス全員が集まり、A児とB児が大蛸を動かすところを見る。「蛸の足が動いている！」「くねくねして面白いね！」「本物みたい！」「AちゃんとBちゃんよく考えたね！」と、みんなに認められ、A児もB児も嬉しそうに笑う。 ・「もっと大きく動かすと本当に泳いでいるみたいになるかな？」と言うC児の言葉を受け、二人は大きく動かしてみる。「いいねえ！蛸が泳いでる！」と、みんなから拍手が起こる。「大蛸のところができあがったね。」と、A児もB児も嬉しそうに言う。「素敵なお劇になっていくね！」とみんなも保育者も褒め、認める。</p>	<p>ア 蛸グループは自主的に取り組み、この日の共通の目的を見付け出す。</p> <p>イ A児とB児はそれぞれに考えを出し合い協力しながら、考えたことを実現しようといろいろと試す。</p> <p>イ 共に考えてくれる保育者の提案を受け入れ、試す。</p> <p>イ 思うようにできた嬉しさを表し、共感し合う。</p> <p>ウ より大蛸らしくなるように、動かし方を工夫する。</p> <p>ウ 劇の流れの中で、大蛸に合う言葉を声の調子を変えて言ったり、大蛸らしい動かし方を工夫したりして表現する。</p> <p>エ 蛸グループで自分たちなりに考えた事を自信をもってクラスみんなに演じて見せ、満足感を感じる。</p> <p>エ 蛸グループが工夫したことを楽しんで見たり、感じたことを話したりする。</p> <p>エ 良いところを認め合ったり、受け入れ合ったりする。</p> <p>エ クラスの劇が徐々にできあがっていく嬉しさをみんなと共有する。</p>
<p><援助のポイント></p> <p>ア 課題を受け自主的にグループの友達と演じながら、その日の目的を見出していく様子を見守っていく。</p> <p>イ・ウ 保育者も仲間の一員として共に考えたり提案したりしながら、幼児がグループの目的に向け、じっくりと繰り返し協力して試行錯誤し、目的を実現していく達成感や喜びを十分に味わえるようにする。</p> <p>エ クラスのみんなに見てもらえる場をつくり、グループの表現の工夫に気付き認め合ったり、更にアイデアを出し合ったりすることができるようにし、劇作りにクラスみんなを取り組む楽しさを共有できるようにする。</p>	
<p><小学校へのつながり></p> <p>・幼児期の後半には、幼児の興味・関心や生活、協同性の育ち等の状況を踏まえ、保育者が方向付けた課題を自分のこととして受け止め、相談したり互いの考えに折り合いを付けたりしながら、グループやクラスみんな達成感をもってやり遂げる経験をするのが大切である。</p> <p>・小学校において意識をもって学び、与えられた学習課題を自分の課題として受け止め、計画的に学習を進める基盤となる。</p>	

＜経験させたい内容＞

互いの考えの違いに気づき、折り合いを付けて遊びや活動を進めようとする。

＜育みたい幼児の姿＞

- A 友達と一緒に遊びを進めていく中で、大まかなイメージを共有し合い、思いや考えをお互いに伝え合って遊ぶ姿が見られるようになってきている。
- B 友達と話し合う中で自分の考えを主張しながらも、友達の考えとの違いに気付いているが、友達が考えていることや友達の気持ちを感じながら相談や話し合いを進めることができず、言い合いで終わったりなかなか物事が決まらなかったりする。
- C 保育者やクラスの友達との信頼関係を基盤とし、一人一人が考えや思いを伝え、関心をもって聞き、共に考えながら、折り合い調整していく経験を積み重ねられるようにする。

＜活動名＞ **お店屋さんごっこ「ぼくは、お寿司屋さんがいいの！」**

＜活動のねらい＞

- ・クラス全体の話し合いの中で、テーマに沿って考え、思いや考えを伝えようとする。
- ・友達の思いや考えをよく聞き、違いに気付いたり、再考したりする。
- ・自分の気持ちに折り合いを付けながら、クラス全体の意見がまとまっていく嬉しさや充実感を味わう。

＜活動の経緯＞

- ・昨年度は、客として年長児のするお店屋さんごっこに参加し楽しむ。
- ・夏祭りや運動会などの行事に取り組む中で、グループで共通の目的に向かって取り組む楽しさや満足感を味わってきている。
- ・前日に、クラスみんながお店屋さんごっこをするという共通の目的をもち、自分がやりたいお店を考えておくことにする。

＜環境の構成＞

- ・近隣のお店や絵本を見る機会をつくり、幼児がお店屋さんのイメージがもてるようにする。
- ・イメージを実現できる楽しさを味わえるように、幼児と相談しながら材料を準備する。
- ・クラス全体でじっくり話し合える時間を充分とる。
- ・クラスみんなが、何について話しているのかが分かりやすいように、話し合いに出てきた考えをボードに書くなどしていく。
- ・クラスの目的を達成するために、子どもが見通しをもって活動できるよう、カレンダーやボードに分かりやすく絵や文字などで書いて掲示する。

＜幼児の活動＞	＜経験している内容＞
<p>ア <ぼくは、お寿司屋さんがいいの！> ・「おもちゃ屋さんがいい。」「ケーキ屋さん。」「お寿司屋さんがいいの！」など考えてきたことを話している。「〇〇ちゃんとアクセサリー屋さんをやろうって約束したの。」「それいい。私も入れて。」という姿も見られる。保育者は子どもたちに分かりやすいように、カテゴリーに分けて絵や文字でボードに記入していく。</p> <p>イ <だってお皿が回ってないよ> ・ボードに書かれているお店を見て、「そうだ、食べ物屋さんにしようよ。お寿司とか、ラーメンとかケーキも一緒に出てくるレストランはどう？」と思い付く幼児がいる。 ・A児「ぼくは、お寿司屋さんがいいの！」 B児「レストランでもお寿司できるんだよ。一緒にやろうよ。」 A児「ええ、レストランだとお寿司屋さんは無理！」 B児「Aちゃんはどんなお寿司屋さんがいいの？」 A児「お皿が回っているところに乗せたいんだ。」 B児「それをレストランで出せばいいよ。」 A児「だって、レストランじゃお皿が回ってないよ。」 ・保育者は、A児とB児に、みんなに話を聞いてもらうことを提案する。「ケーキ作りたからレストランがいいな。」と言う幼児や「お皿が回っているの。それ面白いね。」と賛同する幼児などもいる。</p> <p>ウ <両方すればいい！ やったあ、決まったあ！> ・保育者が「どうしよう…。」と言うと、「両方すればいい！」とみんなの賛同を得る。保育者が「じゃあ〇〇組のお店は、レストランと、お寿司屋さんとおもちゃ屋さん、アクセサリー屋さんなのね。」と言うと、「やったあ、決まったあ！」と喜ぶ。 ・「明日からお店の準備を始めなくちゃ！」と張り切っている。</p>	<p>ア 前日より考えてきたり、友達と話してきたりしたことをクラスの中で発表する。</p> <p>ア 友達の考えに興味をもって聞き、お店屋さんをしたいという気持ちが高まる。</p> <p>イ ボードに書かれた店を見ながら、クラス全体のお店屋さんをイメージし考える。</p> <p>イ B児は自分の考えるレストランについて、A児に説明する。</p> <p>イ A児は、B児の考えは分かるが、自分のやりたい店とは違うことをB児に訴える。</p> <p>イ B児は、A児の思いは分かるが、何とか一緒にやれる方法を提案し、A児を説得し続ける。</p> <p>イ B児とA児は思いが違い、葛藤する。</p> <p>イ クラスの幼児は、A児とB児両者の考えに関心をもって聞き、解決策を考える。</p> <p>ウ A児とB児は、自分の思いをクラスの人に伝え、一緒に考えてもらえた満足感を感じる。</p> <p>ウ クラスの一人一人がする店が決まりみんなですれ合えたことで、明日からの準備に、意欲が高まる。</p>
<p>＜援助のポイント＞</p> <p>ア クラスみんなが分かりやすいように、一人一人の考えを絵や文字でボードに書き込んでいく。カテゴリーに分けて書いておくことで、物事を整理して考え、話し合いがしやすいようにする。</p> <p>イ A児とB児には、自分の思いや考えを十分に話せるようにし、クラスの人々も友達のやり取りに関心をもって聞き、自分のこととして共に考え合うクラスの雰囲気を作っていく。</p> <p>ウ 互いの考えを尊重し、クラスの人々で決めたという話し合いの充実感を大切に、明日からの活動への意欲を高めていく。</p>	
<p>＜小学校へのつながり＞</p> <p>・幼児期は、自分の思いや考えを伝え友達に聞いてもらえる経験を積み重ね、互いに理解し合い友達と共に過ごすことの喜びや人に対する信頼感をもてるようにすることが大切である。</p> <p>・入学後の新しい友達関係の中で自分の気持ちを素直に伝え、友達の話もよく聞き分り合おうとする態度をもつことにつながる。</p>	

＜経験させたい内容＞

遊びを通して友達とルールを作ったり守ったりしていこうとする。

＜育みたい幼児の姿＞

- A 友達同士で互いの思いや考えを伝え合いながら遊ぶ姿が見られるようになる。
- B 思いが違った時には相手の思いを受け入れにくく、伝え方が一方的になる、途中で抜ける、トラブルになり遊びが中断するなどの様子が見られる。
- C 遊びの中で起きた問題について関心をもち、一人一人の考えを出し合いながら、ルールを作ったり、守ったりして遊ぶ経験ができるようにする。

＜活動名＞ 鬼ごっこ「鬼が多いから、離れちゃう！」

＜活動のねらい＞

- ・友達と一緒に簡単なルールを考えたり作ったりしながら、遊びを進めていく。
- ・ルールを守ることで楽しく遊べることに気付く。

＜活動の経緯＞

- ・4歳児後半から陣取り鬼や氷鬼など簡単なルールのある遊びを楽しんでいる。
- ・保育者と一緒にやり始めた手つなぎ鬼を、幼児同士で始めていく姿がある。

＜環境の構成＞

- ・十分動きが楽しめるように広い場所で行う。
- ・狭い園庭の場合は、園内で園庭の使用時間を調整する。また、遊びの様子に合わせて、植え込みや物陰などに隠れながら鬼ごっこを楽しむなど、意図的に場所の選択をしていく。
- ・クラスみんなで、ルールを共通理解する場を設ける。



<p><幼児の活動> 「昨日の手つなぎ鬼しようよ!」「いいよ、やろう、やろう。」 「手つなぎ鬼する人この指とおまれ。」と、8~9人の幼児で始める。</p> <p>ア <鬼が多いから、離れちゃうよ!> ・「鬼が多いから、離れちゃうよ!」「〇〇ちゃんが反対に走るからだよ!よく走れない!」「だってさ、△△ちゃんを捕まえようと思ったんだ。」「逃げる人が速すぎて捕まらないから、つまらないよ!」と言い出す幼児がいる。 ・保育者「鬼が多いとうまく走れないのね。困ったね…。」 ・「あのさ、長すぎなんじゃないのお!」「鬼が長すぎると、すぐ離れて走れないよね。」「さっき引っ張られて転んじやったよ。」</p> <p>イ <分かれて走ってもいいことにしよう!> ・「じゃ、鬼が長くなったら、分かれることにしようか?」「そうだね、分かれてもよいことにしようよ!」「でも、手つなぎ鬼だから、手をつないで走らないとだめだよ。」「一人はだめだよね!」「うん。」 ・「いいねえ。分かれてもいい。そうしよう!」「鬼は手をつないで走る。一人は無しね。」 ・保育者「なるほど、鬼は一人でなければオーケーね。分かれて走っていいということね。」 ・「よおし、決まった!みんないいね?」「いいよ!」と、新しいルールで手つなぎ鬼を始める。</p> <p>ウ <ルールは守ってよ!> ・鬼ごっこを続けているが、また、問題が起きてくる。 ・「〇〇ちゃんタッチしたよお。」「ええ、されてないよお。」「したよ!ちゃんとルールは守ってよ!」「分かった!」 ・鬼が分れる時「◇◇ちゃんがいい。」とペアを選ぶ姿が見られる。「そんなことを言ったら、ほら逃げられちゃうよお」「真ん中で分かれて、早く走らないと…。」と言われ、すぐに遊びを続けていく。</p> <p>エ <みんなが分かった> ・鬼ごっこの仲間から今日困ったことや新しいルールを作り楽しく遊んだ話をしてもらい場をつくり、クラスみんなが新しいルールを共通理解できるようにする。</p>	<p><経験している内容></p> <p>ア よく走れない理由は、人数や走る方向の違いによることに気付く。</p> <p>ア 自分の感じたことや思ったことを友達に伝える。</p> <p>ア 人数が多くて転んだことを訴え、何とかして解決したいという思いを出す。</p> <p>イ どうしたらよいか、考えを出し合いみんなで共通理解する。</p> <p>イ 手を離し分かれて走っても良いことをルールとしているが、一人で走るとはしないと共通理解していて、手つなぎ鬼遊びの基本を理解している。</p> <p>イ 遊びやすいルールに変わり、遊びへの意欲が増す。</p> <p>ウ ついついルールを破ってしまったが、友達に言われたことを素直に受け止める。</p> <p>ウ 友達に言われたことにすぐ応じて、自分の気持ちを切り替え、遊びを続けていく。ルールは守らなくてはいけないという気持ちももてる。</p> <p>エ クラスみんなに話を聞いてもらうことで、自分たちで問題を解決し、ルールを守って遊べた満足感を実感する。</p>
<p><援助のポイント></p> <p>ア 仲間思いを出し合っている中で、何が問題となっているのかを把握しながら見守っていく。</p> <p>イ 仲間考え合い、仲間の合意の下で決められたルールであることを確認していく。</p> <p>ウ ルールが分かり、みんなで守って遊ぼうとしている姿を受け止め見守っていく。</p> <p>エ 仲間考えたルールをクラス全体に話す場を設け、みんなでルールについて考え合ったり共通理解したりすることができるようにする。</p>	
<p><小学校へのつながり></p> <p>・幼児期に、ルールのある遊びを進める中で起きてくる様々な問題を保育者と幼児が共に考え合いながら、みんなでルールを守って遊ぶと楽しいという心情や態度を培うことが大切である。</p> <p>・小学校生活で休み時間に友達と仲良く遊び、関わりを楽しんだり、学級活動や体育の時間などでルールのある活動をしたりする時の基礎的な心情や態度につながる。</p>	

<経験させたい内容>

自分の持ち物や共同の物の整理・片付けを必要感を感じて自分からする。

<育みたい幼児の姿>

- A 基本的生活習慣が身に付き、毎日繰り返していることの意味や大切さが分かって行動するようになる。一日の生活の見通しがもてるようになり、次の活動のために今すべきことを効率よく行えるよう考え、素早い行動をするようになる。
- B 集団の動きに合わせて行動しようとするようになるが、意識の持ち方は個々の幼児により違いが見られることがある。
- C 課題を意識しながら一日の生活を組み立てていけるよう、簡単な見通しをもち意欲的に取り組む経験を積み重ねられるようにする。

<活動名> **片付け「そうだ、今日は誕生会の司会の練習だ」**

<活動のねらい>

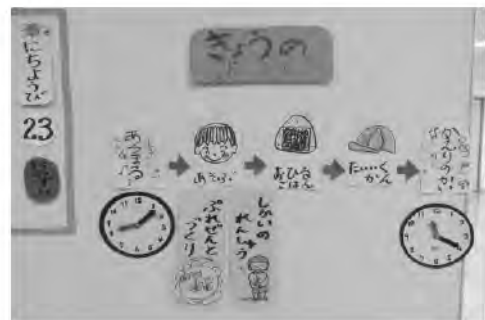
- ・ 1日の生活の流れに見通しをもち、自分なりに簡単な予定を立てて生活しようとする。
- ・ 自分で気付いたり友達の様子を見て思い出したりして、自分から片付けたり行動したりしようとする。
- ・ 友達同士で声を掛け合いながら、自分たちで生活を進めていこうとする。

<活動の経緯>

- ・ 自分の物や共同の物を大切にすることや、気持ちよく生活するためにどうしたらよいかを考える機会を繰り返すことで、徐々に生活の仕方を自分たちで考え行動できるようになりつつある。

<環境の構成>

- ・ 週のカレンダーやその日の予定について、見て分かるような掲示をし、行動の見通しがもてるようにする。
- ・ 幼児の行動の動線を考え、登園後の持ち物の始末がやり易く提出物の置き場などが分かりやすいように設定する。
- ・ 提出することや登園前に準備する物への意識がもてるように、提出物を出したことが一見して分かるような表を掲示し、自分で印を付けられるようにする。



<p><幼児の活動></p> <p>ア <あしたやることは・・・> ・前日の帰りの会で、あしたの予定をクラスの友達と相談する。</p> <p>イ <おはよう！ 今日は誕生会の司会の練習だ> ・登園後、今日の予定を掲示してある場所に行き、「あっ、今日は誕生会の司会の練習だ。長い針が〇からだから、先に遊ぼう。」と言いながら持ち物の始末をする。コップを持って、「うがい、うがい、忘れずに…。」と言いながら流しに行く。</p> <p>ウ <そうだ、出すものがあった> ・「あれえ、これなんだっけ。」とかごを覗き込み、「あっ、健康カードを出すんだった。」とかばんから出してかごに入れる。友達が書くのを見て、同じように表の自分の名前のところ提出した印を付ける。</p> <p>エ <司会の練習の時間だよお> ・「長い針が〇になったよお、司会の練習をする時間だよお。」と友達が知らせに回っている。「はあい、片付いたら行きまあす。」と使っていた大型積み木を片付け始める。 ・一人で運ぶことが難しい長い積み木の片方を持ち上げて、「誰か手伝ってえ」と言うと、近くにいた友達が「いいよ」と運ぶのを手伝う。クラスのみんなと相談して決めた安全な一定の高さまで積み上げた。しかし、場所によって積み木がでこぼこしたところがあるのを見て、立方体や直方体の積み木を数人の友達と一緒に入れ替え整えている。</p> <p>オ <積み木の片付けオッケー> ・全ての積み木を平らに片付け「よし、平らになったぞお」「これでオッケー」などと言う。 ・時計を見て、一緒に司会をする友達が集まり始めている方を見ながら自分の椅子を取りに行く。友達と一緒に座り、司会の練習が始まるのを待っている。</p>	<p><経験している内容></p> <p>ア 誕生会の司会について、今までの経験を基に見通しをもって相談に参加し、あした、練習をしようとする。</p> <p>イ 予定表を見ながら、昨日の帰りの会に相談したことを思い出し、今日やることに見通しをもって生活しようとする。</p> <p>イ 持ち物の始末や手洗い、うがいなど、することの手順を考え、無駄のない動きで素早く済ませ、次の活動に取り掛かろうとする。</p> <p>ウ 体重測定の結果を家庭に知らせたカードを返却することに自分から気付く。表に印を付け、自分が返却したことを意識し確認する。</p> <p>エ 自分たちで声を掛け合って片付けや練習の始まることを知らせる。</p> <p>エ 次にすることが分かり、意識をもって片付けようとする。</p> <p>エ 自分の遊んだものだけでなく、困っている友達を気持ちよく手伝い、みんなで片付けようとする。</p> <p>エ 積み木を片付ける時の安全な高さや片付け方について、クラスの友達と相談したことが分かり、みんなで守って生活しようとする。</p> <p>エ 積み木の形の特徴を考えながら、平らに片付けられるように積み木を入れ替えることを楽しむ。また、きちんと整理された環境の心地よさを感じる。</p> <p>オ きれいに片付いたことで気持ちの切り替えが付き、誕生会の司会の練習に意欲がもてるようになる。</p>
<p><援助のポイント></p> <p>ア 帰りの会などで、その日の活動を紹介したりあしたの活動について相談したりする時間を設け、翌日の活動に期待をもてるようにする。</p> <p>イ・ウ・エ その活動に期待をもつことで、予定時刻を意識して素早く片付けたり友達同士で助け合ったりする気持ちがもてるようにする。</p> <p>ウ・エ・オ 自分で気付いたり行動したりする姿や、お互いに知らせ合いながら自分たちで生活を進めていこうとする姿を十分認める。</p> <p>◎ 自分たちで生活の仕方をつくっていける自信をもたせていく。</p>	
<p><小学校へのつながり></p> <p>・幼児期に、幼児なりに生活の見通しをもち、計画を立てたり時間を意識したりしながら園生活を送ることで自律した生活の基礎を培うことができる。</p> <p>・小学校生活の一日の流れを意識し、学習の準備・片付けなど様々な学習活動を自主的に進め取り組んでいく構えをもつことにつながる。</p>	

＜経験させたい内容＞

栽培、収穫、調理を通して、食べる喜びを感じる。

＜育みたい幼児の姿＞

- A 自分たちでできることはやりたいという気持ちが強くなる。栽培、収穫の喜びを味わってきたことにより、自分たちで調理したいという気持ちが高まってきている。また、手先が器用になり、思うように道具を扱うことができるようになってきている。
- B 栽培への興味・関心が薄く、収穫の喜びも味わいきれず、調理したいという意欲の低い幼児もいる。
- C 保育者や友達と一緒にする栽培、収穫、調理を通して、食べ物に触れ様々なことを感じ、みんなで食べる楽しさを味わう経験ができるようにする。

＜活動名＞ **調理「みんなで作ったお芋おいしいね」**

＜活動のねらい＞

- ・自分たちで育てた物を調理する喜びや、みんなで食べる楽しさを味わう。
- ・見る、触れるなど諸感覚を使って食への興味・関心を広げ、達成感や満足感を味わう。
- ・一緒に調理してくれた人への感謝の気持ちをもつ。

＜活動の経過＞

- ・夏野菜の栽培や収穫、月見団子やおにぎり作りの調理など、みんなで食べるとおいしいという経験をしている。
- ・春にサツマイモの苗を植え、夏に水やりや草取りの世話をし、秋に収穫の喜びを味わっている。サツマイモに対する興味・関心が高まり、みんなで調理することに期待している。
- ・前日、天日干ししたサツマイモをきれいに洗い、芋に触れ感じたことを様々に言葉に表している。

＜環境の構成＞

- ・調理体験当日までに担当する職員で事前打ち合わせを行い、手順や方法、安全管理等について共通理解しておく。
- ・アレルギー食の有無を確認し、全員で作って食べることができるメニューにする。
- ・調理の手順や方法を写真や図に掲示し、見て分かるようにする。
- ・火の使用時には、危険のない空間を取り、場所を設定する。
- ・幼児が使用する三角巾やエプロンは家庭に用意してもらい、調理することに期待をもてるようにする。

<p><幼児の活動></p> <p>ア <芋団子をつくろう！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を洗い、エプロンや三角巾を着用し、調理の手順や方法、約束などを聞く。幼児に分かりやすく、具体的に説明する。 <p>イ <ぶくぶくしてきたよ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な所に設置したコンロで、サツマイモを蒸す。「ぶくぶくしてきたよ。」「煙みたいのが出てきたよ。」と興味をもってじっと見ている。 ・保育者は、安全に注意するとともに、幼児の言葉に共感し、期待がもてるように見守っていく。 <p>ウ <いい匂いがする！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒸かしたてのサツマイモを見て、「熱そう。」「いい匂いがする。」などと言い合う。「ボール押さえて。」「簡単につぶれたよ。」「ねばねばお餅みたいだよ。」と、グループごとにサツマイモをつぶし、さらに、他の材料を入れて混ぜ合わせることを楽しむ。 ・「大きいのにする。」「平らに伸ばす。」と言いながら形を作り天板に載せる。調理室に運び、できあがりに期待をもつ。 <p>エ <みんなでつくったからおいしい！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した芋団子を見て、「おいしそう！」「いい匂いがするよ。」「焦げている。」「みんなで作ったからおいしいね。」と食べることを楽しんでいる。 ・サツマイモを蒸かしたり焼いたりして、手伝ってくれた調理さんと一緒に食べる。「お芋を蒸かしてくれてありがとう。」と感謝の気持ちを言葉で伝える。 	<p><経験している内容></p> <p>ア これから始める調理について、内容を分かろうとし集中して聞く。</p> <p>ア 調理する時の約束を知り、守ることの大切さに気付く。</p> <p>イ 蒸す様子をじっと見、気付いたり感じたりしたことを言葉に表す。</p> <p>ウ サツマイモの熱さや匂い、軟らかくなったことなどを感じ伝える。</p> <p>ウ 役割分担し協力して調理することを楽しむ。</p> <p>ウ 仕上がりをイメージし、できあがることに期待感をもつ。</p> <p>エ できあがりを見て、自分たちが作ったという達成感や満足感をもち、みんなで食べることを楽しむ。</p> <p>エ 手伝ってくれた人に感謝の気持ちをもち、伝える。</p>
<p><援助のポイント></p> <p>ア 説明は、実際にやって見せるなどしながら、幼児に分かりやすく行う。</p> <p>イ 安全に配慮するとともに、幼児の言葉に共感し、興味・関心をもつ様子を受け止めていく。</p> <p>ウ みんなで協力して取り組んでいる姿を認め、自分たちが作っているという気持ちを大切にしている。</p> <p>エ みんなで作り、みんなで食べる楽しさを十分に味わえるようにするとともに、手伝ってくれた人を招待し、感謝の気持ちを伝えられるようにする。</p>	
<p><小学校へのつながり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期は、自分たちで育てた物を調理し、友達と一緒に食べることを楽しむなどして、食への関心や意欲を更に高めることが大切である。 ・小学校で学級のみならず給食を喜んで食べたり、生活科での栽培活動に見通しや喜びをもって取り組んだりすることにつながる。 	

＜経験させたい内容＞

いろいろな運動遊びに自信をもち、友達の中でも力を発揮する。

＜育みたい幼児の姿＞

- A 物事に見通しをもち、周りの状況を踏まえた行動や考え方ができるようになる。友達の一生懸命な姿を認めたり応援し合ったりしながら自分も一緒に喜び、クラス内の関係がつけられてくる。
- B 友達の刺激を受け、苦手なことにも挑戦してみたり繰り返し繰り返し取り組んだりする意欲が育ってくるが、うまくいかないと諦めてしまうことがある。
- C 保育者の認めや援助、クラスの友達からの励ましに支えられ、一歩ずつ着実に乗り越えていくたくましさをもち、やり遂げられた自信をもてるようにする。

＜活動名＞ 縄跳び「続けて10回まで頑張るぞお」

＜活動のねらい＞

- ・友達の刺激を受け、自分なりの目標をもち取り組む。
- ・自分なりの目標をもち諦めずに繰り返し取り組み、達成できた満足感をもつ。

＜活動の経緯＞

- ・遊びの中では体を動かすことを十分楽しんでいる。また、運動会や子ども会では自分の力を出すことで変化していく自分に自信をもち満足感を味わえるようになってきている。こうした自信をもつことにより、徐々に苦手なことにも挑んでいく意欲がもてるようになってきている。

＜環境の構成＞

- ・やろうとする目標や方法を図や回数表示などで分かりやすくし、見通しをもちながら目標に向かっていけるようにする。
- ・一人一人の力が発揮できるような機会を設け、自分でできるようになったことに自信をもち、次に向かっていけるようにする。
- ・毎日繰り返しやってきたことやその成果が見て分かるような個人カードや表を活用し、目標をもち励みになるよう工夫する。



<p>＜幼児の活動＞</p>	<p>＜経験している内容＞</p>
<p>ア <ぼくもできるようにになりたい！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間前から、1日の決まった時間に、縄跳びを練習する時間を設け、毎日やっている。 ・A児は、縄を後ろから回しては跳び、回しては跳びを繰り返している。友達が跳べるようになってゆくのを見て、友達とは少し離れた所で練習を始める。 <p>イ <なかなか続けて跳べないなあ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多く跳ぼうとやたらに縄を早く回し、足に絡まってしまう。「縄をゆっくり回してごらん。」と保育者が励ますと、「きのうは8回跳んだんだけどさあ。」と不満気と言うが、縄をゆっくり1回ずつ回して跳ぶ。 <p>ウ <頑張るぞお></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数日後、「見ながら教えて。」と保育者に言いに来る。近くにいた友達も一緒に数え始め、A児の顔が赤くなってくると「30回を越えたよお。」「頑張つてえ。」などと言う。 ・「腕を後ろから回すのが、軽くできるようになってきたねえ。」と保育者が動きのよいところを認めると、A児は、また練習を始める。跳んだ回数を保育者が記入すると、嬉しそうにカードを見ている。その後、練習を繰り返し、続けて少しずつ跳べるようになる。 <p>エ <跳べたあ！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後日、友達と一緒にあって繰り返し跳ぶ姿が見られる。A児が自信をもちつつある時に、みんなの前で縄跳びを披露することになる。緊張気味で、始めは数回で止まってしまったが、「頑張れえ。」「落ち着いてえ。」と友達に声を掛けられると再び跳び始める。「跳べたあ！」跳び終わると友達からたくさんの拍手を受け、嬉しそうな顔をする。 	<p>ア 友達の刺激を受け、自分のできそうなことをしようとする。</p> <p>ア 跳べるようになりたいという思いをもってしようとする。</p> <p>ア 諦めずに繰り返ししようとする。跳べる友達から少し離れた所で、自分なりに1人で練習する。</p> <p>イ 連続して跳べるわけではないが、自分なりに1回ずつ跳ぶことを目標に繰り返す。</p> <p>ウ 繰り返し跳び、跳べる回数が増えていくことに満足し、更に跳ぼうとする。</p> <p>ウ 縄跳びカードに自分の頑張ったことが現れ、意欲をもつ。</p> <p>エ 何回も跳べるようになったことが嬉しく、成果を保育者や友達に見てほしいと思う。また、認めてもらえることが嬉しい。</p> <p>エ 緊張しながらも、友達の前で一生懸命に縄跳びをしようとする。</p> <p>エ 友達の応援で励まされ、頑張つて自分の力を出しきれたことに満足感をもつ。</p>
<p>＜援助のポイント＞</p> <p>ア・イ 個々の幼児の状況に合わせ、達成できそうな目標をもてるようにする。</p> <p>イ・ウ 繰り返しする意欲がもてるよう見守りながら、できるようになったことを具体的に認めたり励ましたりする。</p> <p>ウ・エ A児の一生懸命な姿を、周りの友達や保育者が認めたり励ましたりする雰囲気大切に。また、少しずつできるようになっていくことの嬉しさを、友達や保育者が共有し、A児がそれを受けてまた頑張ろうとする意欲がもてるようなクラスの人間関係をつくっていく。</p>	
<p>＜小学校へのつながり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期に、保育者や友達に温かく支えられ、苦手なことにも挑戦できるようになっていく喜びや自信をもつ経験が大切である。 ・小学校での学習や運動に意欲的に取り組み、目標に向け困難なことにも粘り強く乗り越えていこうとする心情・意欲・態度の育成につながる。 	

＜経験させたい内容＞

文字や数を必要に応じて生活や遊びに取り入れて使う。

＜育みたい幼児の姿＞

- A 文字や数への興味・関心も大きくなり、生活や遊びの中での必要感から使っていく姿が増えてきている。
- B 自分が思うように書くことができずイライラする、友達の書いた文字や数字の間違いを注意する、模倣して書き自分なりに書けたと満足するなど様々な姿が見られ、個人差が大きい。
- C お正月遊びやごっこ遊びをする中で文字や数に親しみ、自分なりに取り入れて使い、遊びがより楽しくなったり、自分の思いを伝えられる喜びを味わったりすることができるようにする。

＜活動名＞ 郵便屋さんごっこ「手紙ができた！返事がきたよお！」

＜活動のねらい＞

- ・自分の思いや考えを絵や文字、数字、記号など様々な方法で表現し、伝える楽しさを味わう。

＜活動の経緯＞

- ・日常生活の中で、絵本や言葉集め、しりとり、かるたなど言葉を使った遊びを楽しんでいる。
- ・文字を読んだり書いたりする姿が多く見られる。
- ・幼児同士で、好きな絵や文字、記号などを書いて、見せ合ったり、友達に渡したりするやりとりがある。

「おなまえかけるよ」「〇〇ちゃんえ（〜）」文字を書く

「〇☆〇♡××」記号を書く 「1こ10えん・・・」数字を書く など

＜環境の構成＞

- ・カレンダーや時計、50音の絵本、平仮名のスタンプなどを身近に置き、文字や数字に興味をもてるようにする。
- ・園に届いた年賀状を紹介したり、幼児の見やすい所に掲示したりし、興味をもてるよう工夫する。
- ・郵便屋さんごっこの遊びが広がってきているので、幼児が書きたい時に友達に手紙を出せるように、はがきサイズ（番号表示あり）の画用紙、鉛筆、色鉛筆、ペン等を出しておく。

<p><幼児の活動></p> <p>ア <私もBちゃんに手紙を出したいな></p> <ul style="list-style-type: none"> ・はがきに絵を描いて、横に「また あそぼうね」と字を書いている。「できた。」と嬉しそうに言う。 ・友達の様子を見て、A児「私もBちゃんに手紙出したいな。」と、はがきを取りに行く。 <p>イ <お手紙を書こう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・A児はいつも一緒に遊んでいる大好きなB児に「た(だ) いすき」という字と、手をつないでいる女の子の絵を描き、ハートや星の形も描く。 <p>ウ <できた!></p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣にいた友達がA児の書いた手紙を見て、「手紙をあげる人の名前と自分の名前も書くよ。」と、自分のはがきを見せてくれる。 ・友達のはがきを見ながら、B児の名前を書く。小さな四角の中には(郵便番号記入覧)数字が書いてあったのを見て、A児「これなあに?」と聞く。「郵便番号だってよ。」「ふうん。」と真似をして、<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 1 - <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> と、数字や記号を書く。最後に自分の名前を書き「できた!」と喜び、部屋にあるポストに入れる。 <p>エ <返事がきたよお></p> <ul style="list-style-type: none"> ・A児も、「早く返事がこないかな…」と、そわそわしていると、待っていたB児からの手紙が届き、嬉しそうに読んでいる。 ・手紙には、「私も大好き。遊んでね。」や女の子の絵も描いてあり、A児の名前が書いてある。「私の絵を描いてくれたのね。」と嬉しそうに保育者に話してくる。 	<p><経験している内容></p> <p>ア 友達の嬉しそうな表情を見て、A児も友達に書いてみたいという気持ちが起きる。</p> <p>イ 仲良しのB児に自分の気持ちを伝えようと考えながら書く。</p> <p>イ 濁点には気付いていないが、A児は「だ」と書いたつもりで満足する。</p> <p>イ A児は自分の思っている気持ちを文字や絵で表し満足する。</p> <p>ウ 友達から宛名の書き方を教えてもらい、同じように書いている。「自分も手紙が書けた」という自信や、「これで手紙が出せる」という安心感をもつ。</p> <p>エ 待っていたB児からの返事が届き、嬉しい気持ちになる。</p> <p>エ 返事を読み、相手に自分の気持ちが伝わったことが分かり、相手の気持ちも自分に伝わってくる喜びが大きい。</p>
<p><援助のポイント></p> <p>ア 手紙を書きたくなかった時にいつでも書けるように、環境を整えておく。</p> <p>イ 友達の様子から刺激を受けて自分も書いてみようとする幼児の気持ちを見守っていく。</p> <p>ウ 正しい文字や数ではないが、自分なりに書いたつもりになったり、書けた嬉しさを感じたりしている様子を大切にしていく。</p> <p>エ 友達から返事をもらった喜びや自分の思いを文字や数、記号に表し、友達に伝わったという嬉しさに共感する。</p>	
<p><小学校へのつながり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期に、文字や数、記号等を使ったやり取りのある遊びを楽しみながら文字などに親しみ、自分なりに表現し伝わり合う嬉しさを経験することが大切である。 ・小学校での平仮名や数字等の学習に意欲的に取り組み、文字を使って気持ちや考えを伝えられる喜びにつながる。 	

＜経験させたい内容＞

経験したこと、感じたことなどを分かるように話す。

＜育みたい幼児の姿＞

- A この時期は、楽しかったことや考えたことなど、自分の思いをみんなの前に立ち少しづつ言葉で伝えられるようになってくる。また、伝えたい思いが出てくる。
- B 相手に十分に伝わるように話したり順序立てて話したりすることはまだ難しい。
- C みんなで共通体験したことを題材にして話したり聞いたりすることで、伝わった、共感してもらえたという喜びを経験できるようにする。

＜活動名＞ **お話「運動会楽しかったよ」**

＜活動のねらい＞

- ・運動会で楽しかったことや頑張ったこと、経験したことを、友達の前で話したり聞いたりし、伝える喜びを味わう。

＜活動の経緯＞

- ・9月の初めには、夏休みの体験を絵に描き、みんなの前で楽しかった思い出の話をする経験をする。
- ・10月の運動会后、振り返って楽しかったことや頑張ったことなどをみんなで伝え合う。
- ・運動会で楽しかったこと、頑張ったこと、経験したことを絵に描く。描いている時に、一人一人が表現したいことや伝えたいことをはっきりもてるように保育者が確かめたり引き出したりしていく。
- ・運動会の思い出を絵に描いたが、クラスのほとんどの幼児がリレーの絵を描いていた。毎日、繰り返しチーム対抗のリレーを楽しんでいる。紅白チーム共に交互に勝ったり負けたりしながら運動会の日を迎えた。リレーを始めた頃は負けることを悔しがったり、怒ったりすることもあったが、徐々にクラスの友達の一生懸命に走る姿を互いによく見ていて、認め合う様子が見られるようになってきた。

＜環境の構成＞

- ・みんなが共通体験した運動会という誰が聞いていても分かりやすく伝わりやすい題材を選ぶ。
- ・絵をパネルに貼り、話をする幼児は、絵の横に立つようにする。話を聞く幼児は、パネルの前の床に座らせる。話をする幼児、聞いている幼児、両方からよく絵が見えるようにする。
- ・クラスの前で、描いた絵を見ながら話をしてもらい、友達の前で話したり聞いたりする時にイメージが浮かびやすいように、描いた絵をパネルに貼っておく。



＜幼児の活動＞	＜経験している内容＞
<p>ア <リレーが楽しかった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A児は、「リレーが楽しかったです。」と、友達が走っている絵を見せながら話す。 ・ 保育者「どんなところが楽しかったですか？」 ・ A児「僕がバトンタッチしたBちゃんが、すごく速く走って白チームを追い抜いたから楽しかった。Bちゃんが頑張っていた。」 <p>イ <Bちゃんは頑張ったね></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者「それは楽しかったね。この絵はAちゃんかな？」 ・ A児「違うよ、これはBちゃんがすごく頑張って、追い抜いているところ。」 ・ 保育者「そう、Bちゃんが頑張って走っているところなのね。Bちゃんはどんなふうに頑張っていたの？」 ・ A児「僕が白チームにもう少しで追いつきそうになってBちゃんにバトンタッチした。すごいスピードで走って、白チームを抜かしたの。手と足をいっぱい動かして、すごい顔して走っていた。もう、速く走れないくらい速かったよ。」 ・ 「そうだよね。Bちゃんは頑張ったよね。」と聞いている幼児も相づちを打つ。「でもね、白チームも速かったよ。追い越すのが大変だったもん。」と、相手チームを認めようとするB児の声に、みんなも納得の表情を浮かべている。 <p>ウ <みんなでジャンプ！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A児「Bちゃんが抜かして勝った時は、嬉しくて立ってみんなで何回もジャンプした。」C児「拍手もしたよ。」 ・ みんな「うん。」 ・ 保育者「お友達の頑張っているところをよく見ていたね。負けてしまった白チームさんは、残念だったね。でも、最後まで頑張ったのは素晴らしかったね。それに、二つのチームが一生懸命走ったことがよく分かったわ。」 <p>エ <みんなに聞いてもらえて、嬉しいな・・・></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者「Aちゃんのお話で、楽しかった気持ちやお友達の頑張りをよく見てあげたことが分かったね。」 ・ A児は、嬉しそうに笑うなずいて席に戻る。 	<p>ア A児は、自分の経験したことや感じたことを友達の前で話す。</p> <p>ア A児は、友達が走る様子を見て心に残ったことを話す。</p> <p>イ A児は、保育者の問いかけで、運動会のことを思い返しながら、その時あったことを順序立てて話す。</p> <p>イ 保育者に「どんなふうに」と促されたことで、A児は自分が見たり感じたりした心に残ることを自分なりに思い起こされる順に言葉で伝える。</p> <p>イ A児の話聞いて、伝わり理解した幼児が応答する。</p> <p>イ B児やみんなも負けたチームの頑張りが分かり、両チームのよさも認めていく気持ちももてる。</p> <p>ウ A児は嬉しい気持ちを状況が伝わるように話す。また、聞いている幼児も、その時の状況を思い起こし心に残ることを伝えようと話す。</p> <p>ウ 保育者の気持ちを聞き、みんなが頑張ったことを認めてもらい、満足感や優しさを感じる。</p> <p>エ A児は、自信をもってみんなの前で話すことができ、満足する。</p>
<p>＜援助のポイント＞</p>	
<p>ア 保育者がインタビュー役として関わり、描いた絵をきっかけに、より具体的な思いを引き出し話せるようにする。</p> <p>イ 話し手が何を伝えたいかを読み取りながらインタビューし、自分の思いを言葉で表していけるようにする。また、話の聞き手が感じたり考えたりした話もみんなで聞き、互いに伝わり合った気持ちももてるようにする。</p> <p>ウ 相手の気持ちも気遣えるように、援助していく。</p> <p>エ 話し手には、みんなに話が伝わり共感してもらえた喜びや話すことができた自信をもたせていく。</p> <p>◎ 運動会という全員が共通体験をし、心に深く残っていることを話題にすることで、聞いている友達もイメージがわきやすいようにする。</p>	
<p>＜小学校へのつながり＞</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期に、言葉で表現する楽しさや友達に伝わった喜びを十分に味わえるようにすることが大切である。 ・ 入学時は、話し言葉から書き言葉へと変化していく時期である。適切に支援していくことにより、入学後の新しい学級で自信をもって自分の思いや考えを伝えることや、学習の中で順序立てて話す、書くなどすることの基礎となる。 	

＜経験させたい内容＞

日本の伝統行事に触れたり経験したりする。

＜育みたい幼児の姿＞

- A 身近な生活の中での出来事や季節に気付き、関心をもったり話題にしたりするようになる。日本の伝統行事においても自分自身の成長と重ねて興味や関心を深め、自分たちの遊びに取り入れていこうとする姿が見られる。
- B それぞれの家庭での経験は様々で、幼児の興味や関心のもち方や体験に違いが見られる。
- C 節分という機会をとらえて、日頃の自分を振り返り考えたり、イメージや思いを友達と共有しながら様々な方法で節分を表現したりなどして、伝統行事を楽しんで体験できるようにする。

＜活動名＞ 節分「豆まきをしよう！」

＜活動のねらい＞

- ・「節分」の由来を知り、興味や関心をもって意欲的に遊びに取り入れて楽しむ。

＜活動の経緯＞

- ・園生活の中で、季節ごとの様々な伝統行事（七夕、十五夜、もちつき、ひな祭りなど）を折に触れて体験している。
- ・年少時では、年長児が扮する鬼に向かって豆まきをしたり、年の数だけ豆を食べたりなどして節分を楽しんでいる。
- ・ままごとなどでは、豆を作って料理したり、豆まきをして遊んだりして楽しむグループもある。

＜環境の構成＞

- ・絵本コーナーに節分に関する絵本を用意し、幼児の気が付きやすい所に設定しておく。
- ・様々な地域の節分の仕方や特徴などを知らせていけるように写真や資料を用意し、幼児の見えるところに掲示しておく。
- ・節分の話聞き、好きな遊びの中でも節分のことを取り入れて遊べるように様々な教材や用具を用意しておき、幼児の“こうしたい”という思いがすぐに実現できるようにしていく。
- ・いわしの頭やヒイラギを飾るなど、クラスの友達と一緒に経験し、伝統行事に親しめるようにする。



<p><幼児の活動></p> <p>ア <節分って何だろう？></p> <ul style="list-style-type: none"> ・節分に関する絵本や紙芝居を見たり、保育者の素話を聞いたりする。 ・節分とは季節を分けるという意味で、節分の翌日が「立春」にあたるということを知る。 ・年少の時よりも、より詳しい節分の話の聞いたり、様々な地域の節分の風習や特徴の話の聞いたりして興味・関心をもつ。 ・節分の歌をみんなで歌う。 <p>イ <自分たちで節分を楽しもう！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・A児「僕はいつもすぐに泣いちゃうから泣き虫鬼のお面を作って自分の中の鬼をやっつける！」 B児「僕はすぐに怒っちゃうから怒りんぼう鬼を作ろう！」などと、自分の中にある追い出したい鬼や弱い鬼について考え、お面を作る。 ・C児「私は素敵なお春が来てくれるように、春の妖精になって踊ったり歌ったりするわ。」 D児「私も一緒にやりたい！」 E児「私も入れて。」 保育者と一緒に妖精の衣装を作ったり、それを身に付けて友達と一緒に曲に合わせて踊ったりする。 ・F児「僕たちは強い鬼だから、金棒を作るよ！」 G児「鬼ヶ島も作ろうよ！」 H児「できあがったら豆も作って豆まきごっこしようよ。」 ・強い鬼のイメージで大きな金棒を作ったりダンボールや巧技台を使って鬼ヶ島を作ったりし、作ったものを使って豆まきごっこを楽しむ。 <p>ウ <豆まきをしよう！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で作ってきた鬼や鬼ヶ島を使い、みんなで豆まきをする。 ・豆まきの最後に、遊びの中で踊ることを楽しんでいたC児たちの春の妖精がやって来て春の訪れをみんなで喜ぶ。 ・みんなで豆を年の数食べたり、いわしの頭とヒイラギを入り口に飾り、追い払った鬼が戻ってこないようにしたりする。 	<p><経験している内容></p> <p>ア 節分の話の聞いたり絵本や写真を見たりし、興味や関心をもつ。</p> <p>ア 節分の翌日が立春だということを知り、新しい春を迎える気持ちをもつ。</p> <p>ア 節分の話の聞くことで自分の興味・関心の幅を広げる。</p> <p>イ 節分の話の聞いて、自分たちの遊びに取り入れる。</p> <p>イ 自分の弱さや気になっているところを思い返すことで、成長した自分を振り返る。</p> <p>イ これまでの経験や技能を活かし、実現していく楽しさを感じる。</p> <p>イ 保育者と一緒に衣装を作ったり話したりすることで、イメージがより具体的になっていく楽しさを感じる。</p> <p>イ 実際に自分たちの手で作っていくことで、イメージを実現していく楽しさや作り上げた満足感を持ち、節分をより身近に感じる。</p> <p>ウ 自分たちで作り楽しんできたものを使って豆まきをすることで、クラスの友達と一緒に節分の日の楽しさを共有する。</p> <p>ウ 節分の日の意味が分かり、豆を食べながら自分自身を振り返ったり、成長を感じたりする。</p>
<p><援助のポイント></p> <p>ア 絵本や素話、写真や様々な地域の風習などを丁寧に知らせることで、幼児が「節分」という行事に、興味・関心をもてるようにする。</p> <p>イ 節分のイメージをもって遊びに取り入れていく姿を受け止め、様々な材料や用具等を準備し、イメージを実現して遊ぶ楽しさを味わえるようにする。</p> <p>ウ 幼児が遊びの中で作り楽しんできたものを豆まきの日にも使うことで、クラスみんなでする節分の意味が分かり、楽しんで体験できるようにする。</p>	
<p><小学校へのつながり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期は、四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れ体験する中で、生活の変化や季節感のあることに気付き興味・関心をもつようになる。 ・小学校生活では、伝統行事の由来などより深く理解できるようになるとともに、昔ながらの日本の生活や昔話、神話・伝承などの読み聞かせや文学作品などの理解が深まることにつながる。 	

(2) 接続後期に児童が経験している授業の事例

ここでは、入学式前週から入学後第2週目までの週のねらいや流れが見通せるように、週の指導計画案(週案)例を掲載しました。事例があるものについては〔事例〇〕と示しています。

各事例は、就学前の経験や学び、保育者の指導を参考にしながら、入学当初の児童の実態に配慮し、新しい環境の中で、児童が安心感をもって生活や学習に意欲的に取り組めるようにすること、その基盤となる学級集団づくりを大切に構成しました。

各小学校では、21ページの経験させたい内容例一覧から就学前に子どもがどのような経験を積み重ねてきているかを把握した上で、各事例を参考にし、小学校入学後に必要な経験は何かを明らかにしながら小学校の生活や学習に円滑に移行していけるよう指導計画を工夫し、丁寧に指導することが望まれます。

◆接続後期に児童が経験している授業の事例の見方

接続後期 事例〇

視 点 (項 目)

1年生 時期

<経験させたい内容>

「接続期に子どもに経験させたい内容例一覧」から、事例として選択した内容を示している

<就学前からのつながり>

『経験させたい内容』を踏まえ、児童が就学前に経験してきたことや入学当初の実態から、本活動を展開する必要性について示しめしている

<活動名〔教科等〕>

[]

<活動のねらい>

<興味・関心をもたせるための工夫>

『就学前からのつながり』に留意し、児童が環境の変化に戸惑うことなく、意欲的に取り組めるような工夫について示している

主な学習活動

指導上の留意点

この授業時間内に、児童が取り組む活動を、流れに沿って記載している

<援助のポイント>

当日の活動の展開だけでなく、単元などの活動全体を通して配慮したいことや援助のポイントを示している

週案例1 4月 入学式前週

週のねらい ○入学式までの準備をする。
○スタート期の準備をする。

前年度

学校の動き

- 9月
 - ・新1年生対象学校見学
 - ・学校説明会
- 10月
 - ・1年生と幼児の交流活動
- 11月
 - ・就学時健康診断
- 2月
 - ・新1年生保護者会
 - ・「就学支援シート（すばるII）」の受け取り
 - ・就学前教育施設からの指導記録・保育要録の確認
 - ・各園との情報交換
 - ・就学前教育施設の参観
- 3月
 - ・新1年生の学級編成作業
 - ・新1年生用教材等発注

担任の動き

- はじめに
 - 要録確認
 - 就学前教育施設からの指導記録・保育要録を確認し、個々の特性や支援の必要な児童を把握する。
 - 児童名簿作成
 - 児童資料の確認（すばるIIなど）
- 学年での打ち合わせ
 - 学年・学級経営について
 - 年間指導計画の作成
 - 登下校指導計画、方面別名簿作成
 - 学区域安全マップの確認
 - 教室環境の学年内での共通化
 - 廊下・主な使用トイレの確認
 - 指導内容の確認
 - 入学式関係準備の分担
 - 使用教材の発注
- 入学式へ向けて
 - 配布物の準備・確認
 - 学年だよりの作成・児童胸の名札
 - 靴箱やロッカー・机の名札準備
 - 教科書、配布教材の確認
 - 学級分けの名簿作成
 - 学級旗準備
 - 入学式のしおり作成
- 教室環境づくり
 - 壁面の掲示作成
 - 机・椅子の数と高さの調整
 - 座席順決定

新年度

児童を迎えるにあたって
○幼保小連絡会や指導要録、保育要録などで個々の特性や配慮を要する児童など実態を把握する。
○教室は、就学前教育施設的生活環境を参考に、明るく楽しく期待を膨らませられる雰囲気構成する。

- 各打合せ
 - 支援の必要な児童のために
 - ・保護者との面談
 - ・環境整備
 - ・指導者や介助者の支援内容確認
 - 6年生担任と教室補助計画
 - ・6年生当番の役割と期間の決定
 - ・朝の時間帯の読み聞かせや簡単なゲームなどの内容確認
 - 2年生担任と生活科の計画
 - ・生活科の学校たんけんの実施方法と期日の確認
 - 交通指導員と下校方法について
 - ・方面別集団下校の方法と週ごとの時程の確認
 - 栄養士と給食指導について
 - ・給食指導に関する内容全般の確認
 - ・アレルギー対応の確認

- 前日準備
 - 新6年生関係指示
 - ・教室装飾
 - ・配布物確認
 - ・ロッカー、靴箱、机、傘立てなどの名前表示
 - ・入学式での手伝いの内容確認
 - 担任準備
 - ・学年・学級経営方針の確認
 - ・入学児童の氏名確認
 - ・入学式の流れ確認
 - ・担任や児童の動きのリハースル
 - ・支援の必要な児童に対してのリハースル
 - ・学級での指導内容と保護者への伝達事項の確認
 - ・校庭、教室などの安全確認

週案例2 4月 第1週

週のねらい ○新しく学んだり、経験したりすることに喜びをもたせる。
○学校生活でのルールを知らせ、守ろうとする態度を育てる。

・(学級指導)(学):学級指導の時間
・学活・学級活動
・行、行事:学校行事

・(1/3):1単位時間(45分)の3分の1の時間(15分)

6 (月)		7 (火)		8 (水)		9 (木)		10 (金)		
行事	入学式	3時間授業	3時間授業 身体計測	3時間授業	4時間授業	4時間授業	4時間授業	4時間授業	4時間授業	
朝	6年生による入室補助 靴箱の位置・教室への誘導・着席 朝の準備の補助 1日目は朝の準備を手順を追って手伝ってもらおう	6年生による入室補助 靴箱の位置・教室への誘導・着席 2日目以降朝の準備は黒板にカードなどを用意し、自分でできるようにしていく 紙芝居や絵本の読み聞かせ	6年生による入室補助 靴箱の位置・教室への誘導・着席 2日目以降朝の準備は黒板にカードなどを用意し、自分でできるようにしていく 紙芝居や絵本の読み聞かせ	6年生による入室補助 靴箱の位置・教室への誘導・着席 2日目以降朝の準備は黒板にカードなどを用意し、自分でできるようにしていく 紙芝居や絵本の読み聞かせ	6年生による入室補助 靴箱の位置・教室への誘導・着席 2日目以降朝の準備は黒板にカードなどを用意し、自分でできるようにしていく 紙芝居や絵本の読み聞かせ	6年生による入室補助 靴箱の位置・教室への誘導・着席 2日目以降朝の準備は黒板にカードなどを用意し、自分でできるようにしていく 紙芝居や絵本の読み聞かせ	6年生による入室補助 靴箱の位置・教室への誘導・着席 2日目以降朝の準備は黒板にカードなどを用意し、自分でできるようにしていく 紙芝居や絵本の読み聞かせ	6年生による入室補助 靴箱の位置・教室への誘導・着席 2日目以降朝の準備は黒板にカードなどを用意し、自分でできるようにしていく 紙芝居や絵本の読み聞かせ	6年生による入室補助 靴箱の位置・教室への誘導・着席 2日目以降朝の準備は黒板にカードなどを用意し、自分でできるようにしていく 紙芝居や絵本の読み聞かせ	
1	(学級指導) 朝の挨拶 連絡帳を出す 提出物を出す ロッカーの場所を知り、ランドセルをしまふ。(向きを揃える) 正しい姿勢・座り方(合言葉) 自己紹介(辞型を示す) 隣の子供と自己紹介をし合い、友達の名前を覚える→全体に自己紹介する	(学) / 国 授業の挨拶(2/3) 道具箱の整理 中の持ち物の記名調べ 教科書と置き道具 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 直線を書く 色鉛筆の出し入れ	(学) / 行 「ならびっこ」(1/3)【事例14】 名前順・・・席のまま・男女別(朝会時と計測時の違い) 計測の前に 着替えの仕方を覚える 一斉計測の仕方を教える 身体計測(2/3)	(学) / 算 「がっこうのきまり」 校庭たんけん・廊下の歩き方 いろいろな場所があり使い方に決まりがあることを知る 探検して気が付いたことを発表しよう 拳手・氏名・発表の練習	生活 / 算 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 / 算 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 / 算 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 / 算 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 / 算 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	
2	行事 入学式 <学級にて> 担任の名前を覚える 自分の席・クラスを覚える 呼名されたら、返事をする 名札を外す 隣席の子と手をつないで並び 翌日の朝の行動を知る	(学級指導) 並び方(名前順) 靴箱の使い方(踵と向きをそろえる) 「きれいにつかおう」【事例13】 (和式トイレの使い方、足を置く位置・流し方を現場で指導する)	生活 教科書を聞く 出し方しまい方 帰りの支度 ランドセルに入れる 帰りの挨拶 地域ごとに並び 帰りの指導	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる
3	行事 写真撮影を待つ間、読み聞かせや簡単なゲーム、写真などを使った学校紹介などを行う 保護者へ配布物や翌日からの説明をする 通学路確認 学年便りの見方 次席連絡 登校時の配慮事項 持ち物の記名 下校	(学級指導) 並び方(名前順) 靴箱の使い方(踵と向きをそろえる) 「きれいにつかおう」【事例13】 (和式トイレの使い方、足を置く位置・流し方を現場で指導する)	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる
4	行事 写真撮影を待つ間、読み聞かせや簡単なゲーム、写真などを使った学校紹介などを行う 保護者へ配布物や翌日からの説明をする 通学路確認 学年便りの見方 次席連絡 登校時の配慮事項 持ち物の記名 下校	(学級指導) 並び方(名前順) 靴箱の使い方(踵と向きをそろえる) 「きれいにつかおう」【事例13】 (和式トイレの使い方、足を置く位置・流し方を現場で指導する)	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる	生活 教科書を聞く 国語の教科書を開いて話をする 「せんをかこう」(1/3)【事例18】 正しく鉛筆を持ちながら運筆練習をする 折れ曲がりの線を書く 「なかつくとりとかかず」(2/3) いろいろな条件に応じて数の仲間をつくる

週案例3 4月 第2週

週のねらい ○就学前の既習事項を振り返らせながら、児童を認めることを大切にして学校生活の楽しさを感じさせていく。
○学校生活、特に授業中のルールについて定着させる。

13(月)		14(火)		15(水)		16(木)		17(金)	
行事	1年生を迎える会 給食開始	4時間授業		4時間授業		4時間授業		4時間授業	
朝		6年生と朝の学習準備・読み聞かせ		6年生と朝の学習準備・読み聞かせ		6年生と朝の学習準備・読み聞かせ		6年生と朝の学習準備・読み聞かせ	
	児童朝会	日直と朝の会 台本を元に日直が朝の会を進行をする 出欠カードを保健室へ持っていく		朝の健康観察・朝の会 おへんじりしー【事例12】 健康観察の後、返事をし一言話 す練習をする		並んで体育館に行く 朝の健康観察・朝の会 おへんじりしー		朝の健康観察・朝の会 おへんじりしー 1週間の振り返り	
行 / 国	1年生を迎える会 (1/3) 歌と言葉 整理 「はる」(2/3) 声に出して読む ひらがな	「おんどく」 「ひらがなをおぼえよう」 鉛筆の持ち方に注意してひらがなを書 く 言葉集め		「おへんじりしー・きょうのひとこと」 返事の仕方・話すときの声の大きさ・ 体の向き・話型の指導 【事例12】		「おんどく」 「ひらがなのれんしゅう」 「ことばあつめ」 書くときの姿勢 鉛筆の持ち方 発言の時のルール		「おんどく」 「ひらがなのれんしゅう」 「ことばあつめ」	
算 / 生	「いくつかな」(2/3) おはじきを使う 数字を書く 絵に色を塗る 「おりがみであそぼう」(1/3) チューリップを作って教室に飾る 就学前の想起	「たのしくうたおう」 音遊び 知っている歌 就学前に歌っていた歌を歌う		「ならびっこ」 「こうていゆうぐ」 家庭遊具を使ってゲームをする 遊具の使い方のルールを知る 休み時間の使い方も指導する		「しぜんとなかよし ～はるをさがそ う・たのしかつたよ～」 学校で春を探して遊ぶ 就学前の想起 タンポポのストローや草笛など就学 前に経験したことを想起させながら 春を見つけて遊ぶ 【事例20】		「いくつかな」【事例19】 1～5の数字を書く 積み木などの道具を使った操作活動	
図画工作	「せんのおざんぼ」 クレパスを使い、いろいろな線を描 き、周りに好きなものを描き足して いく 図工専科の協力の下、クレパスを使 って絵を描かせる線を描いた後は、 自由に見立てさせて好きなように描 かせる	「ならびっこ」 「かけっこ」 スタート・走り方 走り終わった時の待ち方 「おにごっこ」 就学前にしていたようなゲームをする 例 猛獣狩りゲームなど		「いくつかな」 数の仲間づくり 積み木などの道具を使った操作活動 数字を書く		「たのしかつたよ」【事例20】 生活科で遊んだ中で好きなことを絵に 描く (絵が描きにくい場合は、瀬んでき た花などをブックカードではり、付け 加えるようにして描かせる)		「こんなとき どうする？」 困った時にどうしたらよいか、場面絵 から対処法を考え、声に出して言う 困っている友達への声の掛け方や、掛 けてもらった時のお礼の言い方を、声 に出して言う	
(学級指導)	「たのしいきょうしよく②」【事例17】 給食当番の仕方や準備・片付けの指導 をする アレキギー対称食の扱いを知る 食べる時間を確保する	「いくつかな」 数の仲間づくり 積み木などの道具を使った操作活動		「ひらがなのれんしゅう」 ひらがなを書く		「いくつかな」 数字を書く		「おとなりざんとなかよし」(2/3) 【事例10】 班や列の分の名刺を作り、自己紹介を する 自己紹介の語型を指導し、丁寧な言葉 遣いで互いに伝え合えるようにする 【事例10】 「名刺交換ゲーム」(1/3) 【事例10】	

<経験させたい内容>

担任の先生や友達の名前を覚え、進んで関わる。

<就学前からのつながり>

- ・就学前には、人数の多少はあるが学級集団の中で保育者や友達との関わりを深め自己を発揮してきた。
- ・入学当初は、新たな学級集団への期待と共に緊張を感じる児童が多い。同じ園の出身者がいることで安心感をもつ児童もいるが、顔見知りがおらず、教室に入ることに不安を感じる児童もいる。
- ・そこで、児童が早く学級集団に適応し安心して自己を発揮できるよう、友達の名前を覚える活動を取り入れるなどして人間関係を広め良好な関係を築くことが大変重要である。友達をたくさん作ることに希望をもっている児童が多くその意欲をつなげることも大切である。

<活動名〔教科等〕> **おとなりさんとなかよし**〔生活科・学級活動〕

<活動のねらい>

- ・同じ学級の友達の名前を覚えるなど友達のことを知り、親しみの気持ちをもつ。
- ・ゲームに楽しく参加し、進んで友達と関わる。

<興味・関心をもたせるための工夫>

- ・名刺は、絵を描いたり色を塗ったりする活動を取り入れ、児童が楽しんで作ることができるようにする。

	主な学習活動	指導上の留意点
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の名刺を作る。 ○名刺を渡す時には、自分の名前を言ってから渡すことを知る。 ・「わたしは～です。よろしくお願いします。」 ○隣の席の友達と名刺交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・扱いやすい名刺の大きさや児童の実態に応じた筆記用具を工夫する。 ・話型を示し、教師と何人かの児童が名刺交換をして見せる。
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ○名刺交換ゲームをする。 ・音楽にあわせて歩き音楽が止まったら近くにいる友達とペアを作る。 ・挨拶をして、名刺交換をする。 ・名刺交換後にじゃんけんをして勝った児童から先に質問をする。 ・ペアを代えて何回か行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのねらいや進め方を分かりやすく伝え期待感を高める。 (実演、手順の掲示など) ・全員がペアになれるよう配慮する。 ・「わたしは～です。よろしくお願いします。」「好きな遊びはなんですか。」「好きな遊びは～です。」などの話型で丁寧に話すようにさせる。

<援助のポイント>

- ・この時期は、まだ平仮名を習得していないため、児童の実態に応じて、名刺の紙に手本としてあらかじめ名前のゴム印を押しておくなど工夫する。
- ・ゲームにうまく参加できない児童には声を掛け、友達と関わるように援助し、名刺交換できたことを認め自信がもてるようにする。

＜経験させたい内容＞

当番や係の仕事を覚え、進んで取り組む。

＜就学前からのつながり＞

- ・就学前には、保育者の援助のもと、グループごとに毎日の掃除や生き物の世話、出席調べなどの仕事に分担して取り組み、互いに協力して園生活を過ごしてきた。
- ・入学後、5月ともなると学級にも大分慣れ友達関係が広がるようになる。このような時期を捉えて学級集団に着目させ学級への所属感を高めることが大切である。
- ・そのためには、友達の役に立つことに喜びを感じることを大切に、係活動を通して具体的な仕事の内容を見付けたり覚えたりすることに意欲的に取り組めるようにしていくことが必要である。

＜活動名〔教科等〕＞ **がっきゅうのしごとをしよう**〔学級活動〕

＜活動のねらい＞

- ・学級の仕事を見付け、体験することで自分の役割に気付き学級への所属感をもつ。

＜興味・関心をもたせるための工夫＞

- ・事前に一日の生活が見渡せるような絵図を準備し、毎日の生活を見つめさせるなどしてどのような仕事があるとよいかを考えさせておく。

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○どんな係があるとよいか考える。 ・学校生活を振り返り自分ができる仕事を考える。 ・係の仕事を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級を過ごしやすくするための活動であることを押さえる。 ・最初は、当番活動と同じようなものを係の仕事としてもよい。どれも大切な仕事であることを認め励ます。 ・どの係も一度は体験してみようとする意欲をもたせる。 ・一週間ごとに交代するなどして、いろいろな係を体験させるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ○必要な係をいくつか選び、順番に体験することを知る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○仕事の仕方について先生と一緒に考える。 ・実際にやってみる。 	

＜援助のポイント＞

- ・入学当初の意欲がやや低下する時期でもあり、互いに助け合いながら友達と一緒に係活動に取り組むことで、学級への所属感を感じ楽しく登校できるようにする。
- ・本活動の前後に「どんなクラスにしたいか？」を考えさせ学級目標を決めるとよい。
- ・学級活動の特質を踏まえ、係活動の1年間の見通しをもって指導する。

<経験させたい内容>

互いの思いや考えを言葉で伝え合い、相手の気持ちに気付く。

<就学前からのつながり>

- ・就学前には、幼児が自分の思いを言葉で表現し伝わる喜びが感じられるよう経験したことや感じたことをみんなの前で話したり友達の話の聞いたりする機会を設けており、多くの幼児が経験している。
- ・小学校では、学習の場面などで自分の気持ちや考えがみんなに伝わるよう言葉や声の大きさなどに気をつけて話したり友達の話の聞き取ったりすることが求められるようになる。
- ・そこで、話す時には聞き手がいることを意識して話をしようという気持ちをもつことや、聞く時には友達の話をよく聞き取ろうとする態度を身に付け、相手の気持ちに気付くことが大切である。

<活動名〔教科等〕> **おへんじりレー きょうのひとこと**〔朝の活動・国語科〕

<活動のねらい>

- ・自分の思いや考えを丁寧な言葉で話す。
- ・友達の話を中心して聞き、相手の気持ちに気付く。

<興味・関心をもたせるための工夫>

- ・おもちゃのマイクを使って、みんなの前で話すことを意識させる。

	主な学習活動	指導上の留意点
朝の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○名前を呼ばれたら元気に返事をすることやみんなの前で話す時の言い方を知る。 ○健康観察の時に、名前を呼ばれたら元気に返事をし自分の健康状態を話す。 ・「はい、元気です。」など 	<ul style="list-style-type: none"> ・返事は、元気に、短く「はい！」 ・「～です。」と丁寧な言い方をすることを実際に言ってみせる。 ・みんなに聞こえる元気な声で返事や話ができた児童を認め、褒める。
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○「おへんじりレー 今日のひとこと」の進め方を知る。 ・名前を呼ばれたら元気に返事をして立ち、丁寧な言い方でテーマに沿った内容を一言ずつ話す。 ・自分の話が終わったら次の友達の名前を呼んで指名する。 ○みんなで「おへんじりレー 今日のひとこと」をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな食べ物、好きな色、昨日の遊びなど、テーマを与えて話しやすくする。 ・話すときの参考となるよう話型を示す。 ・次の友達を意識することで興味をもって話が聞けるようにする。 ・おもちゃのマイクを使うなどして、みんなの前で話をするという意識をもたせる。

<援助のポイント>

- ・みんなの前で話すことが難しい児童には、話したいことを教師が聞き取り、それを基に教師に続いて話をさせるなど、児童が取り組みやすいよう配慮する。
- ・友達の話最後まで集中して聞くことができるように、教師が共感や励ましの言葉を入れるなどして興味が続くようにする。

<経験させたい内容>

使い方、マナーを知り、施設や道具を使う。

<就学前からのつながり>

- ・就学前教育施設は、トイレの設備が幼児用に造られていて明るく開放的である。活動の前などに保育者がトイレに行くように促すが、日常的には自分が行きたい時に行っている。就学時健康診断や交流活動などで学校のトイレを使った経験がある幼児は多いが、経験のない幼児もいる。
- ・小学校の設備は幼児用に造られていないので、その大きさに慣れ、一人でできるようにすることや決められた時間内に行くことを習慣付ける必要がある。また、大人の目が届きにくいこともあり、トイレ内で遊んだり、環境の変化に不安や戸惑いを感じたりする児童もいる。
- ・そこで、児童がルールを守り安心して学校生活を過ごすことができるようにトイレの使い方やマナーを知る機会を設ける必要がある。


<活動名〔教科等〕> **きれいにつかおう**〔学級指導〕

<活動のねらい>

- ・小学校のトイレの使い方を知り、安心感をもつ。
- ・みんなで使うトイレを清潔に使うことの大切さが分かる。

<興味・関心をもたせるための工夫>

- ・トイレの使い方を絵や写真を用意し、提示する。

主な学習活動	指導上の留意点
<p style="text-align: center;">どんなふうにするのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トイレの使い方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・便器に近付いて前の方です。(和式) ・周りを汚さないようにする。 ・トイレットペーパーは必要な分だけ使う。 ・使った後、水を流す。(レバーの押し方) ・終わったら手を洗い、自分のハンカチで手をふく。 ○実際にトイレに行き使い方を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園のトイレも同じように使っていたよね!」と使い方は同じであることを意識させ、自分でできる自信をもたせる。 ・足を置く場所の絵や写真を使って示す。 ・タオルやペーパータオルで手を拭いていたなど園での経験の違いに配慮する。 ・トイレには休み時間に行くよう指導するが授業中行きたくなくなったら我慢せずに担任に申し出ることを指導する。

<援助のポイント>

- ・休み時間にトイレに行くようその都度、声を掛ける。
- ・下着を全部脱いでしまう児童やトイレが近い児童など、実態に応じて個別に援助する。
- ・体調によっては時間がかかることがあることや、個人差があることを指導する。

<経験させたい内容>

いろいろな並び方で並ぶ。

<就学前からのつながり>

- ・就学前に、背の順・名前順・運動会での紅白並びなど、いろいろな並び方を体験しているが、日常的には作業が終わった幼児から順番に並ぶことが多い。
- ・小学校では、場面に応じた並び方が求められるようになるが、入学当初は学級の友達の名前や顔を全員分は覚えていないため、並ぶことそのものが難しくなる。
- ・そこで、いろいろな並び方を覚えることに重点を置いた活動が必要になってくる。


<活動名〔教科等〕> **ならびっこ**〔学級活動・体育科〕

<活動のねらい>

- ・集団行動に必要ないろいろな種類の並び方や整列の仕方を覚える。

<興味・関心をもたせるための工夫>

- ・下校の方面別の色ごとの表示を用意する。
- ・先頭の位置が分かるようにコーンなどの目印になるものを用意する。

	主な学習活動	指導上の留意点
学級活動	○小学校では、いろいろな並び方で並ぶことを知る。 ・男女別2列の名前順 ・下校の方面別の並び方 ・背の順	・男女別の並び方は、健康診断の時期に合わせて行う。 ・下校の方面別は、学校の実態に合わせて工夫して行う。
体育科	○ならびっこゲームの進め方を知る。 ・校庭を自由に走り、合図で先生のところに集まる。 ・背の順2列、紅白4列など課題に合わせて並ぶ。 ・「前へ、ならえ」をして整列する。 ○ならびっこゲームをする。 	・集合は素早く、黙って行うようにさせる。 ・「校庭や体育館にあるものにタッチしてから帰ってくる」など条件を変えて何回か続けて行う。 ・教師の立つ位置を変えて変化を付ける。 ・先頭の目印としてコーンを置く。

<援助のポイント>

- ・友達の名前や顔をまだ覚えていないために自分の位置を探すことができない児童がいる。一度並んだときに誰の前(後ろ)なのか、列のどの場所なのかなど、手掛かりになるような助言をする。

＜経験させたい内容＞

着替えの仕方が分かり、時間内に行う。

＜就学前からのつながり＞

- ・ 体育着などに着替えること、脱いだ服をたたむことは、就学前にたくさん経験しており自分のペースではできる。
- ・ 小学校では、体育や健康診断などで一定の時間内に着替える必要があるが、当初は時間がかかる児童が多く見られるのが現状である。中には、床に腰を下ろさないとズボンの着脱ができない児童も見受けられる。また、次時の都合によっては、脱いだ衣服を机の上に置いたままにできず、袋に入れて戻さなければならないような場合もある。
- ・ そこで、改めて一定の時間内で着替えを行い、脱いだ服の始末をする練習が必要となる。


＜活動名〔教科等〕＞ **ザ・へんしん!**〔学級活動〕

＜活動のねらい＞

- ・ 着替えの仕方が分かり、時間内に行うなど学校生活の仕方を身に付ける。

＜興味・関心をもたせるための工夫＞

- ・ 「ザ・へんしん!」を合言葉にすることで、着替えや体育の学習への期待感を高める。
- ・ 音楽をかけたり時間の目安をもたせたりして、集中して行動できるようにする。

主な学習活動	指導上の留意点
<p>○体育の時間には、休み時間に体育着に着替えることを知る。(「ザ・へんしん!」)</p> <p>○着替える時の順序を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「上を脱いだら、上を着る」の順番で着替える。 <p>○脱いだ衣服のたたみ方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たたんだら整頓して机の上に置いておく。 <p>○体育着に着替える。</p> <p>○衣服に着替え、体育着をたたんで袋にしまう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汗をかくため、下着を着ないで体育着を着ることも説明する。 ・ たたみ方の見本を見せながら、丁寧にたたむことを意識させる。 ・ 「歌が終わるまで」などの条件を付けて着替えさせることで、時間内に着替えることを意識させる。 ・ 一人一人の衣服のたたみ方を確認し、丁寧にできたことを認め褒める。

＜援助のポイント＞

- ・ 当初は、衣服の着脱から体育着を袋にしまうまでを丁寧に行うことができるよう活動時間を確保する。
- ・ 早く着替えた児童から整列して待つなどの条件を付けると就学前の経験とつながり、着替えが早くできるようになる。

＜経験させたい内容＞

給食の配膳、片付けの仕方を覚え自分でしようとする。

＜就学前からのつながり＞

- ・給食や弁当など園によって違いがあり幼児の経験は様々である。また、給食の場合は、保育者の援助の下、配膳の一部を幼児が行うことが多く、食器は幼児用を使用している。
- ・小学校の給食では、学年によって量の違いはあるが全校同じ献立であり児童が自分たちで給食を運ぶ。食器（磁器）も同じ大きさのものを使い、配食されたものをお盆にのせて自分の席まで運ぶ。
- ・小学校での第1回目の給食を楽しく、円滑に進めるために事前に食器の大きさや重さに慣れておくことが必要である。

＜活動名〔教科等〕＞ **たのしいきゅうしょく①**〔学級活動（食育）〕

＜活動のねらい＞

- ・給食時間の大きな流れを知り、給食への期待感をもつ。
- ・実際に使用する食器を持って運ぶことで、安全な配膳と片付けの仕方を知る。

＜興味・関心をもたせるための工夫＞

- ・実際の給食時間と同じ机の配置に変えて、実際の場面を再現する。
- ・栄養士と連携し、白衣を着て登場してもらうなど児童が給食に興味をもてるようにする。

主な学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○もうすぐ給食が始まることを知る。 ○小学校では、自分たちで準備や片付けを行うことを知る。 ○栄養士の先生から給食についての話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士から話をしてもらい、児童が給食に興味をもてるよう工夫する。 ・給食室にあるしゃもじなど、大きな道具を持って来てもらうとよい。
<p>本物のお皿を運んでみよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○給食の準備や片付けの仕方とお盆を運ぶ時の教室の動線を知る。 ・「口をとじて」「お盆を平らに持つ」「歩いて運ぶ」 ○実際に給食の準備と片付けを行う。 ・お盆と食器を自分の席まで持って行く。 ・班ごとに種類別に重ねて片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の食器を用意する。 （お盆・平皿・小皿・お椀） ・児童が歩く動線を遮るものがないか確認し机と机の間隔を空け、通路を広くする。 ・片付けの仕方、片付けの場面の動線も指導する。
<p>＜援助のポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は教室の動線を考え、児童の机や配膳台の配置を事前に指導しておく。 ・給食当番についても、児童にその意味や仕組みを指導し、自分たちで準備を行う意欲をもたせる。 	

<経験させたい内容>

給食の配膳、片付けの仕方を覚え自分でしようとする。

<就学前からのつながり>

- ・就学前には、給食や弁当など幼児の食べる量に合った食事を時間をかけても最後まで残さず食べることや5歳児後半からは時間を意識して食べることなどの経験をしている。
- ・小学校の給食では、給食当番が全員同じ量になるように盛り付けを行っている。また、食べる時間が20分程度に限られており、児童にとっては不安なことも多い。
- ・初めての給食では、自分たちで配膳し、食べきれ分量まで減らしてから食べてよいこと、協力して片付けを行うことなどの一連の流れを実際にやってみながら学ぶことが大切である。

<活動名〔教科等〕> **たのしいきゅうしょく②**〔学級指導・給食〕

<活動のねらい>

- ・給食の手順を理解し、安全に気を付けて、自分たちで配膳を行う。
- ・友達と一緒に楽しく食事をする。

<興味・関心をもたせるための工夫>

- ・当番表はイラストを使うなどして分かりやすくする。
- ・給食の手順や今日の献立、配膳の仕方をイラストなどで示し楽しい雰囲気をつくる。

主な学習活動

指導上の留意点

- 給食当番は身支度を整える。
- 当番表にしたがって自分の役割を知る。
- 給食当番や机ふきなど、分担して準備をする。

- ・教師もエプロンをするなど身支度を整える。
- ・使用する食器の種類を確認しておく。
- ・給食当番の人数に応じて配膳の仕事を分担する。

自分の給食を運ぼう

- 給食当番は、ワゴンを運び配膳台を準備して皿などを並べる。
- 各自が自分の給食を運ぶ。
- 日直は、みんなの机に給食があるか確認し「いただきます」の挨拶をする。
- 「ごちそうさま」の挨拶をし、協力して片付ける。



- ・配膳台に物を置く手順を全員に見せる。(大きいお皿・小さいお皿・ごはん・おかずなど)
- ・確認しながら行い給食当番を援助する。
- ・給食の量を減らしてもよいことを伝える。
- ・どうしても食べきれない場合は、教師に話そう促す。

<援助のポイント>

- ・はじめは、準備や食事の時間を十分に確保する。
- ・食事に時間がかかることや好き嫌いなどの情報を事前に収集し、児童の実態を把握しておく。
- ・アレルギー対応については、児童にも意識させ間違いのないよう確実にを行う。

＜経験させたい内容＞

言葉や文字に関心をもち、正しい姿勢や鉛筆の持ち方で平仮名や数字を書く。

＜就学前からのつながり＞

- ・自由に筆記具（クレパス、鉛筆など）を選び、好きな題材で絵を描く経験を多くの幼児がもっている。筆記具の使い方は、箸の使い方と関連付けながら保護者と連携して進めているため、一人一人異なり統一されてはいない。
- ・そのため、小学校の学びのために正しい筆記具の持ち方を身に付ける必要がある。また、文字や言葉への関心の度合いの差があり、文字を書くことに抵抗感をもつ児童もいる。
- ・そこで、平仮名の学習に入る前に正しく筆記具を持ち、書くことに興味をもてるような時間を設定する必要がある。

＜活動名〔教科等〕＞ **せんをかこう**〔国語科 1／3時間×3〕

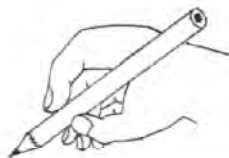
＜活動のねらい＞

- ・平仮名の学習に入る前に、正しい鉛筆の持ち方や姿勢、筆圧などの練習をする。

＜興味・関心をもたせるための工夫＞

- ・鉛筆を正しく持って丁寧に書こうとする意欲をもたせるために、筆記に必要な線を使ったイラストを仕上げるなど設定を楽しいものにして書くことに抵抗をなくしていく。
- ・短い時間（15分を1単位）で取り組み、集中することを大切に、仕上げる喜びをもたせる。

主な学習活動	指導上の留意点
<p>○直線を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傘をさしている動物や人のイラストに雨の直線を書く。（直線が書ける絵なら何でもよい） ・書き終わったらイラストに色を塗る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方や姿勢をしっかりと押さえる。鉛筆は以下のような言葉で唱えて練習すると分かりやすい。 「2本でぱっくん、中指まくら、左手おさえて、さあ書こう。」 ・線を書くときには2～3本分はあらかじめ点線を書き込んでおき、丁寧になぞらせる。 ・その後、線を書き加えさせる。 ・ゆっくりとなぞったり、線を書き加えたりすることを大切に、全員が絵に色を塗ることを目的とはしない。
<p>○折れ線を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷などの折れ線をイラストに書き加える。 	
<p>○曲線を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタツムリの殻の模様・ペロペロキャンディなど曲線（ぐるぐる線）をイラストに書き加える。 	



＜援助のポイント＞

- ・通常2Bの鉛筆を使用するが、筆圧によっては濃さを変えることもよい。
- ・利き手の関係で左右逆になる児童に対しての配慮をする。
- ・正しい持ち方を促せる鉛筆や補助具は、実態に応じて家庭とも連絡をとって使用する。

<経験させたい内容>

数・量に関心をもち、個数や順番を正しく数える。

<就学前からのつながり>

- ・就学前には、生活や遊びの中で、幼児が必要を感じて数える、分ける、比べるなどする場や機会を作っている。幼児が、数に関心をもち生活や遊びに取り入れて使う場面が多く見られる。
- ・小学校の入門期には、ものと数詞が正しく1対1対応しなかったり、数え落としがあったり、数字は読めるが書けなかったり、書き順を誤ったりしている児童もいる。
- ・そこで、集合数についての理解を図るとともに、正しい数字の書き方や数字による表し方を知り、数を用いて物事を処理する能力や態度を養って行くことが大切である。

<活動名〔教科等〕> **いくつかな「10までかぞえよう」**〔算数科〕

<活動のねらい>

- ・10までの数字の数え方、読み方、数字の書き方を理解し、練習をする。

<興味・関心をもたせるための工夫>

- ・教室内の具体物を数えたり、提示された具体物と同じ数の積み木や数字のカードを対応させたりするなど多様な活動を取り入れる。

主な学習活動	指導上の留意点
○1から10まで唱える。 ・指を使って順序正しく唱えることを繰り返し練習する。正しい読み方ができるように、間違えやすい4・7・9について繰り返す。	・全員が理解できるよう、丁寧にゆっくり唱えさせる。 ・興味・関心が持続するよう、逆からや途中からも挑戦させる。
○具体物と半具体物を対応させ数字を対応させる。 ・おはじきを使って1～5の数字に対応させる。 ・おはじきと数字カードを対応させる。	・声を出して数を唱えながら対応させる。 ・課題ができた児童には、積み木を使って好きな数字の対応をさせる。
○数字を正しく書く。 ・4マスに分けて始筆と終筆の位置と書き順に気を付けて「空気のノート」で練習する。 ・ワークシートの数字をなぞり練習する。	・字体や書き順を誤って覚えている場合があるので丁寧に指導する。 ・正しく書けた児童には、数字の具体物の絵を書かせる。

<援助のポイント>

- ・児童の学習の様子を丁寧に見取り、個に応じた援助（課題やワークシートの準備など）を行う。
- ・入門期には数に関わりのある様々な活動を経験できるよう、生活科の学校探検でいろいろなもの数を数える活動を取り入れるなど、合科的に扱うことも考えられる。

＜経験させたい内容＞

身近な自然に関わる中で、栽培物の生長を喜び、見たことを表現する。

＜就学前からのつながり＞

- ・就学前は散歩で園外に出かけ、公園などの自然の中で自然を利用して遊ぶ経験は多くもっている。また、栽培活動も盛んで、育てたものを絵に描く経験もある。
- ・この二つの活動については大変興味をもち活動そのものを楽しみにしている児童が多い。
- ・そこで、4月当初にこの活動を取り入れることで、就学前教育施設から小学校への学びに連続性をもたせることができるだけでなく、児童にとっても受け入れやすい活動となる。


＜活動名〔教科等〕＞ **しぜんとなかよし ～はるをさがそう・たのしかったよ～**
〔生活科・図画工作科〕

＜活動のねらい＞

- ・学校の中の自然に触れる中で新緑の木々の様子に気付き、若葉の様子から新しい学校生活に希望をもつ。
- ・気付いたことを表現し、互いに見合うことで友達と喜びを共有する。

＜興味・関心をもたせるための工夫＞

- ・あらかじめ学校の中の自然で採取してもよいものを確認しておき、草笛など自然のもので遊ぶことができるようにしておく。また、様々な形の葉も教室に持ち帰り何かの形に見立てておくと、次の活動につなげやすい。
- ・花や葉の形でビンゴゲームをしてクラス全員で楽しむこともできる。

	主な学習活動	指導上の留意点
生活科	<p>○学校の中の自然の様子を観察し、遊ぶ。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園にあった植物を想起させ、同じような植物があることに着目させる。 ・新緑の様子に気付かせ、植物も生長している様子に興味をもたせる。 ・可能ならばタンポポストローやナズナでペンペン鳴らすなどの遊びをしたい。
図画工作科	<p>○遊んだ絵を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んだ様子や植物など、好きな題材で絵を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描きにくい場合は植物を採取し、それをブッカーなどで貼り付けて、描き加えるような形の絵でもよいと助言する。

＜援助のポイント＞

- ・2時間続きの中で、学校の中の自然の様子になじむとともに、そこでの経験を絵に表すという流れをもたせる。
- ・校庭での遊びに広がりが出てくるため、他のクラスと合同や補助を付けるなどして、管理者が複数の方がよい。
- ・タンポポなどは2年生や3年生の観察の対象として使用するため、むやみに採取しないようにする。

第3章

幼保小連携プログラム 「幼保小連携の方策」

環境の工夫 1 ～ 接続前期～



はさみやテープ、ペンなどの製作に使った道具は、片付け場所や数が分かるようにします。

靴、鞆、帽子、コートなどは決められた所へ置きます。



遊んだ後は、みんなで掃除！次の活動がしやすいようにします。掃除道具の使い方も上達します。



トイレは、明るく清潔に。使い方は、繰り返し指導し、自立できるようにします。



自分の縄は、結んで片付けるようにします。

グループ表。当番の幼児のカードに印を付けて自覚できるようにします。



自分で衣服をたたむ場を設定し、自分で着替え、着替え袋に入れて管理できるようにします。



片付けなどの時間を意識できるようにします。また、持ち帰る物などの掲示物を見て、自分で用意できるようにします。

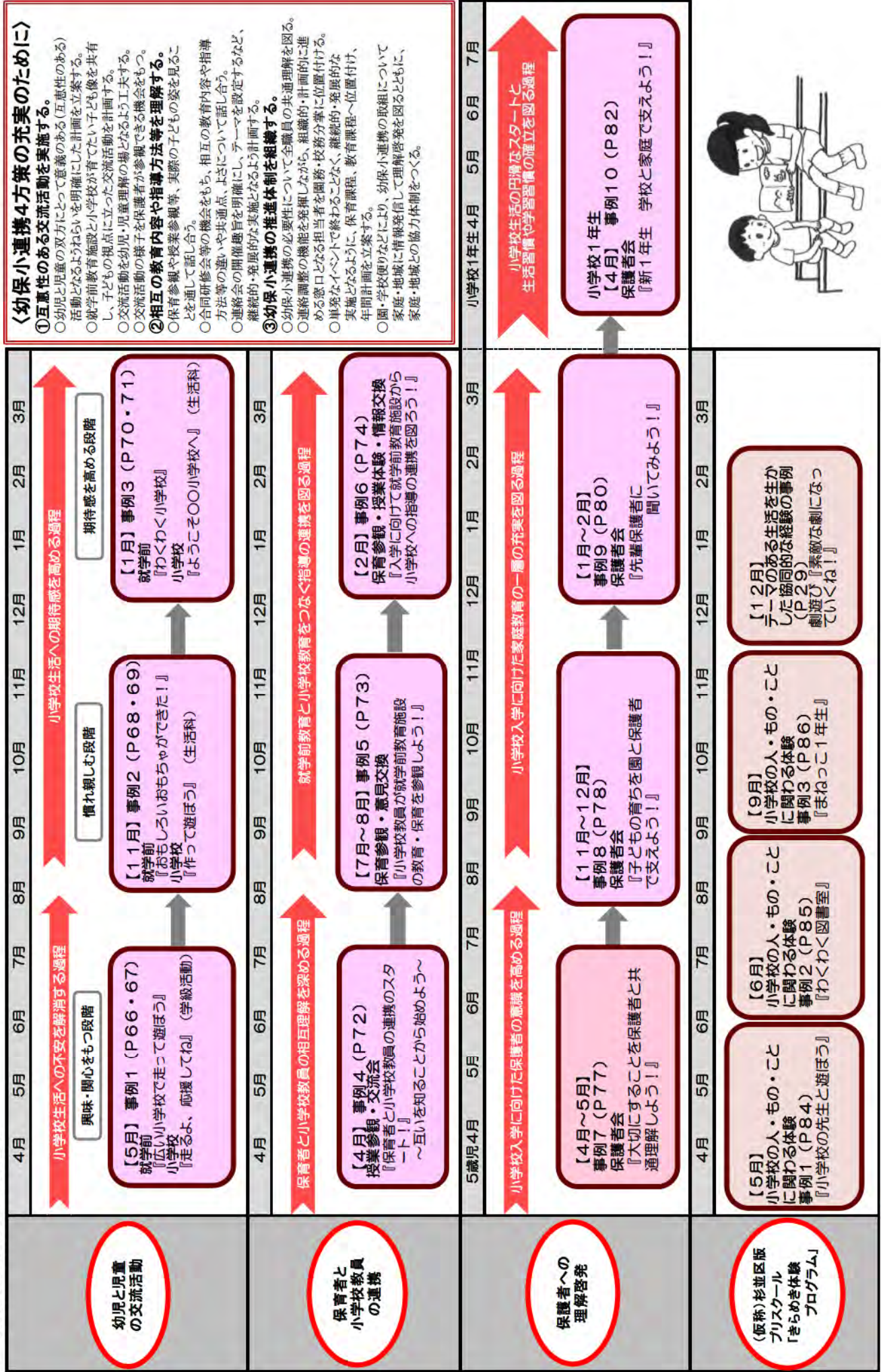
週やその日の予定を掲示し、見通しや意識をもって生活できるようにします。



落ち着いた気持ちで絵本を読んだり、図鑑を囲んで友達とゆったりと話したりする時間や場を大切にして設定します。

こんしゅう		きょう	
げつ	おやすみ	10月	21日 (火)
か	おやすみ	おはようございます	
ひ	おやすみ	あつまる	
すい	おやすみ	あそび	
もく	おやすみ	あつまる	
きん	おやすみ	おべんとう	
ど	おやすみ	とうばんをする	
にち	おやすみ	あつまる	
		さようなら	

1 幼保小連携の方策の年間計画図



〈幼保小連携4方策の充実のために〉

- ①互恵性のある交流活動を実施する。
 - 幼児と児童の双方にとって意義のある(互恵性のある)活動となるようねらいを明確にした計画を立案する。
 - 就学前施設と小学校が育てたい子ども像を共有し、子どもの視点に立った交流活動を計画する。
 - 交流活動を幼児・児童理解の場となるよう工夫する。
 - 交流活動の様子が保護者が参観できる機会をもつ。
- ②相互の教育内容や指導方法等を理解する。
 - 保育参観や授業参観等、実際の子どもの姿を見ることが通して話し合う。
 - 合同研修会等の機会をもち、相互の教育内容や指導方法等の違いや共通点、よさについて話し合う。
 - 連絡会の開催趣旨を明確にし、テーマを設定するなど、継続的・発展的な実施となるよう計画する。
- ③幼保小連携の推進体制を組織する。
 - 幼保小連携の必要性について全職員の間で共通理解を図る。
 - 連絡調整の機能を発揮しながら、組織的・計画的に進める窓口となる担当者(園務・校務)分掌に位置付ける。
 - 単発なイベントで終わることなく、継続的・発展的な実施となるように、保育課程、教育課程へ位置付け、年間計画を立案する。
 - 園・学校便りなどにより、幼保小連携の取組について家庭・地域に情報発信して理解啓発を図るとともに、家庭・地域との協力体制をつくる。

2 幼保小連携の方策に関する事例

(1) 幼児と児童の交流活動の事例

事例 1 (5月) 幼児5歳児と児童2年生の交流

1 活動名

就学前教育施設	小学校(教科等)
広い小学校で走って遊ぼう	走るよ、応援してね(学級活動)

2 実施場所 小学校 校庭

3 ねらい

<就学前教育施設>

○校庭の広さに驚いたり、力いっぱい走る気持ちよさを味わったりする。

<小学校>

○学級で進行や役割分担などを計画し、幼児への関わり方を考え、楽しんで交流することができるようになる。

4 事前打ち合わせ

- ・日程や時間の調整を行う。
- ・児童や幼児の実態を伝え合い、活動内容や授業のねらい、流れなどを検討し共通理解する。
- ・ゲーム(しっぽ取り鬼)のルール確認を行う。

5 事後の評価・反省

(保育者から)

- ・2年生や小学校教員からの指示をよく聞き、張り切って走ったり鬼ごっこを楽しんだりしていた。
- ・「2年生は優しかった。」「走って気持ちがよかった!」というような感想が多く、校庭で遊んだり小学生と触れ合ったりする機会を今後もつくりたい。
- ・初めての校庭使用で、始めは緊張した様子が見られた。事前に校庭を見る機会をもつなどすることが必要だった。


(小学校教員から)

- ・自分たちは2年生という意識をもって話を聞き、学級で決めた役割を果たしていた。
- ・鬼ごっこでは「大丈夫?」「頑張るね。」などと声を掛けるなど、優しく幼児を励ましながらかわろうとする様子が見られた。

6 事前・事後指導

	事前指導	事後指導
就学前教育施設	・見通しや期待、意欲がもてるよう、授業内容や流れなど幼児に伝えておく。	・感じたことを言葉で表現する機会をつくり、共感しながら今後も遊びに行きたいという期待につなげる。
小学校	・当日の交流内容、進行や役割分担、幼児への関わり方などを考え相談する。	・幼児の楽しんでいた姿を思い出し、学級で楽しい計画をもち実施できたことを確認し合い、自信をもてるようにする。

7 当日の指導及び幼児・児童の様子

時間	活動内容・活動の様子		指導上の留意点・環境の構成
	幼児	児童	○就学前教育施設 ★小学校
10:15	① 小学校へ出発する。	① 幼児を迎える準備をする。	○楽しみにしている幼児の気持ちを受け止め、時間にもゆとりをもって出発する。
10:35	② 校庭で挨拶する。小学校の先生や児童の話を聞く。	② 係分担にしたがって、進行する。	★幼児に分かりやすい言葉を使い説明を行う。 ○2年生の指示をよく聞き注目させる。これから走る2年生の姿や鬼ごっこに期待をもてるようにする。
10:40	③ 児童が走る様子を見たり応援したりする。	③ 線やS路など決められたコースを走る。	★幼児が応援してくれることを意識付けて、一生懸命走れるようにする。
	④ 同じコースを走る。	④ 幼児が走る様子を見たり応援したりする。	○幼児と一緒に応援しながら、自分たちも走りたいという気持ちを高めていく。
11:00	⑤ 児童と一緒にしっぽ取り鬼をする。係の児童からルールを聞く。	⑤ 幼児と一緒にしっぽ取り鬼をする。	★係の児童に分かりやすい言葉でルールを説明するようにさせ、幼児の反応を捉えて、補うようにする。 ○園で経験したしっぽ取り鬼である事を伝え、安心して参加できるようにする。
			
11:15	⑥ 驚きや感じたことを保育者に伝える。	⑥ 考えたことや感じたことを発表する。	○感想やお礼の言葉を幼児なりに表し、児童にも伝わるよう保育者が補うようにする。
11:25	⑦ 終業の挨拶をし、児童にお礼を言って帰る。	⑦ 終業の挨拶をし、幼児を見送る。	○★児童が学級で協力して進行できた事を認め、自信をもたせていく。

事例 2

(11月) 幼児5歳児と児童1年生の交流

1 活動名

就学前教育施設	小学校（教科等）
おもしろいおもちゃができた！	作って遊ぼう(生活科)

2 実施場所 小学校 1年生の教室・校庭

3 ねらい

<就学前教育施設>

○1年生と一緒におもちゃ（風輪^{かざわ}）を作って遊び、関わりを楽しむ。

<小学校>

○風で動くおもちゃの作り方を理解し、使って楽しく遊ぶ。

○作り方を幼児に分かりやすく伝えたり、関わりを楽しんだりする。

4 事前打ち合わせ

- ・活動への集中時間や説明・指示の理解度など、幼児や児童の実態を話し合いながら交流の流れを計画する。
- ・道具を使うためにどのような支援が必要かなど、幼児の技能面での実態を配慮しながら計画を立てる。

5 事後の評価・反省

(保育者から)

- ・風輪作りに興味をもち、意欲的に楽しんで活動に参加することができた。また、園での遊びに取り入れ、遊びが広がっていった。
- ・1年生に教えてもらいながら、幼児なりに一生懸命取り組むことができた。



(小学校教員から)

- ・風輪の作り方を分かりやすく説明したり、幼児の必要に応じて手伝ったりすることができた。
- ・一緒に校庭で動かして遊び、作った満足感を幼児と共に感じる事ができた。

6 事前・事後指導

	事前指導	事後指導
就学前教育施設	・1年生が幼児の来訪を心待ちにしていることを伝え、小学校へ行って活動することに期待感をもたせる。	・楽しかったことや嬉しかったことを発表し合い、学校生活への期待や1年生への親しみ、憧れを更にもてるようにする。
小学校	・幼児が困っていることを分かるように教えたり手伝ったりしてあげることを確認する。 ・風輪の作り方を理解し、幼児への説明の仕方を考える。	・幼児に作り方を教えたり一緒に遊んだりして感じた事を、絵や文で表す。

7 当日の指導及び幼児・児童の様子

時間	活動内容・活動の様子		指導上の留意点・環境の構成
	幼児	児童	○就学前教育施設 ★小学校
10:45	① 1年生の教室に行く。 ② 挨拶をする。	① 幼児を迎える教室や用具の準備をする。 ② 幼児を迎え、挨拶をする。	○期待をもって小学校に行けるようにする。 ★幼児の到着前に、活動に必要なことを確認しておく。
10:50	③ ペアになる児童と一緒に席につき、始業の挨拶をする。自己紹介する。	③ 一緒におもちゃ作りをする幼児を自分の席に連れて行き、始業の挨拶をする。自己紹介をする。	○幼児の緊張や不安感を見ながら、必要に応じて声かけし安心できるようにする。
11:00	④ 小学校の先生から、今日の活動の話聞く。 ⑤ 児童が作った風輪を見たり、触れたりして活動に意欲をもつ。	④ 担任から今日の活動について説明を聞く。 ⑤ 自分たちが作った風輪を実際に動かして見せ、使わせてあげる。	★幼児に、風輪を動かして見せ、風輪の面白さや制作への期待、意欲を高めていくようにする。
	「おもしろいなあ。」 「作りたいなあ。」 「欲しいなあ。」		「わあ、こんなにたくさん風輪が繋がってる！」 「回ってる！ すごい！」
11:05	⑥ 児童に教えてもらい、風輪を作る。	⑥ 作り方を説明して一緒に作る。	○★児童の関わり方のよいところを認め褒めていく。 ○★ペアのコミュニケーションがうまくいかないところには、援助していき伝わり合うようにする。
	「ハサミで切るのが上手だね！」「そうそう、その調子！気を付けてね。」		「きれいに色が塗れたね。」「回ったら、すごくきれいだらうね！」
11:35	⑦ 児童と一緒に校庭に出て、遊ぶ。	⑦ 一緒に遊ぶ。	○★できあがり、動かして遊ぶ楽しさに共感する。
12:00	⑧ 終業の挨拶をし、児童にお礼を言って帰る。	⑧ 終業の挨拶をし、幼児を見送る。	○作った風輪を大切に持ち帰るようにする。

事例 3

(1月) 幼児5歳児と児童1年生の交流

1 活動名

就学前教育施設	小学校(教科等)
「わくわく小学校」	「ようこそ〇〇小学校へ」(生活科)

2 実施場所 小学校1年生の教室

3 ねらい

<就学前教育施設>

- ・授業体験を楽しみ、学習に対する不安感を減らし、入学への期待感を高める。
- ・1年生と関わり、憧れの気持ちをもったり、より親しみを感じたりする。

<小学校>

- ・体験授業の内容や幼児との関わり方を相談し、丁寧に優しく関わったり分かりやすく教えたりする。
- ・1年生としての自分の成長を感じる。

4 事前打ち合わせ

- ・幼児や児童の実態や交流の内容、流れ、時間、役割分担などを相談する。
- ・1年生が幼児に教えることができ、かつ、幼児が理解し楽しんで活動できる教材を用意する。また、字を書くマスの大きさや道具などを検討し準備する。
- ・幼児と1年生が互いに相手の名前を覚えたり親しみをもって関わったりすることができるよう、幼児や児童の特性などに配慮しながら、幼児と1年生とのペアを作る。

5 事後の評価・反省

(保育者から)

- ・園生活とは違う環境の中で緊張しながらも、1年生の先生の話に興味をもって聞いたり、指示を理解して行動したりし、授業を受ける満足感を味わっていた。
- ・授業を楽しみ、自分なりにできた満足感や自信を感じていた。
- ・学校生活に期待感や1年生に対する親しみ、憧れの気持ちをもつことができた。

(小学校教員から)

- ・幼児の様子に合わせて、自分なりに考え、分かりやすく教えたり接したりすることができた。
- ・自分たちが教えたことを幼児が理解したり喜んだりしている姿を見て嬉しく思い、自信をもつことができた。
- ・幼児の姿から1年前を思い浮かべ、自分たちが成長したことを感じられた。

6 事前・事後指導

	事前指導	事後指導
就学前教育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や給食など分かりやすい話題を取り上げ、大まかな小学校生活について知らせ、安心感をもてるようにする。 ・1年生からの招待状を見せたり、幼児の来訪を心待ちにしていることを伝えたりし、小学校で活動することを楽しみにできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験の中で楽しかったことや自信をもったことを発表し合い、小学校生活への期待や、小学生への親しみ、憧れを更にもてるようにする。 ・一緒に授業をした1年生にお礼の気持ちを手紙で伝える。 ・交流の様子を保護者に伝え、就学への期待や憧れ、不安などの気持ちを、丁寧に受け止めていくことの必要性を知らせる。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に体験させてあげたいことを考え、楽しみにする。 ・幼児の様子を思い浮かべながら、接し方を考え、幼児になったつもりで友達同士でやってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で自分のしたことや幼児の様子から感じたり気付いたりしたことを感想文や絵に描く。 ・感想文などを発表し合い、いろいろな場面で自分たちが成長したことを認識し、自信をもてるようにする。

7 当日の指導及び幼児・児童の様子

時間	活動内容・活動の様子		指導上の留意点・環境の構成
	幼児	児童	○就学前教育施設 ★小学校
10:50	① 1年生の教室に行く。	① 教室や用品の準備をする。	○1年生の教室に行くまでの時間に余裕をもち、緊張感を和らげながら準備をする。 ★迎える幼児のペアの確認や名前の読み方、貸してあげる筆記用具、道具類の確認をしておく。
11:00	② ペアになる児童と始業の挨拶や自己紹介をする。	② ペアになる幼児を迎え、始業の挨拶や自己紹介をする。	★幼児にも分かり易い言葉を使い、時間に余裕をもって授業を進めていく。 ○手遊びや歌は、保育者がリードして進める。幼児も児童も知っている手遊びや歌を選択し、安心して自信をもって活動できるようにする。 ○★個々の幼児の緊張や不安感を見ながら、必要に応じて付き添ったり、ペアを組んでいる児童に質問したりすることを促す。 ○保育者が小学校教員の話を受けて、質問したり確認したりしながら授業が分かるように援助する。 ○★幼児に分かるような教え方や関わり方をしている児童を認め、自信をもって幼児と関われるようにする。 ○★児童に教えてもらいながら、自分なりに書いている姿を認め、安心して過ごせるようにする。
	③ 小学校の先生から、活動についての話を聞く。	③ 担任から授業についての話を聞く。	
	④ 手遊び「お寺のおしょうさん」や歌を歌う。	④ 幼児と一緒に手遊びや歌を歌う。	
	⑤ 児童の筆記用具を借り、プリントの自分の名前をなぞったり書いたりして、花丸をもらう。	⑤ プリントや筆記用具を用意し、幼児に名前の書き方を教えたり、花丸を付けたりする。	
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「小学生は優しいなあ。」「1年生になったみたい!」「嬉しいなあ。」「ちょっとドキドキするけど…。」 </div>		
			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「上手に書いてるねえ!」「鉛筆使ったことがあるの?」「うん、鉛筆で書いたことあるよ。」「すごおい。花丸だ!」「えっ、花丸!もらったよ。本物の1年生みたいだあ!」 </div>
11:25	⑥ ランドセルを背負わせてもらう。	⑥ ランドセルを背負わせてあげる。	○児童に教えてもらったり、ランドセルを背負わせてもらったりした嬉しさに共感する。
11:35	⑦ 終業の挨拶をし、児童にお礼を言って帰る。	⑦ 終業の挨拶をし、幼児を見送る。	★幼児に分かりやすく教えたり関わったりすることができたことを認める。

(2) 保育者と小学校教員の連携の事例

事例 4

(4月) 「保育者と小学校教員の連携のスタート！」 ～互いを知ることから始めよう～

1 連携のねらい


○就学前教育と小学校教育の円滑な接続のために、保育者と小学校教員が、まず、相互理解を図り、今後の交流活動の充実や児童理解に生かす。

2 立案のポイント

○入学当初の状況を知らせ、保育者が入学に向けての指導や家庭教育支援について見通しをもてるようにしていく。

○幼児と児童が交流する活動や、保育者・小学校教員による参観などの年間計画を立てて共通理解を図り、充実した活動となるようにする。

3 連絡会の流れと留意事項

連絡会の流れ	留意事項
<p><授業参観></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学当初の1年生の様子について参観する。 <p><連絡会></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 相互の自己紹介 ② 参観での気付きと就学前教育施設での幼児の過ごし方について（保育者） ③ 児童の様子と学校生活について（小学校教員）  <ol style="list-style-type: none"> ④ 連絡会の年間計画の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間をじっくりと参観する。 ・連絡会と同日の参観が難しい場合は、連絡会の前に参観しておく。 ・就学前教育施設での一日の過ごし方や活動など、小学校との違いについて事例をあげて伝える。 ・1年の担任より入学当初からの学校生活についてや、児童の適応状況について話す。特に、課題になっていることや、成長の様子などを伝える。 ・年間計画の情報交換をして見通しがもてるようにする。

4 意見交換・情報交換の具体例

教育活動に違いがあることを話し合みましょう！

- ・一日の過ごし方の違いは？
- ・課題への取り組み方は？
- ・生活の流れは変更できるの？
- ・自分の持ち物は自分で用意する？
- ・並び方はどうするの？

年間の交流計画を立てましょう！

- 相互に参観しよう
 - ・保育園への参観は、夏休みがベスト！
 - ・2月は、小学校から就学前教育施設に行こう
- 交流できるのは、1年生だけじゃない
 - ・3年生でできる読み聞かせ交流
 - ・2年生の学校案内（1年生をつれて経験済み）
- 授業体験
 - ・学校ってどんなところ？（10月頃参観）
 - ・ミニミニ1年生（2月頃に授業体験）



事例 5

(7月～8月)「小学校教員が就学前教育施設の教育・保育を参観しよう！」

1 連携のねらい

○幼児の生活の様子を小学校教員が把握し、小学校の教育、生活との違いなどの理解を深め、今後の指導に生かしていく。

2 立案のポイント

○幼児の生活の様子を把握するために、小学校教員が保育参観を行う機会を設定し、保育者の幼児への関わり方、指導内容・方法を通して、幼児期の教育の理解を図り、保育者と小学校教員で意見交換できるようにする。

○参観は、小学校教員が授業を受けもたない時間などを利用する。また、保育園については、夏季休業期間に行う。

3 連絡会の流れと留意事項

連絡会の流れ	留意事項
① 小学校教員が保育参観を行う。	<ul style="list-style-type: none">・小学校教員が幼児の様子を参観し、就学前の指導の様子を把握する。・保育者はその日の活動やねらいが分かるような資料を用意する。
② 就学前における幼児の生活の様子や保育者の指導・援助について意見交換をする。	<ul style="list-style-type: none">・「生活」「人とのかかわり」「遊び」の3つの視点を大切にして、幼児の実態や保育者の指導・援助について伝える。・小学校との円滑な接続の為に、幼児に身に付けてほしい基本的な生活習慣や指導方法などについても意見交換をする
③ 今後の交流計画について確認する。	<ul style="list-style-type: none">・幼児の実態をみながら、今後の活動を確認し、見通しがもてるようにする。

4 意見交換・情報交換の具体例



保育・教育の概要を伝えましょう！

○意図的・計画的に進める保育・教育

・長期的指導計画と短期的指導計画

・就学前では5領域

指導計画などの資料を基に説明します。

参観を通して、小学校の学習や生活へのつながりについて意見交換することも有意義です。

「遊び」についての理解を図りましょう！

○好きな遊びの時間やみんなで一斉に活動する時間の取組

○主体的な遊びを生み出す工夫

日頃大切にしていることを具体的な幼児の姿や保育者の指導・援助を通して伝えるとより一層理解が深まります。

事例 6

(2月)「入学に向けて就学前教育施設から小学校への指導の連携を図ろう！」

1 連携のねらい

○次年度入学予定の幼児の実態や指導の連携のために必要となる留意点などについて、保育者と小学校教員とが相互理解を図ることで、小学校では入学後の児童の指導に生かし、就学前教育施設では、今後の幼児への指導の見通しをもてるようにする。

2 立案のポイント

○入学を前にした幼児の実態を把握するために、小学校教員が保育参観を行ったり保育者と幼児が実際に授業体験をしたりする機会を設定し、幼児の実態に基づいて指導の連携のための情報交換ができるようにする。

○指導の連携を図るために、小学校と就学前教育施設ではどのような指導を行っていけばよいのかを、幼児の実態や具体的な指導事例を基に情報交換できるようにする。

3 連絡会の流れと留意事項

連絡会の流れ	留意事項
① 保育者と小学校教員が入学予定の幼児について情報交換をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の実態、幼児に身に付いている基本的な生活習慣や学習面の資質・能力、指導上の留意点などについて情報交換をする。 ・特に配慮を要する幼児においては、具体的な指導法などについて共通理解を図る。
② 幼児と保育者が小学校へ行き、実際に授業体験をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が小学校で活動することで、一人一人が新しい環境の中でどのように行動するのかなど、入学予定の幼児の実態の把握をしていく。
③ 必要に応じて小学校教員が就学前教育施設に行き、入学予定の幼児の保育参観を行い、その後、意見交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員が幼児の実態や保育者の指導の様子を把握できるように、保育参観日を設定する。
④ 小学校教員は3月に就学前教育施設から送付される指導要録・保育要録を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・参観した幼児の実態や指導要録・保育要録を参考にしながら話し合い、就学後の指導に生かす。
⑤ 次年度の交流活動の計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の交流活動の反省を行い、次年度の計画に生かしながら大まかな交流計画を立てていく。

4 意見交換・情報交換の具体例



ポイントを絞って話し合みましょう！

○入学予定の幼児の実態が、より具体的に見える情報交換
「生活」「人とのかかわり」「遊び」の3つの視点を主に、メモを取ったり話し合いを進めたりすると、幼児の実態の把握や指導の連携がスムーズになります。

丁寧に情報交換しましょう！

○特に配慮を要する幼児について

- ・話し合いの時間の確保
- ・きめ細かな連携

 そうすることで、入学した際、児童も小学校教員も安心して学校生活をスタートさせることができます。

環境の工夫 2 ～ 接続後期～



ロッカーの上段にはランドセル、下段には粘土や鍵盤ハーモニカ、廊下のフックには体操着や上履き袋を掛けるなど、自分の持ち物を決められた場所に置きます。



宿題などの提出物は、種類別に提出場所を決めておきます。

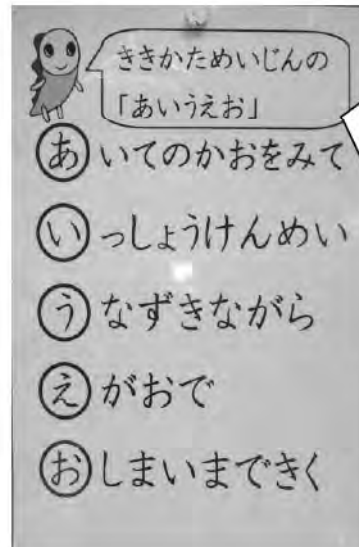
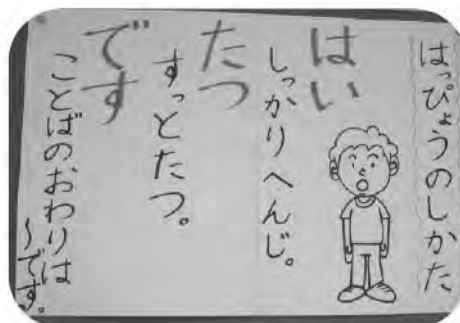
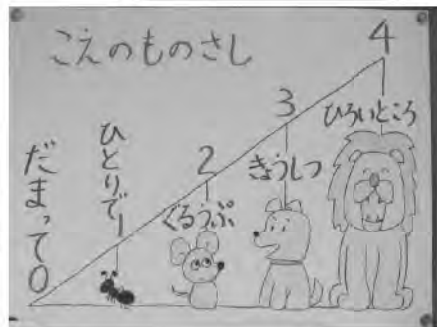
机の中に入れておく工具箱の使い方を図で分かりやすく提示しています。



掃除当番は、一人一役になるように役割を分担します。



学校司書と連携し、学習に関連のある本を準備しておきます。



児童が、聞き方や話し方を常に意識できるように掲示物などの工夫をしています。

(3) 保護者への理解啓発の事例

○保護者への理解啓発の必要性

接続期には、就学への期待をもつとともに、不安を感じている保護者もいます。そこで、保護者の不安や疑問を軽減し、小学校生活に見通しをもてるようにすることが求められています。

例えば、保護者と保育者が顔を合わせる機会が多い就学前教育施設と保護者と小学校教員が月1回程度顔を合わせる小学校では、保護者と保育者・小学校教員の連絡の仕方等が変化し、不安を感じる保護者もいますが、信頼関係を基盤に課題の解決策を共に考えていくという点に変わりありません。就学前教育施設と小学校とが、互いの相違点と共通点や子どもの発達や学びの連続性を、保護者に分かりやすく具体的に説明することが大切です。そのために、保護者会や座談会等、幼保小の連携を通して理解を図る等、幼児の健やかな育ちを支える取組を進めていくことが重要です。

◆「どこがちがうのかな・・・！」

就学前教育施設



保護者が入学当初に出会う例を挙げました。

小学校

○登降園、登下校の仕方は・・・？

・保護者の送迎、または園バスによる登降園です。その際に、幼児の園での様子や必要な情報などを、直接顔を合わせて保護者に伝える機会が多くあります。

・通学路が決められています。入学当初の下校は、当初各方面に分かれて、担任が途中まで送ります。慣れるまでは、コース別下校を行います。

○欠席、遅刻、早退などの連絡方法は・・・？

・送迎時に直接、または電話で行うようにしています。
・理由を確認し、園でできることや配慮してほしいことについて保護者に確認しています。

・体調や早退については、連絡帳に記入し児童が担任に提出するようにしています。
・欠席や遅刻は、兄弟姉妹、近隣の児童に頼んで、担任に届けてもらうようにしています。

○保護者の相談の仕方は・・・？

・送迎時などに保育者と相談します。

・担任に連絡帳で、相談したいことがあることを記入し伝えます。
・担任は、できるだけ早急に、直接話を聞く機会を設けるようにしています。

- ・保護者が話しやすい雰囲気のある場所を設定し、不安や疑問に思っていることをよく聞き、気持ちを受け止め、丁寧に対応します。
- ・幼児や児童同士のトラブルは、その時の状況確認をし、事実を伝えます。
- ・日頃から、保護者に幼児や児童の姿を伝え、理解できるようにしていきます。

事例 7

(4月～5月)園の保護者会 「大切にすることを保護者と共通理解しよう！」

1 保護者会のねらい

○充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝え、園生活の見通しや年長時の教育・保育について共通理解する。

2 立案のポイント

○園からは、年長時の生活や遊びが、小学校の生活や学習の基盤となることを分かりやすく伝える。

○小学校からは、園での教育・保育と小学校教育とのつながりや幼児期に大切にしてほしいことを伝える。

3 保護者への理解啓発の流れと留意事項

保護者会の流れ	留意事項
① 挨拶	・現在の幼児の育ちが分かる写真やビデオを活用し、具体的なエピソードを通して、分かりやすく伝える。 ・「年間の指導の概要」の資料を配布し、遊びの中での幼児の学びや経験していることが小学校の学習とどのようにつながっているのかを具体的に伝える。 ・小学校からは、幼児期に大切にしてほしいことや教育のつながりを伝えるとともに、連携・交流活動や保護者が参観する機会を設けることも知らせ、その意味を伝える。 ・幼児の教育・保育は、園と家庭が共に進めていくことが大切なことを確認する。
② 現在の幼児の姿や育ちについて	
③ 園の教育・保育について ・5歳児の発達の特徴や指導方針 ・年間活動計画 ・小学校教育とのつながり	
④ 小学校から ・入学に向けて大切にしてほしいこと ・幼保小連携活動年間計画 ・保護者が参観できる公開日の案内 など	
⑤ 保護者からの質問	
⑥ まとめ	

4 園や学校から保護者に伝える内容例

<園からの話>

- ・幼児期は、生活習慣を身に付け、人と関わる力や豊かな心と意欲を育てていきます。年長時に特に大切にしたいことをお話します。
- ・友達と活動する中で、共通の目的に向け、一人一人が力を発揮し、協力して物事をやり遂げられるようになってほしいです。
- ・活動する中で、友達の考えをよく聞く、葛藤する、試行錯誤する、調整したりなどして、あきらめずに最後までやり遂げようとする集中力や持続力が培われていきます。
- ・このことが、小学校の生活や学習をする上で、基盤となる力になります。5歳時の生活の中では、こうした経験を数多くするようにしていきます。

<小学校からの話>

- ・幼児は親子の信頼関係を基盤にして、世界を広げていきます。小学生になっても、愛されている、見守られていると感じる気持ちが心を安定させ、安心して小学校生活を送れるためのベースになっています。
- ・「やってみると面白い」「できるって楽しい」(学習意欲)を育てるために、幼児期は知的な好奇心を揺さぶるような遊びが大切です。
- ・入学に向けての幼児の不安を解消し、小学校生活への期待感を高めるために、幼児と児童の交流を行います。交流を保護者の方が参観できる機会も設けますので、是非参観してください。

事例 8

(11月～12月)園の保護者会 「子どもの育ちを園と保護者で支えよう！」

1 保護者会のねらい

- 保護者が入学に対して意識し始める時期なので、入学当初の具体的な生活や学習について知り、現在の子どもの姿と育ちから家庭での子どもへの関わり方に気付いたり考えたりする。

2 立案のポイント

- 1年生担任が園の保護者会に参加し、「入学までに身に付けておきたいこと」「1年生の学習」「給食」などについて話す機会を設定する。
- 事前に小学校の教員と打ち合わせを行い、話す内容や時間などについての共通理解を図る。
- 入学に対して感じていることを事前にアンケートで把握し、保護者の不安や疑問に答えられるようにする。

3 保護者への理解啓発の流れと留意事項

保護者会の流れ	留意事項
① 挨拶	<ul style="list-style-type: none">・ 保護者会のねらいを説明し、保護者が主体的に参加できるようにする。・ 現在の子どもの姿と育ちを具体的なエピソードを通して伝える。・ 小学校の生活や学習の様子など、保護者が具体的なイメージがもてるような資料を配布する。・ アンケートで把握した保護者の不安や疑問について答える際に、園と小学校のつながりについても伝えるようにする。・ 入学に向けて、子どもの育ちを園と保護者で支えていくことを確認する。
② 現在の子どもの姿と育ち	
③ 小学校から 小学校の生活や学習の様子について	
・ 1年生の学習について	
・ 入学までに身に付けておきたいこと	
④ 質疑応答	
⑤ まとめ	

4 配布資料の具体例

保護者会資料	
保護者に分かりやすいように、具体的に知らせましょう。	〇〇小学校 平成26年△月△日
小学校ってどんなところ？	
① 「1年生の学習について」 1年生は1週間に24時間の事業があります。 ○国語科 話すこと、聞くこと、話し合うこと 等	② 「入学までに身に付けておきたいこと」 ○寝る時間、起きる時間を決めて習慣付けておきましょう。 ○自分と他人の物の区別ができるようにしましょう。 ○友達と仲良く遊ぶことができるようにしましょう。
	③ 「給食時間の目安は？」 ○準備 (10分) ○給食 (20分) ○片付け (5分)

5 保護者の不安や疑問についての具体例

質問：文字に興味や関心がないが

大丈夫でしょうか？

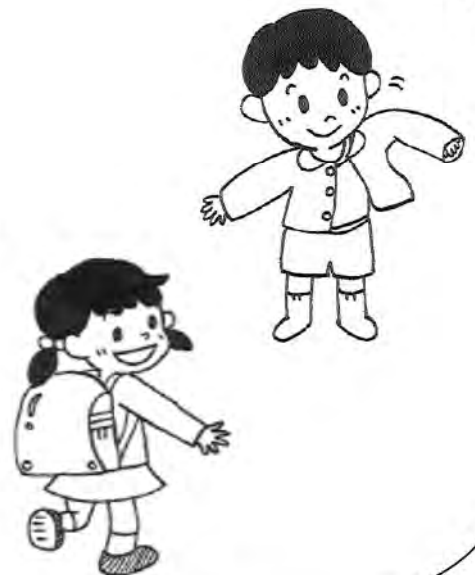
- 小学校では、文字を書くことも読むことも、本当にはじめの一步から指導します。
- 園では、友達の名前の文字を読んだり、カレンダーを見たり・・・日常の生活の中で、子どもたちはたくさんの文字や数に触れ、興味や関心をもつようにしています。遊びの必要感から、文字を読んだり書いたりしています。
- 園でも、家庭でも「自分で読んでみたいな。」と思えるような絵本をたくさん読み聞かせ、文字への関心を高めることも大切です。

質問：小学校には園から一人の入学なので、
友達ができるか心配です。

- 小学校では、多くの園から入学してくるため、園から1、2名という児童が多くなります。そのため、学級の友達と触れ合う機会を設けるなど、取組を工夫しています。
- 園では、友達と関わって遊ぶことが楽しいという経験をたくさんしています。友達と遊ぶことが楽しいと感じていると、新しい環境でも友達を見付けるのが上手になります。地域の同年齢の友達を見付けておくこともよいですね。

質問：自分のことができるか心配です。

- 小学校では、園とは環境が変化するので自分でできることにも戸惑いがあります。入学当初は6年生がお世話をしてくれます。
- 年長児になると、自分のことは自分でできるようになります。自分でできるという自信をもたせていきましょう。そして、自分でするには何が難しいことなのかを見極めて、家庭と園とで、一人一人にあった方法で支援していきましょう。
- 入学すると、時間割をそろえるなど明日の準備が必要になります。入学前も、家の方に何でもしてもらおうのではなく、親子で一緒に明日の準備をするなどできることからしていきましょう。



質問：食物アレルギーの対応は

してもらえるのでしょうか？

- 小学校では、きちんと対応します。事前に学校側と相談できる機会があるので、詳しく打ち合わせをしてください。

質問：好き嫌いがあるので、給食が
食べられるか心配です。

- 園でも小学校でも、友達と一緒に食べると案外楽しい雰囲気の中で苦手なものも食べられることが多いです。自分たちで栽培や調理をし、嬉しそうに食べてしまうこともあります。個人差はありますが、少しずつ食べられるようになるでしょう。
- 家庭でも、家族で楽しく食事の時間をもつことは大切です。調理方法も工夫するとよいですね。園や学校で食べたものを家庭でも作ってみるのもよいでしょう。
- 小学校では、食物について勉強する時間もありますから、何でも好き嫌いなく食べることの大切さを理解していくようになります。

事例 9

(1月～2月)園の保護者会 「先輩保護者に聞いてみよう！」

1 保護者会のねらい


○幼児が小学校の生活や学習に適應できるようにするための保護者の関わり方について考え合う機会をつくり、入学当初の家庭での取組について見通しをもてるようにする。

2 立案のポイント

○保護者同士で話しやすく、聞きやすい安心した雰囲気の中で懇談できるように、グループの人数や場の作り方を工夫する。

○事前に保護者の不安や疑問を把握し、その内容を生かした懇談を行い、保護者の不安や疑問の軽減につながるようにする。

3 保護者への理解啓発の流れと留意事項

保護者会の流れ	留意事項
<p>① 挨拶</p> <p>② 先輩保護者を交えてのグループ懇談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子を知るためには ・登下校について ・学校給食について ・友達関係について  <p>③ グループ発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・会の趣旨を共通理解できるように伝える。 ・先輩保護者からの体験談は、入学当初の保護者の関わり方について、事前に把握した不安や疑問を伝えておき、具体的な話で懇談を進められるようにする。 ・保護者の中から、司会者や記録者を決め、主体的に懇談に参加できるようにする。 ・子どもとの関係や保護者のおかれた環境が様々であることに留意できるよう、必要に応じてアドバイスしていく。 ・保育者がグループの話し合いに参加する場合は、保護者の立場に立って話すなど配慮する。 ・入学当初の子どもの不安や緊張を、子どもとの会話や行動から理解し、子どもの気持ちに寄り添う大切さを確認する。 ・入学の前後、心配なことや分からないことを、地域にいる先輩の方に遠慮なく相談したり、教えてもらったりすることの大切さを確認する。

4 グループ討議の具体例

質問：学校の様子を知るためにはどうすればよいのですか？

- ・食事の時に「今日の体育は校庭でやって楽しかった？」と、その日の出来事などを聞いて、子どもとのコミュニケーションを増やしました。
- ・学年便りを積極的によく読むようにしました。
- ・保護者会や授業参観等、学校行事に参加するなど、学校に行くようにしました。見て感じたことなどを子どもとよく話しました。
- ・心配ごとがある時は、連絡帳に書くと担任の先生から連絡帳や電話で返事がもらえます。すぐに対応した方がよさそうな時は、直接電話をしたり、学校に行って相談したりしました。



質問：学校で給食が食べられるか心配です？

- ・小学校では、20分間で食べるようです。家庭ではテレビを見ながら食べていたので、今は食べている時は付けないようにしました。
- ・身体が小さく少食なので、学校に前もってお願いをしました。
- ・食べ物の好き嫌いが多かったので、調理方法を工夫しました。そうしたら徐々に食べられるようになりました。



質問：登下校は一人で大丈夫ですか？

- ・近くの上級生に頼んで一緒に行ってもらっています。分からなければ、大きな通学路まで見送ると小学生が歩いていますよ。
- ・すぐに地区班集会があり、近所の友達が誰だか分かります。
- ・一人で行くのは嫌だと言ったので、夏休みまで、校門まで毎日送って行きました。
- ・私も仕事に出ていましたので、子どもに「〇時になったら家を出る」と伝えておいて、最初はその時間に電話を入れていました。

質問：けんかをした時は、子どもの話ではよく分からないので心配です。

- ・まず、よく話を聞きました。自分よがりの解釈が多かったようです。
- ・よく分からないことは、先生に聞きに行きました。
- ・学校であったことを家庭で聞いてもらったときは、満足のような様子でした。
- ・安心して明日また学校に行かれるようにしてあげることが大切ですね。

質問：園から一人、二人しか入学しないけれど・・・友達ができるかしら？

- ・うちも一人で入学しました。子どもは、案外すぐに仲良しの友達ができ、大丈夫でした。
- ・登下校が同じ方向の友達と、だんだんと仲良くなりました。
- ・学童保育で一緒の友達ができました。
- ・学級の中でも、友達と関わる時間があるので、とても楽しそうでした。

事例10

(4月)小学校の保護者会 「新1年生 学校と家庭で支えよう！」

1 保護者会のねらい

○小学校の生活や学習について知らせることで、入学当初の保護者の不安や疑問を解消するとともに、家庭における生活習慣や学習習慣の確立について、保護者の意識を高める。

2 立案のポイント

○就学前教育施設と小学校での保護者との関わり方の違いに配慮しながら、小学校での生活や学習について丁寧に説明し、保護者が学校生活への見通しと安心感がもてるようにする。

○学年全体会を行い、学年担任をはじめ、学校全体で児童を見守り、教育にあたることや、保護者と学校が連携を深めることの大切さを伝える。

3 保護者への理解啓発の流れと留意事項

保護者会の流れ	留意事項
① 挨拶	
② 学年全体会 ・学校経営方針について（校長） ・学年経営について（学年主任） ・1年生の発達の特徴 ・家庭との連絡方法について ・学習予定 ・年間行事予定 など	<ul style="list-style-type: none">・学校全体で児童に関わり見守っていくこと、学校と家庭との連携が重要であることを伝える。・保護者と担任との信頼関係が児童の安定につながり、学校への適応につながることを知らせる。・1年生の発達の特徴や現在の児童の姿を、具体的なエピソードを通して分かりやすく伝える。・入学当初は学年便りを週1回程度発行することと、児童が便りを持ち帰ることを伝える。・園との違いや関連する部分について、具体的に分かりやすく伝える。近隣の園の保育者が保護者会に参加し、一緒に話をするのもよい。・新しい生活に適應している面と戸惑いの見られる面を伝え、家庭での対応について知らせる。
③ 学級保護者会 ・学級経営方針 ・子どもたちの様子 ・学年便りに記載されている内容 ・1学期の詳しい予定	
④ まとめ	<ul style="list-style-type: none">・児童が学校に適應していくために、学校と家庭が協力していくことを確認する。

4 保護者に話す内容例

<校長から>

- ・小学校には専科教員や養護教諭等様々な教職員がおり、学校全体で児童を見守っていきます。
- ・スクールカウンセラーや養護教諭、栄養士等とも直接相談できます。
- ・家庭と学校が協力して、子どもたちを見守っていきましょう。

<1年生担任から>

- ・心配なことがあったら、担任に相談してください。
- ・小学校では、保護者の方が学校に来る機会が、保護者会や学校公開等で、月1回ぐらいになります。そのような機会には、ぜひ、お子さんや他の児童の姿等、小学校の様子を御覧ください。

(4) (仮称) 杉並区版プリスクール的事例

子どもの内面が育つ、小学校への期待や憧れが膨らむ「きらめき体験プログラム」

ア 基本的な考え方

幼児期の終わりにおいては、幼児の興味・関心や生活、協同性の育ち等の状況を踏まえ、課題を自分のこととして受け止め、相談したり互いの考えに折り合いを付けたりしながらクラスやグループみんなで達成感をもってやり遂げる経験を通して、集団の一員としての自覚や主体的に探究していこうとする心情・意欲・態度を培うことが大切です。この協同的な経験は、小学校就学後、学級集団の一員として友達と協力しながら学習課題を解決していく上での基盤につながるものと考えられます。

また、幼児は、新しく始まる小学校生活への期待感とともに環境の変化への緊張感を抱きながら入学していきます。生活環境の変化や学び方の変化など就学前教育と小学校教育のしくみや指導方法等の違いによる段差に戸惑いをもつ姿が見られます。特に5歳児は、就学を前に小学校の人・もの・ことへの興味・関心や環境の変化への緊張感が高まっていく時期であることを踏まえ、小学校の環境に関わる経験を通して、小学校生活や学習への期待や憧れの気持ちを膨らませる経験をする 것도大切です。

このような、幼児が協同して遊びを進め主体的に探究していこうとする心情・意欲・態度の基盤の上に、小学校の人・もの・ことなどの環境に関わる経験をさせる取組を「きらめき体験プログラム」と称し、幼保小連携の方策の一取組に位置付け、他の幼保小連携の活動と共に進めることで、小学校教育への円滑な接続を図ります。

なお、この取組は次年度から当該学校園の実態に応じてモデル試行を始め、幼児の小学校生活への円滑な移行を図る一助となるよう進めていきます。

イ 目的・内容

	テーマのある生活を生かした協同的な経験	小学校の人・もの・ことに関わる体験	
目的	テーマのある生活を生かした協同的な経験を通して、集団の一員としての自覚や主体的に探究していく心情・意欲・態度を培う。	小学校の人・もの・ことに触れ合う体験を通して、小学校生活への期待や憧れの気持ちを膨らませる。	
主な内容	幼児の発達の過程における協同性の高まりに応じて、友達と一緒に共通の目的を見だし、更にそれを具現化するために互いに協力して課題を解決していくテーマのある生活を生かした協同的な経験	小学校 ⇒ 就学前教育施設	就学前教育施設 ⇒ 小学校
		就学前教育施設で幼児と小学校の先生が関わる体験〔例〕 ・小学校の先生による絵本の読み聞かせを聞く体験 ・小学校の先生と一緒に歌を歌う体験 ・小学校の先生と一緒に運動的な遊びをする体験 他	幼児が小学校に行って活動する体験〔例〕 ・学校図書館で絵本や図鑑等を見て過ごす体験 ・1年生の教室での授業体験 ・音楽室で歌ったり、楽器で演奏したりして遊ぶ体験 ・学校の給食を食べる体験 ・校庭や体育館で遊んで過ごす体験 他

ウ 留意点

- ・授業体験では、小学校の生活や学び方を体験することを目的とし、できることを目的としないようにします。
- ・小学校と就学前教育施設で協力し、幼児の実態に応じて、適切な活動を計画して実施します。
- ・小学校の人・もの・ことに触れることが目的のため、園の活動としての体験先の小学校は、必ずしも個々の幼児が実際に就学することとなる小学校に限らないものと考えます。
- ・園の活動で実施する場合と、休業日等に保護者が直接小学校に幼児と共に参加する場合があります。

エ テーマのある生活を生かした協同的な経験について

就学前教育と小学校教育を接続する観点から、5歳児が自分たちで一つの目標に向けて協力し工夫する協同的な経験が重要です。小学校以降の学びの基盤としては、人との関わりを深め、子ども同士が協力して一つのことをやり遂げる協同的な経験を通して集団の一員としての自覚や主体的な探究心の育成が期待されています。

これまでも就学前教育施設では幼児同士が一つの目標に向けて協力し工夫していく経験は実践されてきています。したがってここでは、5歳児の保育の重点として、「協同的な経験」が営まれるよう幼児同士の人間関係を育てていくことや興味・関心をもって追究していきたい遊びが生まれるように環境の構成や援助を工夫改善していくことが、今まで以上に求められています。

そこで、幼保小連携の方策として（仮称）杉並区版プリスクールの中にテーマのある生活を生かした協同的な経験を位置付け、就学前教育と小学校教育の円滑な接続を図っていきます。

※ 接続前期に幼児が経験している活動場面の事例1（29、30ページ参照）

オ 小学校の人・もの・ことに関わる体験の事例

小学校の人・もの・ことに関わる体験の事例1

5歳児5月

「小学校の先生と遊ぼう」

小学校教員が園を訪れ、幼児が小学校教員と関わりながら遊ぶ体験をする事例

場所 〇〇幼稚園 保育室	時間 30分程度	指導者 〇〇小学校 〇〇〇〇 〇〇幼稚園 5歳児担任
活動のねらい 小学校の先生と関わりながら遊ぶ体験を通して、小学校の先生に親しみをもつ。	経験させたい内容 小学校の先生の話の話を聞いたり、流れに沿って一緒に遊ぶことを楽しむ。	
環境の構成 ○事前に、幼児が興味・関心をもちやすい絵本や好きな遊び等の情報を保育者から小学校教員に伝えておく。 ○保育者は後ろで見守り、必要な援助をするようにして、小学校教員と幼児の関わりを中心にする。		
事前の幼児の活動 ○小学校の先生が園に遊びに来てくれることを聞き、期待感をもつ。		
幼児の姿	活動の流れ	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ★小学校の先生も園の先生と同じようにやさしい感じであり、幼児は安心して話し掛けたり触れ合ったりして自分をアピールしている。 ★小学校の先生は幼児にとって珍しく、話を聞いたり一緒に遊んでもらったりするのを大喜びしている。 ★小学校の先生と遊んだことで親近感を増している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の先生と出会い、挨拶をする。 ○自己紹介や手遊びなどをして遊ぶ。 ○小学校の先生に絵本の読み聞かせをしてもらう。 ○さよならの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児への話し方は、短い言葉で分かりやすく楽しい雰囲気を出すようにする。 ・ 幼児のテンポに合わせて、表情豊かに行い、楽しい、面白いという雰囲気をつくるようにする。
事後の幼児の活動 ○小学校の先生と遊んで楽しかったことを友達の前で話したり聞いたりして、小学校の先生と親しくなれた喜びを共感する。 ○今度、自分たちが小学校に遊びに行くことを楽しみにする。		

「わくわく図書室」

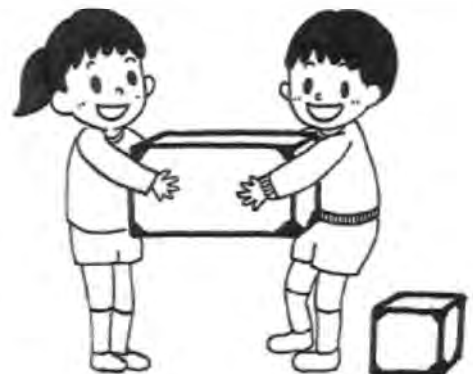
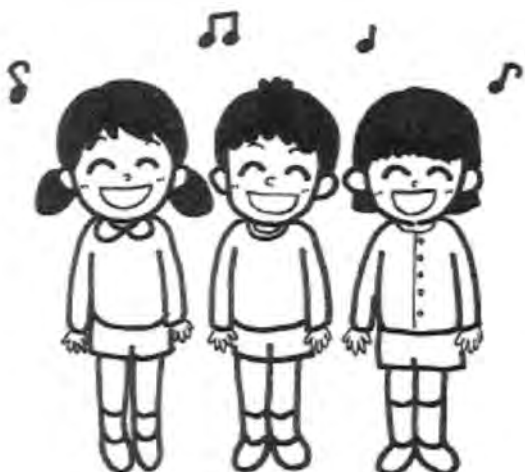
幼児が小学校の学校図書館に行き、小学校教員と関わりながら本を見る体験の事例

<p>場所 〇〇小学校 学校図書館</p>	<p>時間 第3校時（45分間）</p>	<p>指導者 〇〇小学校 教員、学校司書 〇〇保育園 5歳児担任</p>
<p>活動のねらい 学校図書館という施設に親しみをもち、小学校の先生の読み聞かせを聞いたり、興味のある絵本や図鑑等の本を見たりする体験を通して、小学校の生活に興味・関心をもつ。</p>		<p>経験させたい内容 小学校の先生の話の聞いたり、本を見るときルールを守りながら興味のある絵本や図鑑等を見たりして学校図書館での活動を楽しむ。</p>
<p>環境の構成 〇たくさんの絵本に囲まれた絵本コーナーなど、幼児が親しみやすく落ち着ける場を構成する。 〇幼児が興味をもちやすい絵本のいくつかを表紙が見えるように置く。</p>		
<p>事前の幼児の活動 〇小学校から、「学校の図書館に本を見に来ませんか。」と招待されていることを知り、「どんな部屋なんだろう。」「行ってみたいな。」という期待感をもつ。 〇挨拶や学校図書館で過ごすときの約束事を保育者と一緒に確かめ、自主的に行動しようという意識をもつ。</p>		
<p>幼児の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ★初めて学校図書館の中に入り、本がたくさん並んでいるところや大きな机がたくさんあるなど、初めて見る環境にわくわくしながら関心をもっている。 ★小学校の先生との初めての関わりであるが、手遊びをしたり、面白い話や読み聞かせを聞いたりして気持ちがほぐれ、安心した表情をしている。 ★大切に扱う、静かにするなど、自分たちでもつぶやきながら話を聞いている。 ★昆虫の本、宇宙の本、好きな物語の本など興味がある本を次々に選び、席に座って真剣な表情で見ている。友達と一緒に見ている幼児もいる。 ★選んできた大体の場所を覚えていて、その場所に大事そうに戻している。 ★広い学校図書館で、興味のある本を見ることができた満足感を抱きながら挨拶している。 	<p>活動の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇学校図書館に入って小学校の先生と出会い、挨拶をする。 〇学校司書と手遊びをしたり、読み聞かせを聞いたりする。 〇学校司書から本を見るとき約束事を聞く。 〇興味がある本を選んで見る。 〇本を片付ける。 〇トイレに行く。 〇小学校の先生にお礼の挨拶をする。 	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日頃から元気よく挨拶できていることを認め、小学校でもできるよう励ます。 • 手遊び、歌遊びなどをして幼児の緊張感をほぐすとともに、集中できる雰囲気をつくる。 • 短い言葉や図等を使って分かりやすくする。 • 迷っている幼児には、内容のまとめごとと並んでいることを知らせ、探しやすくする。 • 使い方を丁寧に示し、安心して使用できるよう援助する。
<p>事後の幼児の活動 〇小学校の学校図書館に行ってみてどんなことを感じたか、友達の前で発表する。 〇友達の話の聞いて、「自分もそうだった。」と、友達の気持ちに共感する。 〇園と小学校はどんなところが違うか、どんなところが興味があるかなど先生や友達に話しながら、小学校に行き活動することを楽しみにする。</p>		

「まねっこ1年生」 ※学校の休業日に保護者と共に参加する事例

幼児が小学校の1年生の教室に入り小学校教員と関わりながらプレ授業を体験する事例

場所 〇〇小学校 1年生教室	時間 45分間	指導者 〇〇小学校 現1年担任
活動のねらい 1年生の教室に入り、小学校の先生から簡単な授業を受ける体験を通して、授業の雰囲気を感じ、小学校の学習や生活への憧れや期待を膨らませる。	経験させたい内容 小学校の教室で簡単な授業を体験したり、トイレなどの小学校の施設を使ったりして、小学校の生活や学習の想像を膨らませながら1年生ごっこを楽しむ。	
環境の構成 ○実際の1年生の教室を使用し、1年生として授業を受ける雰囲気を感じられるようにする。 ○小学校の授業の1単位時間を体感できるように、間にトイレ休憩を入れて、全体を45分間で組み立てる。 ○1年生の入門期に扱う教材を参考に、幼児が興味をもって読んだり、書いたり、数えたり、作ったりなどする具体的な活動内容で構成する。 ○授業体験では、雰囲気を感じたり学び方を体験したりすることを目的とし、できることを目的としない。		
幼児の姿	活動の流れ	指導上の留意点
<p>★慣れない環境に緊張しながらも、掲示物などの教室環境や座席から見える風景にわくわくしている。</p> <p>★小学校の先生の話を生懸命聞いて、合図に合わせて読んでいる。</p> <p>★縦横の直線やぐるぐる巻き線の線等、プリントの線をよく見てなぞっている。</p> <p>★形を作っていく面白さやできた形の美しさに魅力を感じながら、形を作ることを楽しんでいる。</p> <p>★1年生になった気分を感じ、もっとやりたいという思いをもちながら終わりの挨拶をしている。</p>	<p>(前半20分間)</p> <p>○1年生が使っている席に着いて小学校の先生と出会い、挨拶をする。</p> <p>○国語に関する活動を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなを声に出して読む。 ・簡単な詩を声に出して読む。 ・鉛筆でプリントの線をなぞる。 <p>○トイレ休憩をする。</p> <p>(後半20分間)</p> <p>○算数に関する活動を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形のブロックを机の上に並べて好きな形を作る。 <p>○終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりと終わりの挨拶を体験させる。 ・正確さを求めるのではなく、授業で鉛筆を使って書くという体験をしていることを認める。 ・使い方を丁寧に示し、安心して使用できるよう援助する。 ・形を作りながら、この形があと2個ほしいなど、必要に応じて数えたりする姿を認める。



第4章

接続期における 特別な配慮を要する子どもへの支援

1 接続期における特別な配慮を要する子どもへの支援のポイント

就学前教育施設から小学校へ就学する接続期の環境変化は、障害のある子どもにとっても大きな影響があります。そのため、一人一人に必要な支援をどのように継続させていけるかは、就学前教育施設と小学校双方の共通の課題です。

ここでは、接続期の継続的な支援をどのように進めていけばよいのか、就学前教育施設と小学校それぞれの環境の特性や仕組みを踏まえて説明していきます。

接続期の継続的な支援を円滑に進めていくためには、いくつかの重要なポイントがあります。

1点目は、保護者との連携です。子どもの特徴や具体的で効果的な支援の要点など、就学前教育施設に在籍している間に、保育者と保護者はたくさんの情報を共有していきます。それらの情報を小学校へ引き継いでいく際、就学前教育施設と保護者とが連携を図ることで、より効果的に引き継ぐことが可能となります。

2点目は、就学までの流れを就学前教育施設側も小学校側もしっかりと理解して対応することです。具体的には、夏休み前から始まる教育委員会（特別支援教育課）の就学相談や秋に各小学校で行う就学時健康診断、就学先や適切な教育環境の整備や支援体制についての検討を行う就学委員会など、就学へ向けての相談の流れを把握し、就学前教育施設が蓄積してきた支援の方策をしっかりと小学校へとつないでいきましょう。

3点目は、就学前教育施設での支援を小学校での支援にどうつなげていくのか、逆に小学校側は、就学前にはどのような支援がされているのかについて、お互いによく理解しておくことが大切です。就学前教育施設か小学校かを問わず、障害のある子どもへどのような配慮や支援が効果的なのか、自園（校）以外の関係機関との積極的な情報交換が求められています。

また、障害についての捉え方や支援の方法など、この分野では、毎年のように考え方や仕組みが修正されたり付け足されたりしながら発展していきます。特別支援教育や障害児支援について、各施設が常に最新の情報を取り入れる努力をしていくことが大切です。

以上のポイントを踏まえ、就学前教育施設と小学校双方が相互理解を深めながら、障害のある子どもへの切れ目のない支援を目指して取り組んでいきましょう。

2 就学前の支援 ～就学前教育施設～

（1）障害のある幼児への教育

就学前教育施設での活動の特質は、幼児同士が関わりを深める中で、その幼児一人一人の発達が進められることです。幼児同士の関わりには、意見の相違や欲求のぶつかり合いなど、一見ネガティブな要素に見える関わりがたくさんあります。しかしその体験こそが、自分への気づき、他者への思いやり、友達とのつながり方、仲間と力を合わせる姿勢など多くの力を獲得し自分の世界を広げていく契機となります。障害のある幼児の成長にとっても、この幼児同士の関わりから得られる育ち合いが必要不可欠です。就学前教育施設で障害のある幼児を受け入れる際にも、幼児同士の関わりを前提としている園生活の特性を最大限活かしながら、その幼児の全体的な発達を支えていくという視点をもった取組が重要となります。

(2) 就学前教育施設で障害のある幼児を支援する基本的な姿勢

①一人一人の特性を理解し、全ての幼児にとって楽しい園生活をつくっていく

障害のあるなしにかかわらず、全ての幼児にとって通うことが楽しい園にする努力が保育者によってなされていることが基本です。就学前教育に携わる者の基本的な姿勢が、集団の中での関わりにおいて、幼児一人一人の成長を支え可能性を広げていくことにつながっていきます。

②保育者が障害のある幼児との信頼関係を築いていく

障害のある幼児の担任は、できるだけ早く（できれば入園前に）その子はどんな特性をもっていて、何に興味・関心があり、どのような活動が好きなのか、うまくいかないときにはどのような行動をとる傾向があるのかなど、行動観察や保護者との情報共有などを通して把握することが大切です。保育者自らがその幼児と関わり、その子に対する理解を深め、頼りになる存在になれるよう、早い段階から信頼関係をつくることを心がけましょう。

③園全体で支援をする協力体制をつくっていく

障害のある幼児の中には、その発達の遅れやアンバランスさから同年齢の集団への参加が難しかったり、興味・関心がいろいろな場所へ広がりやすくクラスの枠を超えて広範囲に生活の場をつくっていったりする幼児がいます。支援の必要な幼児を担任だけではなく園全体で支えるという体制をつくることで、担任が一人で悩みを抱えることなく仕事に臨める環境づくりや、園全体の教育・保育力の底上げを図りましょう。

④保護者を支え、信頼関係を築いていく

障害のある幼児の保育では、保護者との綿密な連携が必要不可欠です。「こうしましょう、こうしてください」のような一方的な伝達では、保護者との信頼関係はできません。まずは、保育者が障害のある幼児を育てている保護者の苦労や悩み、不安や焦りを理解し受けとめ、一緒に子どもの成長を支えていきましょうという姿勢を示すことが大切です。また、子ども同士だけでなく保護者同士のつながりを広げて、保護者の安定を図ることも大切な支援の一つです。

⑤関係機関との連携と個別の教育支援計画の活用を進めていく

障害のある幼児の中には、医療機関や療育機関を利用している場合があります。自園以外の機関との情報交換や共有は、支援を効果的に進めていく上でとても大切です。そのために、支援の必要な子どもについて、「個別の教育支援計画」（資料①）を作成し活用していくことが有効です。園内の情報の共有化や小学校への引き継ぎ時には、大変有益な資料となりますので、各園で取り組んでいきましょう。

3 就学までの準備 ～就学前教育施設～

(1) 障害のある幼児一人一人の支援のポイントの明確化

5歳児になると、障害のある幼児もいろいろな活動に意欲的にチャレンジするようになり、クラスの一員として力を発揮してきます。これまでの成長を保護者と一緒に喜びつつ、5歳児の後期では、障害ゆえの困難さも明らかになり、保育者の側も「こうすればできるよね」といった支援のポイントが定まってくる時期といえます。次頁の表「保育の中で障害のある幼児を支援する視点」は、保育の中で障害のある幼児を支援していく視点のポイントを簡潔に整理したものです。実際の支援についても、表にある「場面・領域など」で整理することで、その幼児の生活全般を見渡すことが可能になります。

また、支援の内容等は当該幼児の成長の過程で変わっていくものです。「今必要な支援は何か」という視点を持ち、支援が固定化することで障害のある幼児の発達の芽を摘まないようにすることが大切です。それには、定期的に支援の内容等を見直す話し合いを行っていくことが大切です。

表 保育の中で障害のある幼児を支援する視点

場面・領域など		支援の視点
人とのかかわり	言葉の理解 言葉の表出 コミュニケーション 集団行動 交友関係 対人関係	集団場面での言語理解、個別対応時の言語理解、理解できる言葉のレベル 発声、発音、抑揚、語彙力、声の大きさの調整、構文、特異な言い回し 文脈・行間の読み取り、非言語的な伝達手段の理解と使用、会話のパターン 独り言、反響言語や独特の表現、主客転倒した表現や会話 集団への興味・関心、参加の仕方、サポートの有無 仲のよい友達の有無、友達へのアプローチの仕方、関係の発展性 母子分離、愛着行動、他者への援助の求め方、見知らぬ人への警戒心、距離感
生活活	食事 着替え 排泄 衛生 整理整頓 時間的展望 危機管理	偏食の有無・内容、スプーン・フォーク・箸の使用、食べる時間、マナー ボタン・ファスナー等の操作、裏表(前後)の理解、たたむ操作、着脱の速さ トイレの使い方、和式の使用、用便後の始末、パンツ・おむつの使用状況 衛生・清潔に関する意識、手洗い、鼻かみ、汚れたときの反応 自分のものと他人のものとの区別、自律的な片付けや整頓、道具の扱い方 見通しをもった活動、場面の切り替えと気持ちの切り替え 危険な場所や状況への気付き・理解とそれを回避する力
遊びの中での学び	運動遊び 造形・リズム ごっこ遊び 絵本・紙芝居 ルール遊び その他	粗大運動、協応動作、遊具の使い方 手指の巧緻性、表現力、創造力、リズム感、歌や楽器への興味、音への過敏性 ふり・見立ての理解、役割の理解、ごっこの世界を楽しめるか、独り遊び 興味・関心のある領域、文字・数字への興味・関心、読み聞かせを楽しめるか じゃんけんの理解、ルールの理解と参加、順番・交代の理解 玩具や遊具の共有、特定分野へのこだわりや深い知識、興味・関心の広がり こだわりや奇妙なくせ、多動やパニックなどの特異な行動

小学校への就学を控えた接続期は、障害のある幼児一人一人の支援全般について整理する時期です。園と保護者とが情報を交換・共有しながら、「この支援は有効だったね」「この配慮は就学後も必要なものだね」「この言葉がけはそろそろ必要ないかな」といった整理をし、小学校への円滑な引継ぎを目指しましょう。

(2) 保護者を支える① 就学支援シート「すばるⅡ」の活用

接続期に、小学校への情報の引継ぎを行うルートには2つあります。1つは保護者から就学先の小学校へと直接情報を提供し、その情報を共有する中で、就学後の支援体制や個別指導計画の作成につなげていくルートです。もう1つは就学前教育施設から小学校への情報の引継ぎです。

保護者から就学先の小学校への情報提供には、杉並区就学支援シート「すばるⅡ」(資料②)を使います。このシートは、教育委員会(学務課・特別支援教育課)、こども発達センターで入手することができます。就学前教育施設が対象児の特性や支援の状況について記入する欄もありますので、より精度の高い内容になるように、保護者と連携して作成することが重要です。

(3) 保護者を支える② 就学に向けてのアドバイス

就学先の決定は、この時期の保護者にとって一番の課題であり悩むところです。どの学級や学校で学ぶことが幼児の成長を最も支えることになるのかを判断するには、慎重な検討が必要です。就学前教育施設は、小学校の通常学級か特別支援学級かといった視点ではなく、どのような支援がその幼児に必要なのか、その幼児の発達を確実に保障するためにはどのような理解や支援が有効なのかという視点で保護者を支えていくことが重要です。保護者へのアドバイスは、具体的な就学先はどこなのかではなく、その幼児にとって必要かつ効果的な支援や配慮が可能な教育環境を見つけていきたいと思いますという姿勢で、保護者の決定を支えていくことが大切なのです。

4 就学までの準備 ～小学校・教育委員会～

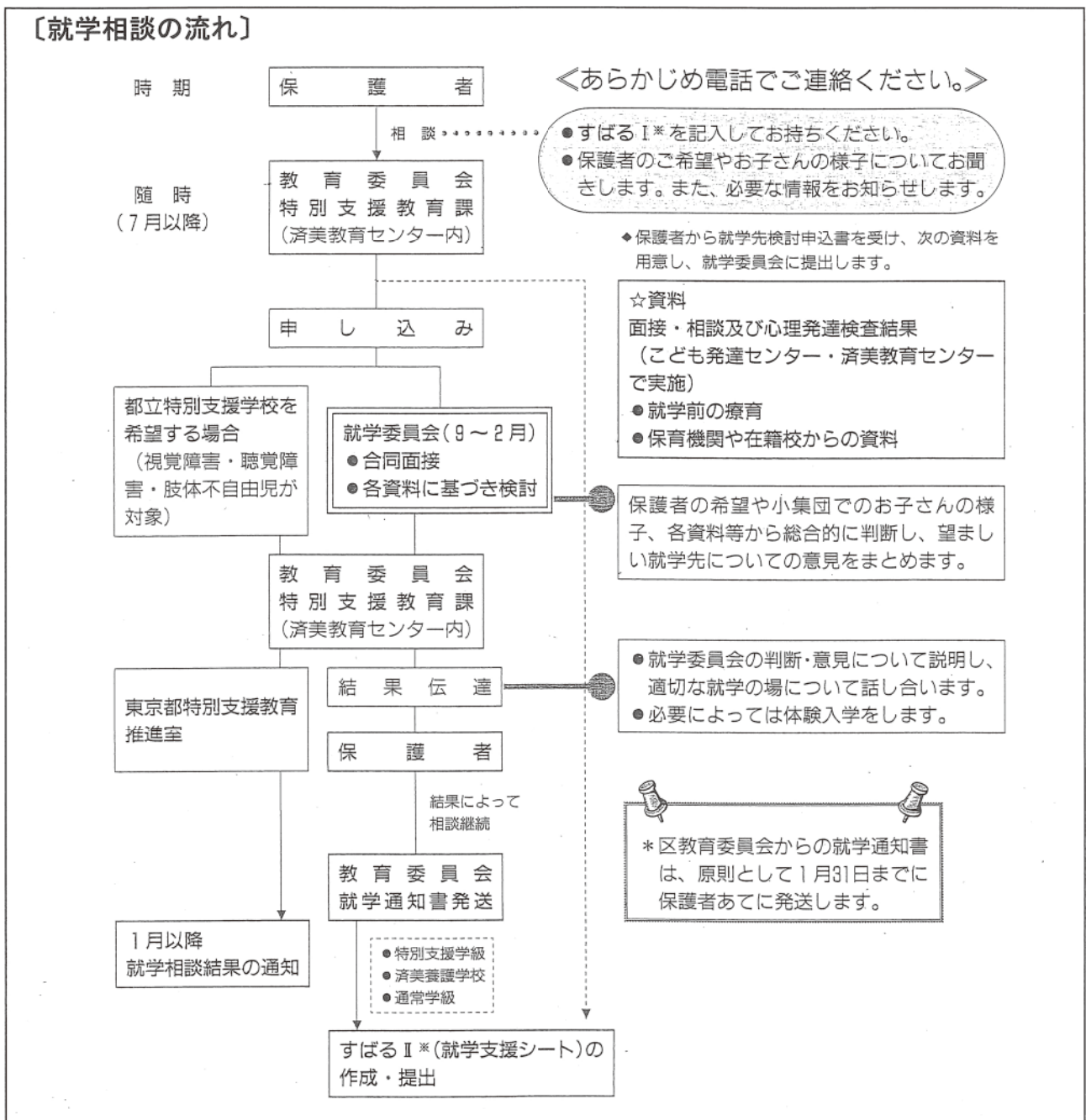
(1) 就学時健康診断

小学校では、10月中旬から11月中旬の時期に翌春就学予定の幼児を対象とした健康診断を実施しています。各小学校では、内科や歯科といった医学的な健診や個別の面談などを行い、支援や配慮の必要な子どもの把握と、入学へ向けての校内の準備をスタートさせます。

就学時健康診断から入学式までが、特別支援教育に関わる校内支援体制づくりや、就学予定児童の情報の引継ぎ等を行う期間となりますので、特別支援教育コーディネーターを中心に、各校で取り組んでいきましょう。

(2) 就学相談

就学へ向けての相談は、小学校と教育委員会とが連携をしながら進めていきます。相談から就学先の決定までには、丁寧で慎重な検討と相談の積み重ねが必要になります。ここでも重要なのは、障害のある幼児一人一人の特性を把握した上で、どのような支援がどの程度必要なのかについて相談を進めていく姿勢です。（図は、「杉並区の特別支援教育」ガイドブックより抜粋）



5 就学後の支援 ～小学校～

(1) 小学校入門期の適応支援

小学校へ入学した児童は、様々な環境で一人一人が違った経験を積んできています。そうした多様な姿をもった児童が、新しい環境で新しい仲間と新しい学びの体験を重ねていくには、それぞれの小学校や学級で学んでいくためのルールやマナーやスキルを身に付けていくことが必要です。入学から2～3カ月までを小学校入門期と捉え、まずは全ての児童に対して、最初の支援を始めましょう。

具体的には、1年生の担任は、教室環境や授業の参加の仕方など、生活全般を分かりやすく構成し、全ての児童にとって安心して学べる分かりやすい学校・学級にしていくところから始めます。これを「構造化」と呼びます(資料③「構造化」の項目の例)。「構造化」は、全ての児童が学校という仕組みを理解し、見通しをもって安定した学校生活を送ることができるようになるための環境づくりや配慮事項です。この時期は、障害のあるなしにかかわらず、児童の多くが新しい環境に戸惑い不安な時間を過ごしています。担任は児童に、学校は安全で安心できる場所であることを示す必要があり、「構造化」は、多様な経験を積み重ねてきた一人一人の児童が、学校という新しい環境でその力を発揮していく上での土台となります。特に障害のある児童にとって、この「構造化」された環境が、見通しをもった生活を送る上で何よりの支えとなります。

(2) 「個別の教育支援計画」と「個別指導計画」の作成

入学後早い段階で、担任や特別支援教育コーディネーターなど、校内での支援の要となるスタッフと保護者とで、共通理解のための話し合いをもつことが大切です。ここでは、保護者の学校生活に対する不安を取り除くことが最大の目的です。その上で、対象児童についての「個別の教育支援計画」を作成します。「個別の教育支援計画」は、支援の方向性を確認したり関係機関との連携を図ったりしていく上での指針となるものです。また、保護者から杉並区就学支援シート「すばるⅡ」(資料②)が学校に提供されている場合には、「個別指導計画」(資料④)の作成へと進んでいきます。いずれの計画も、拙速に話を進めるのではなく、保護者の思いや願いを十分に受けとめながら計画を作ることが大切です。

(3) 校内委員会の実施と情報の共有化

校内委員会は、校内の特別支援教育を進めていく上で、大変重要な場です。ここには、支援に必要な全ての児童についての情報が集約され、一人一人の学習を後押しするための支援策が話し合われます。そしてその支援策・支援方針に則って一人一人に対する支援が行われます。

“教室から校内委員会へ、そして校内委員会から教室へ”のサイクルを回すことで、児童の実態や支援方針、支援の効果などを校内で共有できるようにします。このことは、担任と担任以外の教員やスクールカウンセラー、介助員など、立場の違うスタッフ同士が効果的な協力体制をつくっていくことにつながります。

6 インクルージョン社会に向けての支援 ～個別の支援と集団づくり～

特別支援教育では、障害のある児童へどのような個別的な配慮・支援が必要なのかについて検討し実行していきます。しかし、それはその児童を所属する集団から切り離して指導することではありません。全ての児童が、クラスの一員として仲間として参加できるように支援していく中で、個別の配慮や支援の内容が考えられ行われることが大切なのです。

今、社会全体で、障害のあるなしにかかわらず、誰もが支え合って生きていける共生社会であるインクルージョン社会の実現へ向けた取組が始まっています。障害のある幼児・児童への接続期の支援も、その大きな流れを視野に環境づくりを行い、着実に推進していくことが求められています。

〈用語解説〉

就学相談	障害のある全ての子どもに教育を保障することを基本理念に、一人一人の子どもの障害の種類や程度、発達の状態に応じた適切な教育の場について話し合う相談。
就学時健康診断	毎年 10 月～11 月に小学校で実施される健康診断。翌春就学予定の幼児が受診し、学校は健康状況の把握や保健上必要な助言や就学へ向けての相談を行う。
就学委員会	障害があり支援の必要な幼児・児童・生徒について、必要な支援を行うのに適切な就学先について検討し審議する教育委員会が設置する組織。
特別支援教育	平成 19 年度、従来の「特殊教育」から、全ての学校・学級で障害のある幼児・児童・生徒を対象に支援を行う「特別支援教育」へと変わった。障害のある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行う様々な取組が行われている。
個別の教育支援計画	家庭や医療、福祉などの業務を行う関係機関と連携した支援を行っていくために、各学校園が障害のある幼児・児童・生徒毎に作成する計画書（資料①「区立子供園 個別の教育支援計画」様式）
すばるⅡ	保護者と就学前の機関が子どもの発達の様子や支援のポイントなどについて記入し、就学先の学校へ提出する就学支援シート。小学校では、この支援シートを元に「個別指導計画」を作成する。（資料②「杉並区就学支援シート すばるⅡ」） 「すばるⅠ」は就学委員会での相談時に保護者と教育委員会とで作成する就学相談票。
個別指導計画	障害のある幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、指導目標や具体的な支援の手だてについて明らかに示す計画書。教科や領域毎に立案し学期毎に見直しを行い更新していく。（資料③小・中学校の「個別指導計画」）
構造化	障害のある子どもにとって、周囲の環境の意味を分かりやすく整える方法。 教室のレイアウトを分かりやすくする物理的構造化、授業や生活の流れを分かりやすく示す時間的構造化、あいまいな情報を視覚情報に置き換える視覚的構造化などがある。（資料④「構造化」の項目の例）
インクルージョン	障害のあるなしや年齢、性別などにかかわらず、地域社会の全ての人が共に支え共に生きていくという考え方。

幼児	(フリガナ)		性別
	氏名		
	住所		
担任	氏名		
	氏名		
在籍園	杉並区立 子供園		組

現在・将来についての希望

幼児	
保護者	

支援の目標

--	--

必要と思われる支援

--	--

子供園の支援

--	--

家庭の支援

--	--

支援機関の支援

園生活	支援機関： 担当者： 連絡先：
	支援内容
福祉機関 地域生活	支援機関： 担当者： 連絡先：
	支援内容
	支援機関： 担当者： 連絡先：
	支援内容
医療機関	支援機関： 担当者： 連絡先：
	支援内容

支援内容の評価と課題

--	--

支援会議の記録

日時	参加者	協議内容・引継ぎ事項等

作成日 平成 年 月 日 < 新規・更新 (回) >

杉並区立 子供園 園長
作成担当

私は、以上の内容を了解し確認しました。

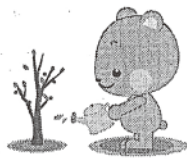
平成 年 月 日 保護者氏名 _____ 印



すばるII

～杉並区就学支援シート～

一人ひとりのお子さんが、楽しく充実した学校生活をおくる
ことができるようにと願って作成する就学支援シート「すばるII」
です。お子さんの就学にあたり、保育園・幼稚園・療育機関等
での生活の様子や保護者の方が大切にしてきたことを学校に引
き継ぎ、教育活動に生かしていくものです。



(フリガナ) お子さんの氏名	
保護者の氏名	
連絡先(電話)	



項目 観点	保護者の方から	保育園・幼稚園・療育施設の方から
対人関係 コミュニケーション ・集団活動への参加(小・大) ・子ども同士の関わり、大人・教師との関係 ・相手の気持ちの理解		
その他 全体的な行動 ・集中力、落ち着き ・衝動性 ・情緒の安定 ・こだわり等		

2 療育関連機関等で継続的な相談や指導を受けている方は担当者に記入を依頼してください。
(今までの指導で大切にしてきたことや就学後も必要と思われる内容・配慮事項等。)

--

3 就学後の学校生活について、保護者のお考えをお書きください。

就学先の学校に期待すること・思いなど	
--------------------	--

就学支援シート 「すばるII」

杉並区教育委員会

お子さんの氏名() 男・女 平成 年 月 日生

1 保護者が記入してから、保育園・幼稚園等に記入を依頼してください。療育機関に定期的に
通っている方は、次ページの療育機関の情報をお願いします。すでに担当者から別紙で書いて
いただいている方は、保護者の欄のみで結構です。

項目 観点	保護者の方から		保育園・幼稚園・療育施設の方から	
	記入日 記入者()	年 月 日	記入日 年 月 日	所属機関名() 担当者氏名()
学 習 面 言葉の理解 ・聞く、書く、 話す ・表出の仕方、 表現 数の理解 音楽、絵、工作 学習態度				
身 体 状 況 運動能力 ・歩く、走る、 跳ぶ、泳ぐ ・手指の動作 病気 等				
生 活 面 基本的生活習慣 ・身辺処理 着脱(服、運動 着、靴)と整理 食事(量、偏食、 態度)、排泄、 睡眠、清潔、 健康・保健全 行動				

「すばるII」を記入して下さるみなさまへ

就学支援シート「すばるII」は、各学校が「個別指導計画」を作成するのに
参考資料となるものです。お子さんのこれまでの成長・発達の様子を大切にし、
学校生活へのスムーズな移行をめざします。記入は、保護者の方と就学前機関
等(保育園・幼稚園・療育機関等)が、ともに記述します。

- お子さんのよいところ、伸びたところ、できること、得意なこと、
好きなことなど
- お子さんの苦手なこと、また、情緒が不安定になったときの対応の方法、
学校生活において配慮が必要なことなど
- お子さんが、学習や教育活動に取り組みやすい声かけや介助・支援の仕方、
落ち着いた学校生活ができる環境設定の工夫など
- お子さんのよりよい成長・発達のために、学校に入学してから引き継い
でほしいと思うことなど
- この就学支援シート「すばるII」のすべての欄を記入されなくても、結構
です。また必要に応じて関係資料を添付してください。

「すばるII」の記入の流れと保管について

1. 保護者が就学支援シート「すばるII」を受け取る。
 - ・配布場所＝特別支援教育課(済美教育センター内)、児童発達相談係、
こども発達センター
 - ・配布時期＝年度当初より随時配布する。
 - ・記入方法などの説明＝特別支援教育課 6月頃 以降は随時
2. 「すばるII」の流れ
 - ・保護者は「すばるII」に記入する。就学委員会以後
 - ・次に、保育園・幼稚園・療育機関等に記入をお願いする。
 - ・保護者が、コピーを1部取り、家庭で保管する。原本は学校に提出し、
就学先の学校での「個別指導計画」の作成のときなどに役立てる。
 - ・原本と必要書類は、保護者が直接校長(副校長)に2月～3月上旬頃に
手渡す。(学校へは、あらかじめ連絡をしてから訪問する。)
 - ※就学委員会で検討した児童については、保育園・幼稚園・療育施設の欄は省略できる。
3. 学校は、「個別指導計画」を作成し、指導にあたる。
 - ・新年度4月に担任は、すばるIIや必要資料等を参考に「個別指導計画」を
保護者の参画のもとに作成する。
 - ・担任は、個別指導計画や資料等をファイル化するなど、保管・活用を図る。
学年の進行や中学校の進学時に引き継ぐものとする。



「構造化」の項目の例

以下の項目について検討し、校内環境の構造化を推進していきましょう

1 教室環境の構造化

- ①教室の装飾・掲示物をなるべく少なくするなど、刺激を減らす工夫をしている ()
- ②ゴミ箱やそうきんかけなどが決まった場所に設置されている ()
- ③黒板に掲示物を貼らないなど、黒板上はその時間の授業に必要な情報を中心に扱っている ()
- ④黒板の上部や横の壁面には掲示物を（できるだけ）貼らず、刺激を減らす工夫をしている ()
- ⑤教室のどの席からも、時計と時間割が視認できるようになっている ()
- ⑥一人一人の机の定位置が分かるように床に印が付いている ()
- ⑦担任の教卓の上が、きちんと整理整頓されている ()
- ⑧授業中、隣のクラスや外部からの音が教室内に聞こえてこないような工夫がされている ()

2 生活のルール・マナーの構造化

- ①時間割の変更がある場合は、前日までに知らせしている ()
- ②その日の予定が、分かりやすく目立つ掲示になっている ()
- ③机の中の文房具類の片付け方が示されている ()
- ④正しい座り方や正しい鉛筆の持ち方などが示され、習慣化されるように指導している ()
- ⑤下駄箱やロッカーの整理の仕方・片付け方が決まっている ()
- ⑥給食の準備・片付けについてのルールが決まり事になっている ()
- ⑦授業の始まりと終わりが挨拶で区切られている ()
- ⑧掃除の手順や片付け方などが明確化されている ()

3 授業の構造化

- ①1時間の授業スケジュール（構成）が明示されている ()
- ②作業や活動の時間が提示されている ()
- ③配布するプリント類のフォントは教科書体にするなど一定にしている ()
- ④課題が早く終わった児童のために、新たな課題などのドリルが用意されている ()
- ⑤黒板を見れば、その時間で学習している内容が一見して分かるようになっている ()
- ⑥課題用のプリントは、内容はもちろん問題数も厳選して作られている ()
- ⑦次回の授業の予告をしている ()

4 人間関係のルール・マナーの構造化

- ①弱い子が守られるようなルールやマナーについて示されている ()
- ②友達、先生などの呼び方について、してはいけない呼び方が教えられている ()
- ③ルールやマナーに違反したときの反省点が示されている ()

5 構造化を意識した指導

- ①問題行動に関する指導についてガイドラインなどを作り校内で共有されている ()
- ②児童の不適切な行動に対して、その都度明確に指導がされている ()
- ③望ましい行動については、児童に反復して練習し習慣化できるよう指導している ()

いくつかの項目については、写真や図を使って児童に示すなどして、
安定した学校生活を送れるよう 教室環境を構造化してみましよう

作成年月日 _____

学校名 _____

個別指導計画 (学期用)

ふりがな		性別	在籍学級	
氏名			担任氏名	

本人・保護者の願い

本人	
保護者	

児童・生徒の実態と目標		支援のヒント/対応例	指導の手だてと評価

学期の目標

--

参 考 資 料

- ・(仮称) 杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会委員名簿
- ・(仮称) 杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会作業部会員名簿
- ・(仮称) 杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会設置要綱
- ・本書で活用した主な関連資料

(仮称)杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会 委員名簿

	氏 名	所 属 ・ 職	備 考
1	河 邊 貴 子	聖心女子大学文学部教育学科教授	委 員 長
2	金 子 恵 美	日本社会事業大学社会福祉学部福祉援助学科准教授	委員長職務代理者
3	田 中 法 生	区内私立幼稚園代表（観泉寺幼稚園長）	
4	橋 本 健 次	区内私立保育園代表（頌栄保育園副園長）	
5	邊 見 公 子	杉並区立桃井第二小学校長	
6	山 口 京 子	杉並区立高井戸第二小学校副校長	
7	小 堂 十	杉並区立高井戸西幼稚園長 兼久我山小学校長	～H25. 3. 31
8	藤 川 ゆ り	杉並区立下高井戸子供園副園長	～H25. 3. 31
		杉並区立下高井戸子供園長	H25. 4. 1～
9	川 副 園 美	杉並区立成田西子供園副園長	H25. 4. 1～
10	上 條 その子	杉並区立西荻北保育園長	
11	出 保 裕 次	保健福祉部保育課長	～H25. 3. 31
12	白 井 教 之	保健福祉部保育課長	H25. 4. 1～
13	正 田 智枝子	保健福祉部子供園担当課長	～H25. 3. 31
14	寺 井 茂 樹	保健福祉部副参事（子供園担当）	～H25. 3. 31
		保健福祉部子供園担当課長	H25. 4. 1～
15	森 山 徹	杉並区教育委員会事務局特別支援教育課専門家チーム	
16	田 中 稔	杉並区立済美教育センター所長	
17	出 町 桜一郎	杉並区立済美教育センター統括指導主事	
18	加 藤 康 弘	杉並区立済美教育センター就学前教育担当課長	H25. 5. 14～

(仮称)杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会 作業部会員名簿

	氏 名	所 属 ・ 職	備 考
1	加 藤 康 弘	杉並区立済美教育センター就学前教育担当課長	部 会 長
2	白 井 教 之	保健福祉部保育課長	
3	寺 井 茂 樹	保健福祉部子供園担当課長	部会長職務代理者
4	森 山 徹	杉並区教育委員会事務局特別支援教育課専門家チーム	
5	齋 藤 由 美	杉並区立下高井戸子供園副園長	
6	高 橋 章 子	杉並区立高井戸西子供園副園長	
7	宮 田 睦 子	杉並区立高円寺北子供園教諭	
8	小 林 綾 子	杉並区立西荻北子供園教諭	
9	宮 川 つね子	杉並区立永福南保育園長	
10	宮 腰 松 美	杉並区立井草保育園長	
11	田 中 巨	杉並区立久我山保育園主査	
12	佐 藤 裕 子	杉並区立阿佐谷北保育園主任主事	
13	小 堂 十	杉並区立久我山小学校長	
14	一ツ柳 秀美	杉並区立天沼小学校副校長	
15	佐 藤 啓 子	杉並区立永福小学校主幹教諭	
16	松 本 陽 子	杉並区立桃井第一小学校教諭	

作業部会は、平成 25 年 5 月 21 日設置

作成協力者

1	石 床 美穂子	杉並区立堀ノ内子供園副園長	事 例 作 成
2	羽 染 美 波	杉並区立堀ノ内子供園教諭	イラスト作成

事務局

	氏 名	所 属 ・ 職	備 考
1	加 藤 康 弘	杉並区立済美教育センター指導主事	～H25. 3. 31
		杉並区立済美教育センター就学前教育担当課長	H25. 4. 1～5. 13
2	岡 千 恵	杉並区立済美教育センター指導主事	～H25. 3. 31
3	片 岡 忠	杉並区立済美教育センター就学前教育担当係長	
4	高 林 典 生	保健福祉部保育課管理係長	
5	萩 原 康 子	保健福祉部保育課指導係長	H25. 4. 1～
6	齊 藤 利 昭	保健福祉部保育課子供園担当係長	
7	小木曾 菜由美	杉並区立済美教育センター就学前教育担当	
8	松 本 眞知子	杉並区立済美教育センター就学前教育担当	
9	日 野 照 代	杉並区立済美教育センター就学前教育担当	
10	酒 井 啓 子	杉並区立済美教育センター就学前教育担当	

(仮称)杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会設置要綱

平成25年1月15日

杉教第9163号

改正 平成25年5月14日杉教第1364号

(設置)

第1条 子どもの発達や学びの連続性を踏まえたより質の高い教育を行うことを目指して、就学前教育と小学校教育との連携を効果的に推進し、それぞれの教育の一層の充実を図るためのカリキュラム（以下「カリキュラム」という。）を策定することを目的として、（仮称）杉並区幼保小連携カリキュラム策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) カリキュラムの策定に関すること。
- (2) その他カリキュラムに関し、必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、別表に掲げる者につき、教育委員会が委嘱し、又は任命する委員17名以内をもって組織する。

2 委員の任期は、委嘱又は任命の日から平成26年3月31日までとする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員長は、委員会を招集し、会議を主宰する。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴き、又は説明を求めることができる。

(作業部会)

第6条 委員会に、カリキュラムの素案及び案を検討するため、作業部会を置く。

- 2 作業部会は、委員長が指名した者をもって組織する。
- 3 作業部会に部会長を置き、当該作業部会に属する者のうちから委員長が指名する。
- 4 部会長は、作業部会を招集し、作業部会における検討の経過及び結果等を委員会に報告する。
- 5 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長が指名する者がその職務を代理する。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、杉並区立済美教育センター及び保健福祉部保育課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年1月15日から施行する。

附 則（平成25年5月14日杉教第1364号）

この要綱は、平成25年5月14日から施行する。

別表（第3条関係）

学識経験者 2名以内
区内の私立幼稚園長 1名
区内の私立保育園長 1名
杉並区立子供園長 1名
杉並区立子供園副園長 1名
杉並区立保育園長 1名
杉並区立小学校長 1名
杉並区立小学校副校長 1名
保健福祉部職員 2名
教育委員会事務局職員 1名
杉並区立済美教育センター職員 3名
その他教育委員会が特に認めた者 2名以内

本書で参考にした主な関連資料

- ・幼稚園教育要領（平成20年3月 文部科学省）
- ・保育所保育指針（平成20年3月 厚生労働省）
- ・小学校学習指導要領（平成20年3月 文部科学省）
- ・幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開（平成25年7月改訂 文部科学省）
- ・幼稚園教育指導資料第2集 家庭との連携を図るために（平成4年7月 文部省）
- ・幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価（平成22年7月改訂 文部科学省）
- ・幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導（平成7年3月 文部省）
- ・幼稚園教育指導資料第5集 指導と評価に生かす記録（平成25年7月改訂 文部科学省）
- ・幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集（平成13年3月 文部科学省）
- ・幼児期から児童期への教育（平成17年2月 国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
- ・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）（平成22年11月 文部科学省幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究者会議）
- ・保育所や幼稚園等と小学校における連携事例集（平成21年3月 文部科学省 厚生労働省）
- ・幼児期運動指針ガイドブック～毎日、楽しく体を動かすために～（平成24年3月 文部科学省）
- ・一人一人の健やかな成長をめざして 杉並区の特別支援教育（平成24年3月 杉並区教育委員会）
- ・就学前教育カリキュラム（平成23年3月 東京都教育委員会）
- ・就学前教育プログラム—就学前教育と小学校教育との円滑な接続のための保育所、幼稚園と小学校との連携の方策—（平成22年3月 東京都教育委員会）
- ・就学前教育カリキュラム活用ハンドブック（平成25年3月 東京都教育委員会）
- ・平成21・22・23年度 就学前教育プログラム及び就学前教育カリキュラム実証研究事業<3年次報告>（平成24年3月 東京都教育委員会）
- ・～保幼小ジョイント期カリキュラム～しっかり学ぶしながわっこ（平成22年10月 品川区）
- ・保育園・幼稚園と小学校をつなぐ乳幼児教育 改訂のびのび育つしながわっこ（平成23年12月 品川区）
- ・～横浜版 接続期カリキュラム～育ちと学びをつなぐ（平成24年3月 横浜市こども青少年局・横浜市教育委員会）
- ・未来を拓くころざし 育て、下町っ子 台東区幼児教育共通カリキュラム ちいさな芽（平成23年1月 台東区教育委員会）
- ・未来を拓くころざし 育て、下町っ子 台東区幼児教育共通カリキュラム ちいさな芽増補版（平成24年1月 台東区教育委員会）
- ・☆きらきら0年生応援プロジェクト☆<北区>保幼小交流プログラム 保幼小接続期カリキュラム—接続期の教育の充実を目指して—（平成25年3月 北区教育委員会）
- ・☆きらきら0年生応援プロジェクト☆保幼小連携実践報告書=交流活動・交流事業を通して=（平成24年2月 北区教育委員会）
- ・渋谷区幼児教育プログラム（平成23年3月 渋谷区教育委員会）
- ・足立っ子すくすくガイド—学びの基礎力を培う乳幼児期を充実したものとするために—（平成21年11月 足立区・足立区教育委員会）
- ・育てよう！ 生きる力 つながる力～幼児期と小学校をつなぐプログラム～（平成23年2月 墨田区）
- ・江東区保幼小連携教育プログラム「江東のこどもたち」の育ちをつなぐ（平成24年1月 江東区教育委員会）
- ・ひのっ子 就学前コアカリキュラム～ひのっ子が安心して就学できるように～（平成18年3月 日野市教育委員会）

- ・平成16・17年度 文部科学省研究指定「新しい幼児教育の在り方に関する調査研究」実践事例集 ひのっ子就学前コアカリキュラムに基づく事例と保育カウンセラーの事例（平成18年3月 日野市教育委員会）
- ・「接続期プログラム」～幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指して～（平成24年3月 埼玉県教育委員会）
- ・「接続期プログラム」実践事例集～幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指して～（平成25年3月 埼玉県教育委員会）
- ・ひめじ保幼小連携教育カリキュラム つなげよう子どもの育ちと学びを 感じる心・考え伝える力・元気な体 未来にはばたけ姫路っ子（平成23年12月 姫路市教育委員会）
- ・ひめじし保幼小連携教育カリキュラム活用リーフレット つなげよう子どもの「育ち」と「学び」を（平成24年12月 姫路市教育委員会）
- ・姫路市幼児教育共通カリキュラム つなげよう幼児の育ちを小学校へ 感じる心・伝える力・元気な体 未来にはばたけ姫路っ子（平成21年1月 姫路市教育委員会）
- ・生活と学びの幼小カリキュラム「あんじょう」～なめらかな接続をめざして～（平成21年3月 柏原市教育委員会）
- ・育ちと学びをつなぐー幼児教育界スタンダードカリキュラムー（平成23年2月 堺市教育委員会）
- ・高松っ子いきいきプラン 夢中になって遊び 豊かな心と体を育む～たのしさいっぱい かがやく瞳で まあるい心と つよい体の 高松っ子～（平成23年2月 高松市・高松市教育委員会）
- ・平成22年度版「えがお」「わくわく」幼稚園・保育園から小学校へ 接続期の教育 ～安心感をもち、学ぶ意欲のある子ども～（平成21年11月 佐賀市教育委員会 幼保小の接続を考える会）
- ・保幼小連携接続カリキュラム（平成24年12月 佐世保市）
- ・保育用語辞典 第7版（森上史朗、柏女霊峰編著 ミネルヴァ書房）
- ・幼稚園じほう（全国国公立幼稚園長会）
- ・今日から明日へつながる保育―体験の多様性・関連性をめざした保育の実践と理論―（河邊貴子・赤石元子監修 東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎編集 萌文書林）
- ・遊びを中心とした保育―保育記録から読み解く「援助」と「展開」―（河邊貴子著 萌文書林）
- ・こうすればうまくいく！ 幼稚園・保育所と小学校の連携ポイント（篠原孝子・田村 学編著 ぎょうせい）
- ・これからの幼児教育（ベネッセ次世代育成研究所）

杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム
ぐんぐん伸びる すぎなみの子
～かかわる つながる ふかまる育ちと学び～

平成 26 年 3 月発行

登録印刷物番号

25 — 0133

編集・発行 杉並区立済美教育センター
〒166 - 0013 杉並区堀ノ内二丁目 5 番 26 号
電話 03 - 3311 - 0021

支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並